# 読書科学

第14巻 第3.4号 (通巻 第53.54号)

昭和46年10月20日発行(季刊)

### 研究発表

読書指導の基本問題(1) 昭和前期わが国のよみの場の発展 小学校読書指導計画の作成 読書興味テストへの期待 年報(読書に関する文献 1969—1970) 海外情報 1969, 1970 增田 信一 清水 正男 水野寿美子 阪本 一郎

高木 和子

53.54

日本読書学会

### ◇本 号 目 次 ◇

### 原 著

読書指導の基本問題(1)「読むこと」について

東京学芸大学付属大泉中学校 増 田 信 一 69

昭和前期わが国のよみの場の発展について

一とくに児童図書目録と児童図書件名標目表 信州大学 清 水 正 男 77 小学校読書指導計画作製にあたっての一つの試み

小金井市立前原小学校 水 野 寿美子 82

### 資料

読書興味テストへの期待

日本女子大学 阪本一郎 96

### 年 報

読書に関する文献 1969~1970

100

1. 一般

2. 心理学・生理学

3. 国語教育

4. 読解指導

5. 読書指導

6. 文学教育

7. 読み物研究

8. 授業研究

海外情報

高 木 和 子 130

会報

133

### 本誌への寄稿について

- 1. 本誌への寄稿は、原則として本会会員または会員が共同研究者となっているグループに限る。
- 2. 会員になるには、1年分の会費(1,500円)を添えて学会へ申込めばよい。(1年分の機関誌が配布され、研究大会で発表することができるなどの特典がある。)
- 3. 原稿は横書きとし、標題・所属・氏名に対する英文を添えること、英訳を学会に任せる場合は読み誤りやすい漢字に振りがなをつけること。
- 4. 図版の原図は正確なものを添えること。学会に製図をゆだねるときは、その実費を負担すること。
- 5. 原稿は編集委員会の選考によって掲載される。多少添削を加えることがあるが、大きな変更を加える時は筆者に相談する。
- 6. 原稿執筆者に対しては,掲載誌10部を贈呈する。
- 7. 本誌掲載の論文を、無断で複製及び転載することを禁ずる。

### 読書指導の基本問題([)\*

### 「読むこと」について

### 東京学芸大学附属大泉中学校

增 田 信 一\*\*

### 一読みの意味

### 1. 従来考えられてきた読みの意味

「読みの意味」については、これまでいろいろな考え方があった。国語教育の世界では、「文章に書かれていることを正しく理解すること、書かれている内容を鑑賞すること」という考え方が長い間支配的であった。そして、書き手(文章)は絶対者的な存在として読み手に対し、読み手は書かれていることをいかにして正しく理解し味わうかということに、指導の重点が置かれていたのである。明治時代の訓話注釈に重点を置いた指導も、大正から昭和にかけての教材研究的な方法に重点をおいた指導も、この考え方に立っていた。

一方においては、もっと進んだ考え方も存在した。垣 内松三は、名著『国語の力』で、

「もし我々の読方が文字を視て精しく考へることから、我々自身を高めることでなければ、読むことは個性を生ひ立たすことでもなく、文化を深めることにもなり得ないであろう。同書(4ページ)」

と述べている。まととに卓見である。「自己を読む」を 力説した芦田恵之助の考えもその根本においては、たい へん優れている。しかし、この優れた考えは、国語教育 の現場では、長い間生かされなかった。垣内松三自身 が、「読方の目的は読む方法を辨へそれを精練すること

- \* Some comments on reading guidance (I)
- \*\* MASUDA, Shinichi (Oizumi Junior High School Attached to Tokyo Gakugei University)

である (同書59ページ)」と言っている し, 芦田恵之助 も,

「読み方教授は自己を読ませるのが目的である。自己を読むとは他人の文章によって、種々の思想を自己の内界に画き、未知の真理を発見しては之を喜び、悲哀の事実には同情の涙をそそぎ、かくして自己の覚醒せらるるを楽しむ義である。(「読み方教授」65ページ)」

とっ言ている。両者とも、読み手の主体的な思想活動に ついては、積極的な発言がない。前者には読解指導的な 方向性があるし、後者には消極的な鑑賞指導的な方向性 がうかがえる。いずれも、読み手よりも書かれた文章に 比重が置かれていたのである。

このことは、当時の国語教科書教材のあり方と大きな関係がある。学習者にとって難解過ぎる教材文に対しては、どうしても解釈する作業の比重が大きくなる。また、文章そのものの内容的な高さが、文章と読み手との関係を一種の主従的な関係に置かざるを得なかったのである。昭和前期の石山修平の「通読・精読・味読」論も西尾実の「主題・構想・叙述」論も、この傾向に拍車をかける役割を果したのである。

このような読みの指導が、国語教育の前進を遅らせて いる現実をはっきりと自覚しなくては、これからの読み の指導はつまらないものになってしまうだろう。

戦後、国語教科書教材のあり方が根本的に変わったのに、もし旧態依然たる指導方法が実施されるとしたら、 これは大きな問題である。あくまでも、読み手を主体と

人間や、学習意欲のない人間ばかりを育てることになり かねない。

#### 2. 現在の一般的な読みの意味

現行の『玉川児童百科大辞典』の国語編の「読むとい うこと」という項目には,

「読むということは、文字によって表現された一つ のまとまりである文章や作品を目で見て理解するこ とである。ただ読むだけでなく、書かれていること の意味を読んでわかることが必要である。それで, <読解>ともいわれている。

読むという語は、文字を見て理解するというよう に使われるほか、文字を声に出して音声化すること にも使われる。

しかし、ここでは"読む"ということを、文章や 作品の理解ということにする。そして、文章や作品 が読み手に伝えようとしている内容を、できるだけ 正しくつかんでいくことである(同書53ページ)」

とある。文字を音声化することは、『言海』の、「呼ぶ」 から「読む」がきたのではないかという記述からうなず けることである。しかし、「文章や作品の理解」だけに 「読むこと」を限定しているのはうなずけない。前近代 的な幼稚な考え方そのままであるといってよいと思う。

一方、岩波書店発行の『広辞苑』には、「よみ」の意 味として

- ① 読むこと。読みかた。また、読む人。
- ② 漢字を国語にあててよむこと。
- ③ 読点(とうてん)。
- ④ 囲碁・将棋などで、今後の手順・変化を考えると と。
- ⑥ 転じて、物事の真相やなりゆき、人の心中などに 対する洞察力。「――の深いやり方」

とある。①は、文章を読みとることで、これまでの「読 みの意味」の中核をなしてきたものである。④は、これ まであまり取り上げられてこなかったけれども、大切な 内容を含んでいる。⑤は、昭和44年に発行された第二版

した学習方法を実施していかなくては、読むことを嫌う に付け加えられたものであり、それまでの第一版にはな かったのである。「洞察力」は④とも大きな関連を持つ が、第一版が出てからわずか十数年で、このような付け 加えがあった事情は、編集担当者に直接聞かなくては不 明だが、たいへんおもしろいことだと思う。この十数年 の間に、「よみ」についての考え方が深まってきている ことを端的に示していると考えてよいだろう。

> 輿水実は、『国語教育用語辞典』で、「読み」の意味 について,

「最広義では物事の意味を知ること。記号に対する 反応,特に文字・文章の読みは,「ことば」の知覚 を基礎として,考えること,想像すること,推理す ること, 問題を解決すること, 判断すること, 評価 することなどをふくむ。(同書225ページ)」

と言っている。この中には、単なる「理解すること、解 釈すること」は、ことばとしては出されていない。ここ では、もっと深い根本的な意味で書かれているのであ り、注目すべき内容である。

### 3. 私の考える「読みの意味」

子どもたちがじゃんけんするようすをじっくり観察す ると、おもしろいことに気が付く。子どもにとって重大 な決定をするときのじゃんけんは、その前に自分の気持 ちを静めて、相手のようすをじろりと見すえて、その上 で, じっくりと自分の態度を決めてから, じゃんけんが 始まる。この間に行なわれる行動は、すべて「読みの活 動」である。

私はときどき囲碁をたしなむが、私の囲碁における一 手一手についての「読み」を分析的に考えてみる。

- ① 次に自分はどういう手を打ったらよいか考える。 (次の手に対する読み)
- ② この手に対して相手がどういう反応を示すか考え る。(相手に対する読み)
- ③ この手が次にどのように展開し、発展して、囲碁 全体の中でどのような意味を持つか考える。(大局 に対する読み)
- ④ 自分の心理状態と相手の心理状態・周囲の条件や

時間的条件などについて考える。(心理面に対する読み)

いちおう四つの過程に分けたが、それぞれが複雑に作用し合って、いくつもの手を考え、その結果やっと一つの手が決まる。これらの読みには、「想像・推理・判断・評価」などがいつもつきまとうが、このような複雑な読みの結果が、よい手であるかは疑問な場合が多い。

私自身, ざる碁であるから, 囲碁の専門家の読みはもっと複雑で深いものだろうと思う。囲碁の初心者は, ① ②の段階だけでやめてしまう。これは, 読みが浅い証拠である。これと同様なことが, 文章を読む場合にも当然言えるだろう。子どもの読みの内容とおとなの読みの内容と比較してみれば, 明らかなことである。

このことは、囲碁のような勝負事だけでなく、人間関係においても、当然必要なことである。たとえば、恋愛的な感情で交際しようとする時を想像してみても、きわめて明白なことである。「読み」は、人間にとってもっとも基本的な性質のものであり、読み手自身の思考と判断にもとづいた行動を決定づけていく。「読み」によって人間はより確かな行動をするようになるし、大きく成長していく。このような「読み」は、行動そのものであるとさえいってよいだろう。

「文章の読み」も根本的には同じことがいえる。だから、文章の文字づらを表面的に理解する程度の読みは、「読み」としてはきわめて低次元のものであり、初歩的で未熟なものであって、先にあげた囲碁の読みにおける
②②の程度のものにしかすぎない。

ところが、現実の児童や生徒には、このような力が十分には身についていないために、「読みの指導」を重点的に実施することが必要になってくるのだ。

読みによる主体的な行動は、当然読み手の人間的な成長としての自己変革を促すことになる。読むという作業は、表面的には文章に書かれた内容を読み取ることであるが、それを内面的につきつめていくと、自分自身をどのように変革させ、人間的に成長させていくかということになる。このことを徹底させなければ、ほんとうの

「読み」の活動は達成されないのである。この指導は、 すべての教師が心がけるべきであるが、特に国語科の教 師にとっては、もっとも大切な本質的な指導であること を忘れてはならない。

### 二 読みの過程の分析

「読み」の過程の分析については、かなり以前から、いろいろの人の説や発言があった。それらを整理して、私は次の五つの過程にまとめている。論を進めるにあたって、できるだけ具体的に述べるために、太宰治の『走れメロス』を例にあげることにする。

#### 1. 文字や語句を認知する過程

文章を読み進めていくに あたって、最初にする作業は、ひとつひとつの文字や記号を認知する過程である。 それぞれの文字や記号を見て、これまで身につけた文字力や語い力などを念頭に置きながら、それぞれの文字や記号を客観的に判断して決めていく段階である。ここでは、読み手の眼球運動とその停留の状態、視覚神経から視覚中枢に伝達し、文字を文字として判断する活動が行なわれる。

文字や記号を認知する働きは、知覚作用であり、一つ一つの概念をはっきりさせていく活動であって、あまり思考を伴わない活動である。「あまり」というのは、漢語句の意味をとらえるのに、多少複雑な認知の過程を通過しなければならない場合があるからである。この場合には、どうしても多少の思考活動を伴うことになる。

メロスは激怒した。必ず、かの邪智暴虐の王を除 かなければならぬと決意した。

これは、『走れメロス』の冒頭の文章である。中学生がこの文章に接して、読み手が最初に意識することばは、「メロス」と「激怒」である。「メ・ロ・ス」という三つのカタカナの文字から、この作品の主人公メロスであることを判断する。続いて、「激・怒」という二つの漢字に注目し、その意味内容を考える。「激怒」ということばは、あまり一般的ではないから、瞬間的には判断しかねるが、「激」から「はげしい」、「怒」から「お

こる」という意味を連想し、「激しく怒ることだ」と決める。そうすることによって、「メロスは激怒した。」のひとつひとつの文字と意味内容を把握するのである。

次に、「邪智暴虐」の四つの漢字に注目するが、瞬間的には、意味内容がほとんどつかめない。しばらく迷ったあげく、「邪智暴虐」の意味を考えることをあきらめるか、「邪・暴」の二つの漢字から漠然と「良くないことだ」という程度の判断をくだして、そこを通過するだろう。そして、「王を除かねばならぬ」と「決意した」の文字集団からその意味を判断し、ひとつひとつの文字を、文字として確認し、単語として認定していく。

以上の分析は、中学二年の標準的な段階の読み手を例に上げた。読む力は、個人によって異なるから、どこで 眼球運動が停留し、どの文字をきっかけにして、その意 味内容を把握するか一定していないが、おおよそ一般的 には、上の例のようになると考えてよいだろう。

日本語の文章は、漢字による語句がかなり重要な位置を占めているので、その文の中にある漢語の意味がわからないと、一つ一つの文字を認知するわけにはいかない。読み手の頭の中では、眼球運動によって一つ一つの文字を追うのと同時に、文字集団である単語をとらえる。この二つの作業が関連し合って、その結果として、それぞれの表現が読み手に認知されるのである。

この過程においては、読み手がこれまでに蓄積した文字力や語い力が大きく働くので、これらの力がどれだけ 蓄積されているかによって、読む速さや認知する内容の 確かさが異ってくる。

### 2. 文章の表現内容を理解する過程

一つ一つの文字や単語を、読み手自身が納得のいくものとして判断し認知する作業が一段落すると、今度は、一つの文の意味内容を考え、その結果、判断をくだし、その次の文との関係を考えていく。さらに、一つ一つの段落に書かれている内容を理解し、それを文章全体に及ぼしていくのである。

この過程は、従来の国語教育の読みの指導において、 もっとも重視されてきた読解作業の過程である。読み手

が文章を理解する上で、いちばん時間がかかり、労力を要する。読書活動においても、この段階での読み手の活動はきわめて重要であり、この読解作業をないがしろにすると、その後の活動が内容の伴わないものになってしまう。

読書指導においては、これから先の過程が指導の中心となるから、この過程の指導は、読書指導以前の課題として、読解指導の場で十分に指導を加えておく必要がある。義務教育9年間の間に、国語科の読みの指導に費される時間は非常に多く、読解指導に当てられる時間もたくさんあるわけだから、その中で計画的に積み上げていけば、かなりの読解力がつくはずである。この場合、同一の教材で読解指導と読書指導を両方とも重点的に実施するわけではないから、日常の読解指導による読解力がいかに効果的に転移するかということが問題なのだ。

しかし、読解指導ばかりを徹底したとしても、教科書 教材と、児童・生徒が取り組む読書材とでは、かなりへ だたりがあるから、教科書教材で学習したことが、そっ くり読書活動に役立つとは限らない。特に、長い文章を 読み取って、その意味内容を全体的につかむ力は、教科 書学習においては身につきにくい。従って、読書指導に おいても、作品全体の意味内容を正しく速くつかむ力を 根気強く養っていかなければならないだろう。

「表現内容を理解する過程」を効果的に通過させるためには、あらすじをつかむ力・段落相互の関係をつかむ力・要点をつかんだり要約する力・作者の意図や作品の主題をつかむ力などの読解技能を十分に身につけさせておかなくてはならない。

### 3. 文章の内容を感情的に判断する過程

文章に書かれていることを理解する活動が一段落する と,その文章全体について,読み手の感動や学び取った 知識や疑問な点や反発したい点などを一つ一つ取り上げ て,それぞれについて読み手自身の判断をくだす活動が 始まる。

1と2の過程は、どうしても書かれている文章のほうが、読み手よりも強い立場にあたるために、読み手は受

動的な立場に置かれていた。表現を認知して理解する活動においては、読み手が文章を離れることは許されない。そのために、思考作用よりも知覚作用に大きな比重がかけられていたが、この過程になると、思考作用が強くなり、読み手と文章との関係は逆転し、読み手は思う存分に自己の思考活動を展開するようになる。

先に例に引いた『走れメロス』の中で、メロスが妹の 結婚式を済ませて帰る途中、山賊と格闘し、疲れきって 倒れて寝てしまう部分がある。眠りに落ちながらメロス の心は自責の念にかられて、自分を嘆き苦しむ。その挙 句、次のようなことを考える。

私は負けたのだ。だらしがない。笑ってくれ。王 は私に、ちょっとおくれてこい、と耳うちした。お くれたら、身代りを殺して、私を助けてくれると約 束した。私は王の卑劣を憎んだ。けれども、今にな ってみると、私は王の言うままになっている。私 は、おくれていくだろう。王は、ひとり合点して私 を笑い、そうしてこともなく私を放免するだろう。

この部分に対する読み手の反応はいくつにも分れる。「メロスはどうしたのだろう。はやく立ち直ってくれないかなあ。メロスがこのままつぶれてしまう は ず が ない。」と考える者もいる。「これだけがんばったんだから仕方ない。メロスも人間だし、スーパーマンではない。」と考える者もいる。「もともとメロスは激しやすく自分本位で、駄目な奴なんだ。」と考える者もいる。

このような各人各様の考えは、それぞれ各人の思考作用を伴っている。しかし、多分に感情的なものであり、文章に書かれていることを正しく理解しないままに、瞬間的な判断から出てくる場合が多い。読書活動においては、このような感情的な受けとり方も大切なものの一つである。瞬間的な判断を養わせる指導も見落してはならない。国語科の授業では、この面の指導がどうしても欠けがちである。

読み手自身が、読みとった内容について判断をくだす のには、いくつかの段階がある。その出発点となるの が、この感情的で瞬間的な判断なのである。この段階を 経た後に、メロスが倒れてしまってから考え続けたことの全体的な把握の中で、先に引用した部分について検討し、判断をくだす段階がくる。このような段階を一つ一つ経過することによって、「メロスは駄目な奴なんだ。」というような意見は解消されていくはずである。

瞬間的な判断は、特定の部分だけによってもたらされる場合が多い。それをそのままにしておかないで、文章全体との関係において、その部分がどういう関係にあるのか把握させることが必要であり、前後のつながりを有機的にとらえさせる活動を通して、瞬間的な判断が、全体的な見通しに立った価値のある判断に変わっていくのである。瞬間的な判断が、文章に書かれている事柄によって正しく裏づけられ、証明されることによって、より確かな読み手の判断に成長していくはずであり、この活動を充実させることが、この過程における指導の中心にならなくてはならない。

従来の国語教育においては、文章に書かれていることを正しく読みとらせるためには、読み手は、無心に、忠 実に、文章理解に努めるべきであるという考え方が根強 く存在していた。このような考え方と、私がこれまで述 べてきた考え方とでは、正面から対立する。

読み手がその文章に刺激されて、感動したり、反発したり、好き嫌いの感情をもつのは、読み手が文章に接した瞬間の出来事であり、瞬間的な判断であると、私は思う。決して、文章をていねいに理解した後に生まれ出てくるものではないのだ。

このことは、パブロフの信号論「第二信号系理論」に よって明らかにされている。人間の感情が具体的な事物 や出来事に刺激されて反応するのは第一次信号系であ り、文章によって読み手の感情を刺激されるのは第二次 信号系である。書き手が文章に表わした第二次信号は、 書き手の全人的な思想や感情に裏づけられた第一次信 号に基づいており、読み手は自分の全人的な思想や感情 に裏づけられた第一次信号によってそれを受け止めるの である。この場合、書き手と読み手のそれぞれの第一次 信号が対決し、反応し合って、その産物として読み手の

判断がくだされるのである。

書き手と読み手との対決については、私は、読み手と作品との対話という形で考えている。このことについては、日本読書学会の『読書科学47・48合併号』に、「読書指導と鑑賞指導」(50~56ページ)の中で詳しく述べてあるので参照していただきたい。

### 4. 読み手が理性的に行動する過程

読みの活動の中心は、読み手が読み取ったことに対して、自分自身の考え方や感情をより高めより深めていくところにある。このことについては、前節で詳しく述べたとおりである。

読み手が文章から読み取ったことについて判断をくだす活動は、読み手の行動を促すキッカケとなる。文章を読むという活動は、読み手自身の主体的で目的的な活動であるから、問題を解決するためのものである。読む前から問題を持っている場合も、読み始めてから問題を持つ場合も、読み進めていく過程の中で自問自答し、文章と読み手との対決を深めて行くことによって、前に出された問題がより深められ、変更されて行き、問題に対する答えが豊かなものになっていく。自分で問題を出し、自分で理性的にその答えを見つけ出していく過程において、読み手はこれまでの自分とは違った感情や思考を持つようになり、その新しい感情や思考によって自分自身の行動を決定し、行動していくようになる。

『走れメロス』を読むことによって、メロスの人間像について冷静に理解し、自分自身の力で判断したことによって、自分自身の友情に対する考え方や、真実に対する考え方・信頼に対する考え方などがはっきりと変わり、または、自分の考えに自信を深め、その結果の産物として、友達に対する接し方や考え方が変わっていく。さらには、『走れメロス』によって得た新しい考え方や新しい行動力が、実際生活の中で他の事柄に転移して、適応する力となってくれる。

ての転移こそが読みの活動のもっとも中心であり、この過程がじゅうぶんに達成されなければ、「読む」という活動が円滑に行なわれたとはいえない。

従来の国語教育では、この段階での指導はほとんど行なわれてこなかった。国語教育の世界だけでなく、「読みは行動である」とする考え方が教育界で弱かったために、国語科における読書指導は、国語科の本質的な存在ではなく、余技的で発展的な存在として扱われる傾向が強かった。学習指導要領が改訂されて、国語科の中で読書指導が本質的な存在として明確に位置づけられた今日でも、発展的な面に比重を置いて読書指導を進めていこうとする人がかなり実在することは、問題であると思う。

ひとりひとりの児童や生徒が一年間に読む読書の量は かなり多いが、それぞれの読書が、「読みは行動である」 ことをしっかりとふまえて本格的な読みの活動を体験す る場合と、単に余暇利用か、課題意識だけで読み過ごし てしまう場合とでは、人格形成上根本的にその内容が変 わってしまうだろう。

### 5. 自己を確立する過程

主体的で目的的な読みの活動は、人間を大きく成長させていくが、「読み」によって自己をどのように確立していったかは、その読みの価値を決定する。自己評価という活動は、それぞれの過程でなされるが、この過程における自己評価はとくに大切なものである。

主体的な読みの活動ができない場合には、自己を確立 することは全然望めない。旧来の読みの指導では、学習 者を作品に近づけることに重点があったから、読み手の 自己を確立することなどは、とてもおぼつかなかった。 現在でも、このような「読み」しかできない人間が存在 しているのは、考えなくてはならないことであろう。

読みによって自己を確立していく型は、大きく三つに分けることができる。その第一は、自分の中に読み取ったことを同化してしまう場合である。この場合には、メロスの生き方に賛成して、自分の心の中にメロスを住まわせようと努力する。読みとしては比較的に低次元の段階である。第二は、読みによって得たものによって自己変革をしていく場合である。メロスの生き方に接することによってこれまでの自分の生き方を反省して、自分の

たりないところを補おうとしたり、自分の心のせまさや ものの見方の浅さに気づいて、自分を変えようとする。 第三は、あくまでも自分と作品とを対立させ、深く深く 考えて批判していく場合である。メロスを批判すること によって、自分もこれまでの自分とは違った高まった存 在になっていく。かなり高次元の段階である。

このような自己を確立していく過程は、読みの完成段階である。読み手の発達段階や読書材によって、上記の自己確立の型も異なってくる。読書材そのものが興味本位のものであったり、難解すぎる内容であったりすると、読みによって自己を確立することは不可能になってしまうので、指導者はこの点に留意しなくてはならない。読みの指導についての全体計画がよほどしっかりしていないと、実のある優れた学習を持たせることは望めなくなってしまうだろう。

この指導を徹底させるためには、読み手自身の目標をはっきりと自覚させ、それにもとづいて文章との対決を深めさせ、自問自答が深められていく活動を円滑に進めさせることが必要である。それと同時に、この教材(読書材)では、どの範囲のことがどの程度達成されればよいか、ある程度の共通理解を持たせてやることも、大切なことであろう。

読書指導は、学習者の読む活動が中心だから指導者は 大きく手を抜けるというのは誤りで、それ相応の苦心が 必要なわけである。

### 三 読みの指導の重点

### 1. 「読みの意味」をふまえた指導を

この数年間,国語教育の読みの指導の分野では、「読書指導」と「読解指導」の領域争いが活発に行なわれてきた。その中には、議論のための議論としか考えられない論もあった。しかし、決め手となるような意見はなかなかみつからないままに、時間が経過してきた。

私は、「読みの意味」を考えていく中で、両者の関係 を明らかにしていくことが可能であると思う。読みは行 動であり、主体的な読みの行動は、読み手の人間的な成 長としての自己変革を促していくことは、すでに述べて きた。

ことでいう「読み」は、「読書活動」のことである。 あくまでも、読み手の主体的な活動が中心なのである。 「読みの指導」という場合も、「読書活動をどのように 指導していくか」ということが中心の話題になるはずで ある。したがって、学習者が学習材と直接対決し、その 対決活動を援助し促進させていくのが指導者の役割であ るということが、国語教師の間で、はっきりと自覚され ていかなくてはならない。

この考えの土台には、「教師中心」ではなく、「学習者中心」の考え方がある。私は、毎年教育実習生と接するたびに、まだまだ「教師中心」の考え方の強いのに驚く。「計画したとおりに授業ができたか」ということを重くみることは、教師を主人公とした考え方であり、学習者は脇役であり、受益者的な立場にしか置かれていない。この考え方では、「指導」ということが前面に出過ぎてしまう。読みの指導においては、「指導」よりも「読書活動」が前面に出るべきであり、その読書活動をいかにして効果的に展開していくか、側面から援助してやるのが、指導者のもっとも力を注ぐべき点であるはずである。

「教育実習生」という立場は、きわめて特種な存在であるが、このことは現場の教師の間にも、かなり実在すると思われる。「教師中心」の立場に立つと、どうしても「読解指導」的な面が強調されてしまう。しかも、それは読解指導そのものが、本質的にめがけているものではなく、悪い意味での「教授」的な面が強く出ることになってしまう。

教師の教え込もうとする姿勢が強過ぎると、学習者の「主体的な読書活動」は期待できなくなってしまう。もちろん、教師の指導助言は必要不可欠なものであり、適切な指導が加えられなくては、中味の濃い学習は達成できないのではあるが、その指導はそれぞれの発達段階にある児童や生徒の学習に対する意欲を助長するものでなくてはならない。その上で始めて、有効な読みの学習が

展開されるのである。

### 2. 読みの五つの過程のバランスのとれた指導を

徒来の国語教育の中で、第二の「表現内容を理解する 過程」が極端に重視されてきたことは、すでに述べた。 その反面において、他の四つの過程の指導が不足してい たわけである。その結果、「読み」が生活の中で大きな 位置を占めない人間が数多く実在するようになってしま ったのだ。

五つの過程の中で、従来あまり取り上げられなかったのは、第四の「読み手が行動する過程」と第五の「自己を確立する過程」であろう。この二つの過程の指導を義務教育段階で徹底しないと、その後の人生全般にわたって、「読み」はあまり意味のないものになってしまうだろう。私の考えている「読みの学習」の中心は、この二つの過程にある。

このように述べてくると、第二の「表現内容を理解する過程」を軽視するのかという意見が出てくるかもしれないが、学習材が文章である以上、この過程を軽視するわけにはいかない。ただ、日常の学習指導の各場面で、

学習者の姿勢作りに努力していけば、それほど重点をおかなくても、文章表現を正しく理解していく力はかなり しっかりと身についてくる。

要するに、「読み」の活動は瞬間的なものであり、その瞬間的な短い時間に、五つの過程の活動が円滑に行なわれるように習慣づけてやることが、読みの指導のなすべきことである。そのためには、五つの過程のそれぞれについて、それぞれの技能養成をしっかりと積み重ねていく指導を徹底しておかなければ、「読み」は本来の意味を発揮することは出来ないし、「読み」を生活の中に効果的に生かすことも出来なくなってしまうであろう。ここに、「読みの指導」の眼目がある。

<注> この研究の「読みの過程の分析」をまとめるにあたって、

- Robinson, Helen M.: The Major Aspects of Reading (Robinson, H. M. ed. Reading: Seventy-Five Years of Progress. Univ. of Chicago Pres. 1966)
- Inovation and Change in Reading Instructions.
   (1968)

を参考にしたことを付記しておく。

### 昭和前期わが国のよみの場の発展について\*

### 一とくに児童図書目録と児童図書件名標目表一

信州大学

清 水 正 男\*\*

## 1. 課題としての昭和前期 わが国のよみ場の発展

昭和前期はわが国の児童のよみの場にとって大きな変化が持たれた時期であり、その意味においては特筆すべき時代となったと言えよう。

読みの場の大きな変革と発展とが、地味ではあるが漸次もたれ、いわゆる素朴で読み物中心のよみの場から、 広く児童の教育全般に奉仕する事が可能な態勢を持った よみの場、よみ物の場の形成がなされようとした。

それはその場に所蔵されている図書量の増加という課題だけではなく、収蔵されているところの図書の一冊一冊にまで教育的配慮が行き届き、利用の万全が図り得られるような研究が進められた事でもある。

したがって、従来の、必ずしも積極的ではない図書館利用者としての児童に、図書が「与えられた」という形をとったのに対して積極的に user に向って図書館・学校図書館の教育的な Extension をはかる一方、当時ようやく現場に渗透して来た教育の主体的活動重視の被に乗り、 user としての児童の側からの積極的な活動を期待し、かつその user の読書活動が進め易いようにし向けあるいはそれが可能な状態にしようとする傾向が見られる。

また明木小学校1) に見られる学校図書等に代表される

読みの場が公共図書館と共存するような、いわゆる社学 共存<sup>2)</sup> の児童の図書館のよみの場から、やや分化し高め られた形の、例えば山形小学校<sup>3)</sup> の例に見られるよう な、昭和前期の終期近く見られた、公共図書館色を極力 少くしてこどもの読みの場・学校図書館になろうという 傾向が見られる。

これらの新しい「よみの場」への発展を可能にした要因は多く数えられるであろう。その中で最も注目される,焦点的存在が実は児童図書を利用し易いように整理させた要件としての図書整理であり,中でも児童図書目録・辞書体目録に進もうとする意欲的な動きからであったところの児童図書件名目録であり,その為の児童件名標目表の開発などであったと見られる事も注目すべき事であろう。

ここでは児童生徒が積極的にしかも安心して読みの場 に臨み、整理された図書館資料を利用しえられる契機と なった図書資料整理の tool の標準化と標準化されたtool の存在等々を忘れてはならないように思われる。

近代的なよみの場としての学校図書館はこの様にして 生れて来たのであるが、このように新しいよみの場を生 む素地の有力な要因となったところの、児童図書目録・ 児童図書件名標目表についての検討は、学校図書館の発 展過程の研究にとっては不可避的要件と見てよいもので あろう。

学校図書館の発展過程に占めるこの課題の意味が大きいにもかかわらずこれを解明しようとする試みは殆んどなされていないのが実情であるが遺憾な事と言わねばな

<sup>\*</sup> Early Showa discussions on subject headings for juvenile catalogs in Japan.

<sup>\*\*</sup> SHIMIZU, Masao (Shinshu University)

るまい。

筆者はわが国の学校図書館の発展をその源に遡り、そ の姿を機能的に追究しようと努力して来た。そして昭和 前期の発展の姿の中にこの課題を見出すのである。

当時のよみの場としての図書館・学校図書館活動が低 次元的な試みではあったにせよ、それなりにわが国の学 校図書館発展に対するパイオニア的試みとしての此等に 対して、筆者はその姿を明らかにし発展過程に占めた重 要な存在を浮きぼりにしたいと思う。

### 2. 当時のわが国のよみの場の児童図書目録

仙田正 雄 は 昭 和8年に「児童ノタメノ図書目録必要 論」を L. Y. L. 機関誌「図書館研究」誌4) 上に発表し、 児童図書館及び児童図書館の図書目録について論じてい る。

児童図書館--公共図書館児童室・小学校図書室・文 庫など一切を含める――は、ある特定の読者階級と図書 を擁する点では特殊図書館であるかもしれないが、いわ ゆる図書館概念の外にある別個独立の教育体ではなくそ の一部分一分野として厳然とした教育的使命と能力を持 つ事は説明するまでもないとする。

児童のための図書館はまさに教育・学校教育にとって 不可欠な設備であると今日うたわれている点からもこれ は至言と言わねばなるまい。

もっとも仙田によれば、その児童図書館が何時その揺 籃をもったか「発達史如何ノ究明ニワー向資料ニ乏シイ 次第デアル」5)が、「児童図書ノ出版率ト読書欲トワ相因 果シテ加速度ニ増加向上シ他面教育上ニ於テ児童ノ自学 自習主義ノ伝播ト共ニ年々オ々児童ノ精神生活上ニ同書 ガ必須的条件ヲ具備シツツアルニモカカワラズコノ事実 ニ対スル児童図書館界ノ反影極メテ乏シキヲ以テシテモ 尠クトモコノ最近十年間ニ於ケル発達的ナ消息ハ一般公 共図書館ノソレニ比較シテ殆ンドブランクニ近イモノデ ハナカッタロウカ」6) としてわが国の児童図書館発展が 遅々としているとの所見を述べている。

ている事に対する指摘はまさに至言である。もっともこ の間、公共図書館の児童室、町村図書館の教室文庫など で時代の流れに影響され、明木小学校型のような社学共 存のいわゆる明木小型の発展等については否定し去って はいない事は当然であろうが、しかし児童図書館の漸増 状況および、児童の自主的学習尊重の風などからして現 状が余りにも児童図書館に無関心ではないかとの指摘は 肯定出来るものがある。

仙田は学校図書館不振の理由について、図書と児童を 結ぶ根本的契機である「児童ノタメノ図書目録」をとり あげ、これが一般的に備用されないだけでなく必要を感 じない様にさえ見える事からこの方面の新興運動はスロ ーテンポであると指摘している。彼はあくまでも成人の 場合と同様に児童図書目録の本質を略述し備用の必要不 可欠の所以を明らかにしようとしているのである。

この仙田の指摘のように当時は人によってはわざわざ 著書の中で児童図書目録の不要を述べ、また主張として も大いに児童図書目録不要論を論ずる者があったよう で、この論者に対しては仙田は決して許せないという心 境であった様である。

当時の図書館の図書目録について仙田は、児童図書館 数は相当あったのに図書目録を持つものは誠に寥々たる ものでむしろ皆無に等しい。その寥々の図書館の中には 分類目録と学習目録を持つものが数えられる。前者は、 shelf list 式で粗略な分類表を採用するに過ぎぬし材料 の分類が意にそまぬ、子供の能力から分類目録それ自体 児童のものでないと見られる。こんなところから目録不 要論が出るのであると仙田は主張している。

もっとも分類目録不要論即図書目録不要論とは言えな いものがある。またアマチュアの間に開架式即目録不要 論が見られる。open の図書に目録など必要ではないの ではないかとするものである。児童の図書目録を持たな い厳然たる事実が当時大いに存在していたのである。

学習目録はもちろん児童の学習を目的とする目録で、 主として教育上の自学自習主義あるいは学習主義に相呼 仙田のこの児童図書館観,とくにその発展の遅々とし 応して勃興して来た目録で小学校のカリキュラムに従い 自学能力を持つと見る学童の使用を標準にしている。この学習目録について仙田は批判をしてそのあり方を検討している。彼によれば学習目録には一応三者が考えられる。

- 1) 各教科書の各課題目を見出語に、教科書と全く同一 の配列・該当図書あるいは図書目次を求めて参考書を 記録したもの。
- 2) 如上の各科の題目を適当に件名標目化し五十音順に 整頓・当該件名関係図書を集録する方法。
- 3) 教科課題に拘泥せずに図書の実際に即して編成したいわゆる「件名目録」を試みるところのもの,

これらに対して仙田は目録批判をし、1)について賛意を表しかねるとしている。その理由を児童の読書世界を偏狭に限定し出来るだけ多角的な用途に順応し得られる融通性を持たせずただ一方的な用途にのみ備えた図書目録はそれ以外の用途への活用を無視する点、目録価値に自ら限定を加える事により更に教育上勃興した自学自習主義ないしは学習主義に照しても学習材料が単なる教科書にのみ限定さるべきでなく、教科書と一般図書の連続に大きな意味があるという。それだのにそれが全く考慮されぬ学習目録には賛意を表しかねるとする。

2)についても主題範囲について教科書以上に出ないとの理由で仙田はとらないとする。

書の読者として児童・親たち・小学校教師・図書館員その他児童教育関係者をあげこれらの読者に対して「公平ニ手間ト時間ヲカケナイデ最モ経済的ニ効果的ニ所要ヲ満足セシメウルコトヲ以テ目的トシナケレバナラナイ・・・・・・」」。とし、さらに、児童図書は一般に特殊題目について専門的に研究叙述するものは稀で一般的かつ概括題目を以て図書を形成する場合が大部分である。児童自身の図書検索能力・傾向は分類能力の未熟さを挙げる事ができようとする。この様な点からこどもの図書目録は、1)児童のためのもの、2)簡単明瞭なもの、3)図書内容が必要に応じ適切自由に分析記入可能、4)成人目録の方法と根本において同一歩調で行く、等々をあげている。これ

らの条件から仙田は必要目録についての結論づけをし辞 書体目録をあげ、「是ニ対スル答ハ簡明……日ク『辞書 体目録ノ採用』<sup>8)</sup>であるとしている。

児童のための目録は彼の表現に従えば「自由奔放ナル 想像トモユルガ如キ知識欲ヲモツ幼キ人達ノタメノ読書 上ノマスタキー」<sup>9)</sup> であり、これを怠った目録を欠いた 読書奨励は「興味本位以上ニ出ズル能ハザルノミナラズ 漠然ヲ方法トスル読書奨励へノ一階段トモナル。児童ヲ シテ組織アル目的アル読書ヲ実行セシメンカ、目録ナシ ニ如何ニ果シウル?」<sup>10)</sup> として児童の読書に目録を与え る可きを主張する。

仙田の指摘にもあるように当時児童図書館で図書目録を持つものは殆んど皆無に近い実情の中で広い視野からその必要性を説いたこの論文はさすが、Elva S. Smithの "Subject headings for children's book (1933, A. L. A.)"中の所論を「随所ニ引用シタコトヲオ断リシマス」」いと仙田が解説するだけあって見ごたえがする。特に当時自学自習尊重の風がようやく教育論から現場の学習の中に滲透し生かされて来た時代であり然も児童・親・教師・図書館員等広く利用される図書館を考えた上の図書目録論であったと言えよう。

三宅千代二は、仙田の論を読んで、「児童図書目録要論」12)を「図書館研究」によせその中で当時の児童の読書傾向を「児童読書傾向調査」13)から立論し、当時のそれが童話物語類に偏している事を指摘し、「兎モ角モ児童ノ読書が真二興味本位二進ミシカモ読書ノ方法態度メ干渉ニ図書館員・小学校教師ノ介在セザル限リニ於テハ童話物語類ニ偏シナイデハヰラレナイノデアル……ヨムガママニ放任セバタダ感覚的ニ刺激ヲ追フ読書ト空虚ナ無内容ノ観念的読書トナリ読書生活ヲ著シク害シテ来ル。児童図書目録ノ備付ハ之ヲ戒メルタメノ彼等ノ読書指導手段デアル。而シテ単ニ児童図書目録トイフトソレハ児童図書ノ所在ヲ明ラカニシテ彼等ノ興味ノ向クガママニコマセル施設ニスギナイガ、学習目録トハ読書趣味ノ深クナルコトニ必ズシモ健全ナル発達トハ見ナイ、即只形式的ニョムコトノミ興味ヲ持タシメサヘスレバョイ

ト考へル傾向ヲ警戒シタ所謂学習目録デアツテ真ノ人間 城長ノ糧トシテ読書経験ヲ誘導スル手引デアル」<sup>147</sup>とし て学習目録を位置づけようとしている。

### 3. 児童図書件名標目表

仙田正雄は如上の目録観からして, 「児童図書件名標 目表」<sup>15)</sup> を「図書館研究」(昭9.10) に発表 し, さらに 「補訂 児童図書件名標目表」<sup>16)</sup> を昭和17年に同雑誌に 発表している。

仙田の児童図書件名標目表はその「ハシガキ」<sup>17)</sup> によれば某小学校における児童の自習と教師の学習指導ならびに教材蒐集に便する児童図書目録用に企てたものであるが、同時に一般公共図書館における図書目録作業上のリストともなりえられようと心掛けたものとしている。

彼によれば、「年々歳々児童図書ノ版行夥シク、其ノ内容又各般ニ 亘 リテ、所謂児童読物が児童ノ精神生活上、重大ナル影響ヲ及ボシツ、アル他方、学校教育上ニ於イテモ、自学自習主義ヲ提唱セラル、コト久シク、然カモ斯カルニツノ事象ヲ結ビツケタ教育ノ道具トシテ適当ナル方法ノ講ゼラレザルヲ予テ遺憾ニ思ヒ、ソガ解決ノ具体的方法トシテ、構成内容ノ組織的ニシテ使用上ノ易簡ナル、児童ニトツテハ件名目録ノ編成ヲ以テ尤ナルモノトナシ、且斯カル図書目録ノ設備ナクバ、児童ノ読書教育ヲ完全ニスル能ワズ、トイフ確信ノモトニ自ラ揣ラズ努力ヲ試ミタモノデアル」18)としているように今世紀の特色たる教育の個性化尊重の立場に立ちながら人間自然開発のための自律学習への具体的方策として読書を考え、かつその方法として件名標目表・件名目録を考慮しているのである。

三宅千代二は「児童図書目録要論 付児童図書件名標目表(1)批判」<sup>19)</sup> の中で,仙田の以上の論文を読み感激した事をあげ「『児童図書件名標目表(1)』 ハ餓エタ 者へノ大キナ刺戟剤デアツテ之が動機トナツテ心ノ裡,何ダカ黎明ノ光が耀キ始メタ様ニ感ジテ貧シイ乍ラ一文ヲモノスル時ガキタ……」<sup>20)</sup> と記し彼の仙田批判の「児童図書目録要論」の動機を述べている。

そして「児童図書目録要論(2)」<sup>21)</sup> の「児童図書件名標目表(1)批判続」<sup>22)</sup> で述べているように仙田氏の標目表が実際問題として児童の利用価値に十分なものかどうか論じようとするものであるが、又同時にこれを全然無用のものとして排斥する考えは毛頭ないとその立場を明らかにしさらに極めて重要な提言をしている。

即ち「否ムシロ之ヲ仙田氏個人ノモノデナク公ノモノトシテ完成スルコトニ努力ヲ惜シマナイシ,又完成サレタ後ニ於テコノ目録ノ編成ト利用トヲ研究題目トシタイコトヲ考ヘルモノデアル」<sup>23)</sup> と述べているが,これは,森清のN.D.C.加藤宗厚のN.S.H.堀口貞子のN.C.R.等の標準化がL.Y.L.の会員中の上記の各ベテランから原案が示され,それを L.Y.L.がバックアップし共同研究によって遂に標準化を成功させた手法をとる事を暗示したものとも見られる。

仙田が「児童図書件名標目表」<sup>24)</sup> の「ハシガキ」の中で、当件名標目表の生い立ちのための関係参考文献を述べているように、彼のこの労作はすぐれた先輩に負っている。この事も仙田のこの事に生気を与える因をなしたものと見られる。仙田の参考とした件名標目表は、①日本件名標目表,加藤宗 厚著、②Subject headings for chidlren's, books by Elva S. Smith. ③Subject headings for juvenile catalogs, by Margaret Mann 等である。

仙田の労作が必ずしも三宅の希望した様に L.Y.L. のバックアップによってこれを三大 tool の様に処置する事は出来なかったようであるが、この労作は昭和前期の後半に山形の試行に見られるようにすぐれた学校図書館づくりへの契機となった事は注目してよいであろう。

注

- 1) 伊藤新一:「町村学校 図書館経営, 実際一村立明木図書館経営の実例」L.Y.L.「図書館研究」Vol. 3, pp. 129—202, pp. 319—352, pp. 473—511.
- 2) 小学校付設町村図書館のため、学校教育、社会教育両教 育併用。
- 3) 山形市男子国民学校:山形市男子国民学校図書館経営の 実際。

間宮不二雄:「山形市男子高等小学校文庫の整備」 L.Y. L.「図書館研究」 Vol. 13, pp. 135—141.

- 4) L.Y.L. 「図書館研究」Vol. 6, pp. 445-452.
- 5) 6) L.Y.L. 「図書館研究」Vol. 6, p. 445.
- 7) L.Y.L. 「図書館研究」Vol. 6, p. 450.
- 8) L.Y.L. 「図書館研究」Vol. 6, p. 451.
- 9) 10) 11) L.Y.L.「図書館研究」 Vol. 6, p. 452.
- 12) 三宅千代二:「児童図書目録要論付児童図書件名標 目表(1)批判」L.Y.L.「図書館研究」Vol. 7, pp. 441—450. 三宅千代二:「児童図書目録要論付児童図書件名 標 目表(2)批判」L.Y.L.「図書館研究」Vol. 8, pp. 73—80.

三宅千代二:「児童図書目録要論付児童図書件名 標 目表 (3)批判」L.Y.L.「図書館研究」Vol. 8, pp. 435—453.

13) L.Y.L. 「図書館研究」Vol. 8, p. 75. 「児童読書傾向調査」によれば、京都市小学校教員研究会(昭元)、愛媛県波止浜図書館(昭5)、東京市立日比谷図書館(昭6)、千葉県銚子市公正図書館(昭9)は、童話を76.4%、70.6%、58.7%、79.9%の者が接している。

- 14) L.Y.L.「図書館研究」 Vol. 8. p. 76.
- 15) 仙田正雄:「児童図書件名標目表」(1)L.Y.L. 「図書館研究」Vol. 7, pp.309—339.

仙田正雄:「児童図書件名標名表」(2)L.Y.L. 「図書館研究」Vol. 7, pp. 389—440.

仙田正雄:「児童図書件名標名表」(3)L.Y.L.「図書館研究」Vol. 8, pp. 55-68.

- 16) L.Y.L.「図書館研究」Vol. 15, pp. 263—280, pp. 345—438. 正誤表, Vol. 15, p. 468.
- 17) L.Y.L.「図書館研究」Vol. 7, pp. 309-310.
- 18) L.Y.L. 「図書館研究」Vol. 7, p. 309.
- 19) 12)と同じ。
- 20) L.Y.L. 「図書館研究」Vol. 7, p. 441.
- 21) L.Y.L. 「図書館研究」Vol. 8, pp. 73-78.
- 22) 23)L.Y.L. 「図書館研究 | Vol. 8, p. 77.
- 24) L.Y.L. 「図書館研究」Vol. 7, p. 310.

### 小学校読書指導計画作成に あたっての一つの試み\*

### ―学級担任のための指導計画―

### 小金井市立前原小学校

水 野 寿美子\*\*

読書指導計画の意義については昭和28年8月の学校図書館法の制定をまたずして、すでに一部では研究がすすめられていたようである。10年ひと昔と言えばふた昔も前からその必要性が考えられていたものを再びここに問題とすることは愚かなことのようであるが、学校図書館の歴史、あるいは読書指導の歴史をさぐるとき、今日またとり上げて考えなければならない時期に来ているように思える。そこで私はあえて新しくもないこの課題ととり組んでみたいと思うものである。

### 1. 歴史の流れの中でとらえる

まず、過去の学校図書館指導などに関する幾つかの文献の中から、読書指導計画について触れてあるものをとり出し、それらを眺めることによって当時の読書指導に対するさまざまな考え方をさぐりながら今日の読書指導計画のあり方などについて考えてみたい。

(1) 昭和23年11月刊行の「学校図書館の手引」(文部 省)をみると読書指導計画についてはとくに章を設けて はいないが「よりよき読書指導生活を築き上げて行くた めの問題」というところで、読書に計画性をもたせる必 要があるとして"読書のコースをこしらえて次第に高い ものに導いて行くことも必要である。これは個別的にや ると効果がある。"と書かれている。これは読書のコース

- \* Reading guidance program for primary levels.
- \*\* MIZUNO, Sumiko (Maehara Primary School, Koganei-city)

であって読書指導の計画とは直接関係はないともいえるが,他にも指導の具体例の中に指導目標が低・中・高別にあげられており,当時においても指導計画の有用性は考えられていたのではないかと思える。

- (2) 昭和34年「学校図書館運営の手びき」では、すべ ての面で総合された計画が必要であるとしてつぎのよう に言っている。 "図書館教育は教科・教科以外にわたる あらゆる指導の基礎となる指導面であるのでその内容と なるものは部分的にはこれらの指導の中に含まれて実際 に行なわれているものも少なくない。しかし図書館教育 を有意義に進めるためには前に述べた理由(組織的な指 導を行なうことによって読書活動が最も活発に行なわれ ることになり、学習指導と生活指導のあらゆる分野にお いて高い指導の効果を生むことになる) から総合的組織 的な指導計画を確立しておくことが必要である"と。こ こで図書館教育というのは学習指導における読書指導と 生活指導における読書指導との各領域にまたがって図書 と図書館の利用についての基礎的な指導を扱うものと定 義づけているが、二つの領域にわたる総合的、組織的な 指導計画は残念ながら見当たらない。
- (3) 昭和36年には教育課程が改訂され、その年の10月には文部省から「小中学校における学校図書館利用の手びき」が出ている。ここでは、読書指導計画はその領域や分担やくぎりが明確さを欠くために指導の計画がなおざりになりがちであるが、それだけに反って綿密な計画を要するといって、その必要性を強調している。文部省

は先の「学校図書館運営の手びき」並びに昭和35年刊行の「学校図書館における図書以外の資料の整理と利用」を3部作といっているが、たしかに利用指導というだけあって読書指導に関する記述も多く、読書指導計画については計画のたて方、立案上の留意点などが述べられている。その中でとくに心にとめておきたいことは、読書指導計画は児童が自主的、自発的に物ごとを思考したり課題を解決して行く能力や態度を育てて行くように立案されねばならないこと、また指導の場を学級や学校に限定せず広く家庭や地域にまで及ばすように計画されなければならないことなどである。

(4) 昭和38年になると文部省は「学校図書館の管理と 運用」を刊行し学校図書館の利用指導,学習の効果を高 めるための利用指導,読書指導の三分野に分けてそれぞ れの指導計画をたてている。読書指導計画については主 として学校全体の指導計画の中での時間的位置づけ,系 統化,組織化,実践性,学級文庫や学校図書館との関連 性などを力説している。図書館利用指導計画が分化した ことによって読書指導の領域がややはっきりしたため か,初めて東京都港区立高輪台小学校の年間計画例が掲 載されている。

(5) 昭和39年「学習に役立つ小学校図書館」――初等教育実験学校報告書(東京都大田区立田園調布小学校)――では教科利用指導と読書指導に二分し、読書指導時間を特設し、年間時数を固定して指導内容を十分に計画化することの意義を述べている。ここでは方法的には必修図書による指導と選定図書による指導、さらに自由読書の時間の指導というように内容の深化、拡充をはかっている。

(6) 昭和46年学習指導要領の改訂に伴い「小学校における図書館の利用指導」が編纂されたが、読書指導は国語科で、学校図書館の利用指導は特別活動の中の学級指導でとはっきり分かれたためか、図書館での読書指導は全くとり上げられていない。文部省とすれば今までとかく領域がはっきりせず、何かと問題になりがちだった読書指導の分野は国語科の中に封じ込め、国語科の目標を

達成させるための読書指導というようにはっきりと限界を決めておいて学校図書館から切り離してしまったということはまことにすっきりした姿になったというほかはあるまい。しかしすっきりさせたことによって教育的な価値は高められたかどうかは疑問とせざるを得ないようである。

こうした文部省の読書指導に対する考え方をみると, 学校図書館での読書指導はやや軽視されてきたきらいが あるが、昭和46年になってはっきりとその袂を分かつま でいつも読書指導は必ずその領域の一隅にあったし、読 書指導計画の必要性もつねに述べられてあった。しかし それは十分に現場の教師を満足させるものではなく極め て形式的なものに過ぎなかった。そんな中で、学者や実 践者たちの間での読書指導や指導計画に対する研究は年 を追って積み重ねられて行った。これは、読書指導が何 か得体の知れない厄介者であるというような見方をして いる人々の間にあって、真に読書指導の意義を高く評価 し、その人間的、人格的な面への影響の多大なことを認 識する人々の中で育って行ったのである。滑川道夫氏は その著「読書指導」(昭和34年牧書店)の中で学級担任の読 書指導における位置を特筆し"子どもたち個々の読書生 活の実態をもっともよく理解できる立場にあるのが学級 担任であるから生活指導の一環として読書生活の指導の 中心的位置をしめるものである、"といって読書指導計画 が地についたものとなるためには実際に読書指導をする 学級担任の役割が重要であると述べている。そして学校 教育の一環としての読書指導であるからノンプログラム 的な思いつきで指導されることがあってはいけないと指 導計画の必要性を学校教育という点から指摘している。 (学校図書館 '69年1月号読書指導をこう考える)

(7) 昭和32年岩崎書店刊の学年別読書指導「小学生の 読書指導講座」をみると、そこでは読書指導計画の意義 そのものについては直接ふれてはいないがそれぞれの学 年に応じた指導目標を達成するために年間計画の中に目 標をはっきりと位置づけようと努力していることがわか る。ここでは一般目標と具体目標とがあげられていてそ

の中には自発的な学習態度・問題解決・発見・創造的生活への志向・計画的な読書・良書の選択・読書記録の作成などなお現在の読書指導にとっても大切な項目がいくつかみられる。図書館利用的色彩が濃厚ではあるが,しかし当時出版されたものの中では非常に行き届いた資料計画であるといってよかろう。

(8) 昭和35年「実践講座国語教育 6」「読書指導」では、子どもとの会話を大切にしなければならないが "こうした指導は常に背景となる指導計画があってこそ 効果があげられるのであって思いつきや熱意だけではその効果的な指導はのぞめない、"というようにその必要性を力説し、その計画は国語教育、学校図書館、生活指導というように多面的に計画立案されなければならないといって読書指導の要素の複雑性をうち出している。 さらに読書指導における個別化の重要性に触れているのも興味深い。しかしこのような多線的な指導を有機的に関連づけながら一本化した指導計画が実際になされたかというとやや問題点が残るようである。すなわちその中枢となっているものは国語科の指導であり、個別化や生活化はあまりうかがうことができないのは残念である。

(9) 昭和36年「読書指導事典」(平凡社)は、上述の「学校図書館利用の手びき」とほぼ同時期に出版されている。これには図書館指導とはっきりときりはなされた読書指導そのものの計画例がのせてある。例えば東京都台東区立精華小学校の指導計画例をみると、生活の中での読書指導と教科学習のための読書指導の二面が盛りこまれそれらの大まかな計画をもとにして、さらに各学校の実態にあわせて細分化することを考えている。

とくに興味深いのは竹ノ内一郎氏による「学級における読書計画表」でこれこそ本当に地についた指導計画であると言えるようである。これによると計画をたてるに当たって先ず基礎となるのはクラスの子どもの実態を知ることである。そして無理なく、楽しく本を読ませるように計画をすることが大切であると述べている。従ってその計画例には学年相応の本の読み方、味わい方、選び方、読後の処理、お話会、学習に役立つ本の読み方など

について子どもの生活や**発達段階**に密着したものがみられる。

(10) 昭和39年には全国学校図書館協議会の研究校である千葉県周西小学校の研究がまとめられ、この中では学年別の読書指導計画が綿密に樹立されている。この学校は読書指導体系を重視し、体系表に従ってそれを「実践にうつすための具体化された指導計画」を作成している。昭和39年といえば図書館は資料センター的な色彩を濃くして行く中で、当校は人格形成の面から読書指導に取り組み読解、読書生活、図書館利用の三領域を基調にした読書指導計画を樹立しているが、これをみるととくに読書生活の領域に重点をおいていることがわかる。またこれは今までにあげたものの中でもとくに利用者の立場を考えてわかり易く書かれていること、しかも読書の発達段階に則して読書心理学的な立場からも考慮が加えられている点など多とすることが多い。

(11) 第一法規「読書指導事典」(昭和42年)では読書指導の計画についてかなり綿密な解説を試みている。まず教育において計画性のある指導は強力適切であるから是非とも読書指導においてもそうでなければならないとし、指導計画をたてることによって指導目標、内容、指導の場、資料などがはっきり確立されるのであってことに指導計画存在の意義があると述べている。従って指導計画にはそれらのことが明示されることがのぞましいことも考えられるわけである。さらに読書指導計画をたてるためにはしっかりした原理条件に支えられていなければならないということがあげられていて、他のものには見られない核心をついた論述がなされている。これはごく一般的な計画樹立のための根本概念であるが、さらにこの上にそれぞれの学校特性をつけ加えて行ってそれを基礎として指導計画を考えるべきではなかろうか。

このほかにもまだ数多くの文献はあり、またそれらを もとにして実践者たちは各地区、各学校で独自な指導計 画を作ってきた。それらの中であるものは国語科の発展 的な扱いとして読書指導を考え、そうした観点に立って 計画をねっている。例えば藤原宏・井沢純編「国語科における読書指導の計画と展開」(明治図書) にみられるように指導計画の原理実例ともに国語科の指導計画そのものと言えるようなものもある。さらにそれを発展させる単なる国語科の発展教材として読書をさせるのではなく "国語科自由読書指導により書物に親しませ、教養価値を獲得させ、読書力を充実させ、読書生活を高め、自己を向上させる。"という目標にたった指導計画もある。(奥水実・小川末吉共著「国語科自由読書の指導」明治図書昭和43年)。

中にはこうしたものと反対に学校図書館の利用指導を中核にしてところどころで読書指導に触れているものもあり、形式内容ともにまちまちである。これは読書指導という領域があまりにも広くまた学校教育、広く人間教育の中での接点が多すぎることからして当然のことであり、むしろ画一化されないところにそのよさがあるとも言えよう。しかし今までにあげたほとんどの書物の中で指導計画の必要性が強調されているのをみてもわかるように、それが読書指導にとって欠くことのできない要素の一つであるといっても過言ではなかろう。

### 2. 今日的意義を考える

さて以上のように読書指導計画に対する流れを追って みたが、今日なお計画をたてるにあたって生かされるべ きものも数多くあるように思う。

例えば、一ばん古い昭和23年の「学校図書の手引」を みるとおもしろいことに読書指導の真髄に触れた記述が いくつかされていることに気付く。その中の一つをとり 出してみると "読書指導をするに当たって大切なことは 読書指導というものを生活指導の一環として考えるとい うことである。すなわち青少年の生活の中で読書という 場面のみを抽出してこれを追求するというのではなく、 つねに生活全体を見渡していろいろの個性を表わしなが ら伸びて行こうとする個人個人に最も適当した読書生活 のあり方を発見させ、これを身につけさせて行くという ことである。"と書かれている。読書指導を生活指導と考 えるとは古い考え方であると言われるかも知れない。しかし私はひとりの学級の担任として読書指導を広い意味の生活の指導と考えたい。また、昭和36年の「学校図書館利用の手びき」の指導計画作成についての基本的な考え方に負うところも多いし、平凡社や第一法規出版の「読書指導事典」からも学ぶべき多くのことがらがあった。そこで、それらのものを参考にしながら、今日読書指導が国語科の中へ全面的にとり入れられた時点に立って、現場の教師とくに学級担任の立場として読書指導計画をつぎのように考えてみたいと思うものである。

### (1) 読書を生活の中に投影させるものであること

読書指導は常時指導であるから彼等が朝学校へ来て教 師と接したときから下校するまでの間、時と所を選ばず 読書や本についての話し合いや指導が行なわれる。さら にそれは家庭に帰ってからまで間接的な指導を必要とす るわけで、その領域は一教科あるいは一単位時間に限定 されることを許されないはずである。そこでどのような 機会に、どこでどのような方法で指導するかを意識でき るようにするために計画の中に指導の場の設定を試み た。読書を国語の時間に限ることなく、彼等の日常生活 のあらゆる場面に参透させるような計画でありたいと考 えている。ここで私は国語科での読書指導は無意味であ るといっているのではなく、ただそこに留まることを恐 れているのである。文部省の藤原宏氏が「国語の授業を 通して生活の中での読みを追いつづけなければならな い。」と言っていることの意図は十分に理解できる。し かしもう少しはっきりさせるならば、阪本一郎氏の読書 指導論の中の「人格適応の位相」(国語の教育 国土社 1968年 11月号参照) にみる個人のもつ経験体系から適応 特性に到る間の指導に重点をおいて指導計画をたてたつ もりである。

### (2) 学級担任が指導するためのものであること

小学校の場合は大半が学級担任制であるから学級担任 のだれにでもできる計画でありたい。むしろそれは学級 担任なるが故にできるものであると言うべきかもしれな いし、学級担任なるが故にやらないではいられない読書

指導の計画であるというべきであるかもしれない。上述 の滑川氏のことばの通り学級担任は生活指導の中心的位置をしめるものであり、先の、竹ノ内氏の学級における 読書指導計画が地についたものであることからしても、担任が自らの手で作成し、自ら指導にあたり、そして自らまたよりよいものに作りかえて行けるようなものでありたいと思っている。

### (3) 指導効果のあがるものであること

これはおよそ教育に関する限り当然すぎることで、読書指導計画に限ったことはないが、とかく読書指導の場合は主観的観察に頼りすぎてしまって、何となく本をよく読むようになったとか、本が好きになったとか言う程度で満足してしまうことが多かったようであるが、一つ一つの指導計画について果たしてどれだけの効果があがったのかたしかめをすることは疎略にしてはいけないことではないかと思う。それは一つには能力(読書力)の問題もあり、態度、習慣の問題もあると思うが、生活の中へ本とうに読書がとけこんで行ったかどうかをみるためにはもう少し子どもを多角的にとらえて行かなければならないであろう。そのために不十分ではあるが評価の欄を設定した。しかしこれは今後に研究の余地を多分に残しているところであろう。

### (4) 創造性・弾力性に富んだものであること

先にも述べたように、地についた指導計画は、学級の 実態に合ったように担任が自分で作成し、さらに改善の 手を加えて行くようなものでありたい。従って指導計画 は固定したものでもなければ、どこかにモデルがあって それをそのまま使えるというようなものでもないという のが原則的な考え方である。このことは指導計画は疎案 がよいか、細案がのぞましいかという問題にもつながっ てくる。すなわち、前述の周西小学校の指導体系のよう に学年の指導目標をうち出しておけば、それをそれぞれ の学校の実状にあわせてカリキュラム化することができ るはずである。したがってそれこそ柔軟性に富んだ個々 の学校、学級に密着した指導計画であるといえるわけで あるから、私自身もそうした考え方に意義を認めてき た。しかし私の知っている範囲ではあまり歓迎されなか ったようである。抽象化、一般化されたものを実際指導 の場にどのように生かすかのめどが立たず、細案を作る こと自体にかなりの困難を来たしたようであった。現場 で要求しているものはむしろ細案、それもできるだけ学 級の指導に生かしやすいものをというのである。そこで 私はなるべく初めて読書指導をする人にでも 使い やす い、細かなものを作ることを試みた。そうすれば弾力性 に欠けたものになるのは当然のことであって、それを防 ぐために第一に学年の発達段階・読書興味・読書傾向に 基調をおき、国語科教科書などとの関連をあまり考えず に立案した。第二に単元はなるべく季節行事などにあわ せたが、他のものはそれぞれ自由におきかえることによ ってクラスの実状にあわせられるようにした。第三に実 践記録の空欄を設けて実際に指導をして行く過程でつぎ のよりよいカリキュラム作成のための生きた資料を盛り こみ、自由に手なおしができるようにした。第四に資料 欄もなるべく大きくとり、新しく追記したり、それぞれ の実状や子どもの興味の所在に応じて地域に適したもの を追記できるようにした。以上ささやかながら何とかし て細案の中にも柔軟性をもたせるよう努力したものであ

### (5) 集団と個の両面を尊重したものであること

従来ややもすると読書指導計画は学級集団での指導だけを考えがちであったが、読書が生活の中に生かされるためにはむしろ個別指導をこそ尊重しなければならない。もちろん学級での集団指導はそれなりに大きな意義をもっており、決してそれを軽視するわけではないが、読書の個別指導はとかく忘れられがちであることから、少しでもそれを意識して行くためにもと考え、計画の中にいくつか入れてみた。夏休みの読書計画についての個別指導読書だより、読書相談などがその一例である。

### 3. 問題点をさぐる

さてこのようにして作った指導計画にも多くの問題点 がある。そこで、それらの問題点に触れながら私の考え をまとめてみたい。

- (1) 学校教育全般の立場にたった読書指導計画であるから文学教育という面からみれば非常に不十分であると思うが、これは文学教育のプログラムではなくあくまでも読書指導の指導計画である。
- (2) 読書指導といえばすぐに国語科との関連ということが考えられるが、これは国語の指導目標達成のためにたてた計画ではないので敢えて国語科との関連をとり上げなかった。もちろん全く無視するのがよいとは思わないし、子どもが国語で学習したあと、それと同じようなものを何か要求しているかどうかその実態をみて単元の編成がえを考慮するのは当然考えられてよいことである。しかしたとえばクラスの編成がえなどがあって子どもが学級生活に不安定を感じていたり、仲間づくりに憂慮しているような状態がみられたら、国語で説明文を扱っているから説明文の読書指導をしなければならないと考える必要はない。むしろそんなときは説明文はあとまわしにしても、子どもの不適応症状をとり除くに役立つような読書をすすめてこそ本とうの意味で読書が生活の中に生きづいたといえよう。
- (3) 読書指導にとってその母胎とも言うべき児童そのもの、学級そのものの存在がどうであるかということは最も基礎的なことがらであるのは言うまでもない。した

心理的条件 系統的条件 | 指導で、 学級経営 教科中心 児童中心 論理的 興味的 ò 興味娯楽のため 学習のための 読 読書指導 の読書指導 recreational functional reading reading developmental . 社会的条件 reading 社会的要求中心 経験的 生活指導のための 読書指導(狭義) experiential reading

がって学級作りの問題を指導計画作成の中核におくべきであったが、そのことについては触れてないし、また計画そのものの中にもはっきり出ていない。そこで私なりの考え方を述べてみると (下図参照)まず学級経営を成立させるための基礎概念として心理的条件、社会的条件、系統的条件の三つを頂点とし、その中に読書指導を位置づけてみた。このように読書指導を学級経営のすべての面で行なえるようにすることによって子どもの生活の中へ本当にはいりこんで行けるのではないかと考える。

(4) 当然のことながら指導計画には時間の設定がなければならないが、私は先にも述べたように読書指導は常時指導であると考えることから固定時間内だけで行なわれるべきものではなく、また個別指導ではそれぞれの子どもの力に応じて指導時間も違ってくるわけで一概に規定できないものであると考える。休み時間であろうと、給食前後の時間であろうと担任教師は読書についての相談を受けることもあるし、また子どもひとりひとりの読書について示唆を与えることも必要であろう。そうしたことから時間を固定せずそれぞれの実態に応じて計画をたてるようにした。

### 4. む す び

さて以上のような観点から読書指導計画を作ったが要はそれを如何に有効に運用できたかである。子どもはこのような読書指導のすすめ方に対してどのような反応をしめすであろうか。彼等は図書室で自由に読書をすることを好んでいるようではあるが、ただそれだけでは満足していない。私の学校の6年生を対象に調査した結果「図書室で好きな本を読むよりも、読書について何等かの指導を受ける方が楽しいし、本当に本を読もうという気になる。」という者が90%近くに及んでいる。これは一見主体性の喪失のようにも思えるがそうではなく、目的をもった読書指導こそむしろ子どもの主体性を助長し、読書への志向性を高めるものであるということができるのではなかろうか。読書の喜びも低次の段階ではた

体布	中でのできどと 文学などに興味 	事 解 記 領	3																					
第 5	学校生活や集団の中でのできるの、内外の児童文学など、 ともの、内外の児童文学など、 てくるが、反対に基礎的な語。 ことしない。しかし、指導に になり、読書のあらゆる面が	図書館の利用指導		〇学校図書館の運 営に 協力 させ	る。 ○委員を選定し,	時間計画をたて・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	られる。〇学校区等の企	類,整理の仕方	について理解さ	せ積極的に図書	の整理整頓にあ	たらせるように	\$ 20					〇図書部員を中核	として,子ども		を計画し、実践	14 5°	O百科事典, 年鑑::::::::::::::::::::::::::::::::::::	など子省に必要な図書を図書館
例	○生活童話から友情物語への移行がみられ、学校生活や集団の中でのできごとを主題にした作品を好んで読む。冒険読みもの、内外の児童文学などに興味を示す。 ○低、中学年における指導がよくあらわれてくるが、反対に基礎的な読書力や態度が養われていないと、積極的に読もうとしない。しかし、指導によっては読書量もずっとふえ、選択もじょうずになり、読書のあらゆる面が向上する発展期といえる。		資料となる図書・作品	・本を生かす。 「文学の道しるべ」(牧)	<i>چ</i> 0°.						・海への少年期	・月に行けたら (壁鑑)	・動物のうた	・てんぷらぴりぴり	・せみを鳴かせて(大日本)	・現代少年野巣(ボブラ)		・クオレ (岩波)	・ヴィーチャと学校友だち	(岩波)	・とらちゃんの日記(岩波)	・同級生ものがたり(牧)	・エミールと探偵たち(岩〇	もち, との程度   波) 内容を把握した   ・宝のひょうたん (岩波)
垣	〇生活童話から友情を を主題にした作品を を示す。 〇低・中学 態度が養われていな は読書量もずっとよ る発展期といえる。	神	計 色	0 14	ら各目の記録を されているか。 通じて個別指導○記録のつけ方に	難点や落ちがな	,কেণ্ড				○詩の本を図書館○詩の本を自分か・海への少年期	のすするが称り		したりするか。				〇学園もの, 友情		程度読んだか記				もち、どの程度内容を把握した
常	。5.6 。5.4.5 誤	第一書	指導方法(場)		ら各目の記録を 通じて個別指導		○5年生の読書の事能編書はアク	家庭に知らせ、	父母の関心を喚	起する。	○詩の本を図書館	から借りたり家	からもってきた	ひした, 学後文	庫の臨時書架を:	作る。		〇クオレの中の同	級の人たちを素	材として一斉指	導をする。	荒後駆などは学	級全員で, ある	いはクルーンで話し合いをさせ
書	うだする。 るようだする。 ようにする。 の目を聞くようにす み入れることができ	Ф ф	指導上の留意点		を養うよう に合いをすすめ	200	〇記書記録はりんのエトイルイン	常時指導する。			)詩の本はいって	も自分で読みた	いと思ったとき	自由にとり出し	て読むようにす	¥86°		)話し合いの内容(	は形式的,画一	的にならないよ	うに自由に話さ	せるようにす	90	Jいたすらに被及 を中傷したりし
點	自分で選択できるよ がら読むことができ 要な情報が得られる を高め、社会生活へ 的な読書の時間を組	生活の	指導內容	までの読書歴をみて、自に反省させる。	○図書館の蔵書の中から目 分で読みたい本をえらび		■をたてるよっにする。( ○読書記録のしけ方を指導	\$ \$ \$ \$			( )		して説ませる。	派しん街	人にきかせるようにす	る。	しなうもを言ったうしゃが、といれる。	○学園生活や友情をえがい○話し合いの内容	た作品を全員で読み、そ	の中にあらわれている人	間性を読みとらせ、話し	合いを通していっそう深	8000	の動きやみれ合(日がのクラスの女だらに、Oいだすらに被交いを味わいなが ついて書かせ,女だちの を中傷したり
	読みものの範囲をひろげ, 味わって読むことや考えな 目的に応じた読書ができる 読みものを通して自分に必 本を読むことによって自己 自分の生活時程の中へ主体 する。		目標	〇5年生としてど んな本をどのよ	うに読んだらよ○図 いのかを考えは 分	本2。	○すすんで本を次□指むよってする	000000000000000000000000000000000000000			○詩を味わいなが	う読むようにす	%						よって自己を高	め,社会への目	を開くようにす		〇作中の人物の心	の動きやふれ合いを味わいなが
	四		単元	本の読み方を研究	\$ \$					4	話の本を	語む。									2			

1	iğ LJ		
4	误记		
	凶音郎の利用指導	から 本 を を を を を を の の の の の の の の の の の の の	○雨の日のために 学級文庫を作り 図書書員が運営 にあたるように する。 ○学級文庫をでき った(次沢山帝用 する。
	資料となる図書・作品	・風信器(実日)七いろの 直部集より ・行動半径二百メートル (実日) ・飛な教室(岩液) ・三太物語(学研) ・どこからかきた少女(岩 液) ・宿園ひきうけ様式会社 (理論) ・神かくしの山(理論) ・サンゴ畑の四日間小棒) ・カレたの風(階成) ・カレたの風(階成) ・おかあさんの手のひら は確成しなったなったって。 はを成くなったって。 ・記えてくなったって(理論) ・カルだの風(階成) ・カルだの風(階成) ・カルだの風(階成) ・カルがはく天国(講談) ・元きな行く天国(講談)	・ 奇跡クラブ (実日) ・ チョウのいる丘 (講談) ・ シラカバと少女 (実日) ・ あるハンの木の話 ( * / ) ・ 木かげの家の 小 人 た ち (岩茂) ・ みどりの川のぎんしょき しょき (実日) ・ ゲンと不動明王 (小体) ・ がくまきの談 (学研) ・ だれも知らない小さな国 (講談) ・ ヒョコタンの山羊(理論) ・ ドカらきた少女 ・ 諸からきた少女 ・ ボスとの家出 (情成)
齊.	世	か。 母親 おちのあで対する を調べる。	
読書	指導方法(場)	る。       か。         ○ひきつづきクォートの他の部分・とくに日記の部分を読ませるように全員に紹介する。       かを読ませるように全員に紹介するののの目にはおかの母親に対する気あるんに本を読まちのあらわれんであげたり話をはてりまる。	創作もののおも ○短編を一つえら ○日本の創作文学 しろみをまだ知 んで読みきかせ のおもしろか らない児童もか る。 わかったか。 なりいるので内 ○ひとりひとりの ○すすんで友だち なりいるので内 ○ひとりひとりの ○すすんで友だち ななどを十分に 読書力と興味と の紹介した本を 紹介する。 んで個々に紹介 する。 んで個々に紹介 ませ方にならな 介し合わせる。 適切な紹介をして ませ方にならな 介し合わせる。 適切な紹介をして ませ方にならな 介し合わせる。 適切な紹介をして ませ方にならな かし合わせる。 適切な紹介をして ませ方になる 一 「米屋と紳士」 「米屋と紳士」 「米屋と紳士」
9	指導上の留意点	ないように気み つける。 るような あような がなしないよう に気を しなる に気を しなる	○創作もののおも ○短編を一つえら しろみをまだ知 んで読みきかせ らない児童もか る。 なりいるので内 ○ひとりひとりの 容などを十分に 読書力と興味と 紹介する。 んで個々に紹介 大きを指する。 んで個々に紹介 はせ方にならな 介し合わせる。 いように気をつ。○クオ レの中の ける。 「米屋と紳士」 「みえばう」な とを繋で次親と とを表で次親と とを表で次親と
生活の	指導內容		本の文学の中には、自 たちの生活に関係深い 記や、おもしろいもの あることを知り、すす で読むようにさせる。 単な感想を発表させた しながら自分の読んだ 出た紹介させる。 治についても調べるよ にする。 の日の前後に父親のこ についてえがいた作品 読ませる。
	目標	、 で で で で で で で で で で で か か か か か か か か	○注として日本の〇日 創作ものを読 分 み, 読書の領域 行 を放びるととも な を深めるように〇間 する。
	単元		日 本 い。 が 、 数 り し り り り り り り り り り り り り り り り り り
:11		· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	9

4	*K																																						
新华田 F F F F F F F F F F F F F F F F F F F	区青岛の利用指導				i	〇夏休みに沢山の	本が読めるよう	ア万帯たる事故	日本のようと	_	でおくようにす	%	〇図書部員は積極	的に貸し出しの	仕事をするよう	1243.																							<del></del>
	資料となる図書・作品	・パパのナイフ (ポプラ)	・夕焼け雲の下 (大日本)	・ぼくがぼくであること	(実日)	・小さい牛追い, 牛追いの	谷 (岩波)	(発音)キギエイボン・	11-11-11・8(古家) 田子のかっせい	・本である人への及じて	トンの小人シリーズ(岩	液)	・ドリトル先生 シリ ーズ 〇図書部員は積極	(岩波)	・ライオンと少女(おかね)	・ラモンじいさん (学研)	・太陽の子と水の魔女(大	田本)		・オルリー空港 22 時 30 分	(学研)	・人形の家(岩波)	・ミスピアンカのぼうけん	(岩波)	・おきなさいフェルジナン	F (岩波)	・名探偵カッレくん(岩波)	・ムー、ソシリーズ(講談)	・黒い真珠 (ポプラ)	・グリーンノウのお客さま	(編集)	・小さなバイキング(学研)	・リンドグレーン集(岩波)	・馬子ちゃんノアントン	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・		・トンデモネズミ大陆曜	(岩液)	
東	計					〇外国文学に対し	ても興味がもて	+	# + +	し後後入り回りと	がわかったか。					〇誌書テスト	ー・外世のサイカ	の音味が整備が	の意味できばら	作成したテスト	を実施する。	○夏休みの読書計	画のたて方は的	確であったか。															
響	指導方法(場)	2°				〇選択にあたって	は日本文学と同	禁団へお道スナ	冬間へ出するフ	o O	とにもなりかね〇感想文を指導す	る場合は一作品	をとりあげ,集	団読書を経てか	ら書かせる。	〇条白に読書計画	を書かず. 本の	いた いまれた はなた	はいい。近にクンプ	読書時間などを	個別に指導す	%	〇各家庭へ"読書	のしおり"や	,"推薦図書リス	ト"などを配布	し, 父母の関心	を高めるように	420										
ф О	指導上の留意点					〇はじめからあま	り大作にとりく	ナル人田中かく	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	ら収を分大して	とにもなりかね	ないので選択に	気をつける。			〇字体的な読書が	すすめられるよ	んど米雪セス	00 CAMBOO	そのためには読	書時間や回数な	どを規制しな	670																
話の	指導內容			-		国文学の中から興味の○はじめからあま○選択にあたって○外国文学に対し	ありそうな作品を選んで	結及 女白ア相威カナノ	だい、中口に必然でありませって、 オット・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	0471590°						○夏休みの読書に○読書時間、時期、方決な○字体的な読書が○冬自で読書計画	を話し合い, 各自の家	麻の生状に一ばん通した	NAME OF THE PARTY	方法で読書計画をたてき	2°																		
生	目標					〇外国のすぐれた〇外	文学作品を鑑賞しあ			8						○夏休みの読書に○読	しいと解し合い。	が 一・ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・		世名。	<b>中</b>														-				
	単					外国文学 (	を読む。									夏休みの		いて難し、		合う。																			_
п	Ξ.		•	D																			7	-	-		-												

践記録		
図書館の利用指導	○ 学校図書の近し 田 L 日 C はなる	○分類に従って図 中を ち ち ん と 古 来 に 整理 す る と と な で き る よ か 。
な料した 2 図書・作口		・ブウの大旅行(小棒) ・アポロ11号の記録(講談) ・野尻湖のふね(福音) ・砂漠となぞの壁画(国上) ・登呂遺跡のなぞ(国上) ・おはなし宇宙めぐり(実 日)
中 地		
語 軸 記述・	面等力及(級) () 記載だよりを次 物することによって、できるだ いて、できるだ かせどもの変度 たし、またはび ましのことばか おくるようにする もく。なようにす もく。なようにす にい、またはび おくるようにす たい、またはび はんのとばな はんのとばな はんのとばな にん、はなはび がを及び書の交換 日や、日集日な ににはできるだ け個別指導をし たり、記書の相 数を受けたりす	個人表に目を通 ○各自に反省表を ○計画表の目標の し、単なる批判 提出させ、個別 たて方は妥当でではなく今後の 指導をする。 あったか。るようなことが れぞれ自分の読 きたか。 5を示唆するようなとと 中で おりばん かっちのと比べ たり試験させた かりする。 かんきのと比べ たりが表さんだじることが多い ンを読むときの ウナス・コード・カンコード・カン・カン・カン・カン・カン・カン・カン・カン・カン・カン・カン・カン・カン・
中のの事に	手がなたく、うな長輩も、・全集など、ないないない。 でようては、でよっては、 でようには、 でようにしてきるだけ ようにもまだけ ようにするだけ	○個人表に目を通 し、単なる批判 ではなく今後の 読書の指針とな るようなことが うたする。 うたする。 りたする。 ので、あまり程 度の高いものや 要決しすぎない よった気をつけ る。
在 活 の 当 社 日 多	4 73 か の計画にしたがって めな読書をすすめは や 図鑑, その他の参 やなどを使って自分 かなだを使って自分 かた読んだ本の中か みに読んだ本の中か はせる。	2000年の記書計画表にも とづいて各自に反省させ、さらに話し合いをさせ、さらに話し合いをさせる。 記書だよりを公開させる。 記書だよりを公開させる。 などを読み、ノンフィクションに親しむようにする。 各自の能力や興味にあったものが選べるようにする。 かメモふうのものを用意
# #		
1) 21	実 着 な  つ 生 ~	図 読

# ##	<b>聚</b> 円			
10000000000000000000000000000000000000			○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	〇冬休みの図書の 貸し出しを図書
	資料となる図書・作品	(岩波) 動く湖(実日)(世界の ふしぎより) ・雪の上のあしあと(福音) ・墓とろぼうの話(国土)	・すみつく魚を求めて ・和井内真行 (ポプラ) ・大蔵家培 (国上) ・ 米蔵家培 (国上) ・ 東京を築いた人々 (さえら) ・ ほったちのシュヴァイッ ・ で ( ロ水) ・ 間宮林蔵 (国上) ・ 世界伝記全集 (講談) ・ 職の又三郎 ( " ) ・ 最十公園林 ( " ) ・ 最をつげる鳥 (暗成) ・ おじいさんのランプ (岩	・日本民話選(岩波)・わらしべ長者( ")
押	声		)適書を選び, 充実した読書生活をおくったか。 クおくったか。 つ自己の感想を十分に文字に表現できたか。	○朗読がじょうず にできたか (自
読書	指導方法(場)	○わかりやすい \$ のをとり上げ集 団指導をする。	○砂ケがなれば同 一条材であれば同 事をする場面を もつ。 かり、は、本のえら では全量に強調中誌 では全量に強調中誌 では全量に発展する。 では全量に発達する。 では全量に発達する。 では全量に発音 では全量に発音 ではた金体的な 市場にしてある。 のなった条件が があるたる。 のならいで簡単 ではために がまなっの話書か ではためで ではためで ではためで がまないがまな。 ではためで ではためで ではためな ではためな ではためな ではためな がまないがませる。 ではためな でがなながまずる。 でがなながまずる。 でがなながを がなながでがます。 ではためな ではためな ではためな でがなながを がなながを でがまるので がまながでがまずる。 ではためな ではためな ではためな ではためな でがなながを がなながでもなな でがなながもなる。 でがなながを がなながを でがまるので がまずる。 でがななががまずる。 でがなながでがまずる。 でがなながながながな。 でがなながながなが、 でがながながなが、 でがながながなが、 でがながながなが、 でがながながなが、 でがながながなが、 でがなながながなが、 でがなながながなが、 でがなながながなが、 でがながながなが、 でがながながなが、 でがながながなが、 でがながながなが、 でがながながながなが、 でがながながなが、 でがながながなが、 でがながながなが、 でがながながなが、 でがながながなが、 でがながながなが、 でがながながなが、 でがながながなが、 でがながながなが、 でがながながなが、 でがながなが、 でがながながなが、 でがながながなが、 でがながなが、 でいながながなが、 でいながながが、 でいながながが、 でいながながながなが、 でいながながなが、 でいながながなが、 でいながながなが、 でいながながが、 でいながながが、 でいなががが、 でいなががが、 でいなががが、 でいながががががががががががががががががががががががががががががががががががが	〇自分のすきな民 話を朝の自由時
ф Ф	指導上の留意点		数位法のからで 対に対する を かった を かった が に な を か か か か か か か か か か か か か か か か か か	○民話を読んでい く中でその特質
語の	導內容		み方について指 の感機をもち、 などで話し合わ 語し合い計画を まりるようにす まりるようにす まりなるようにす はな。 がべたり相互に かたちで作る。 かたちで作る。 かたちで作る。 かたして話し合。	本の民話や、民話をも〇民話を読んでい〇自分のすきな民〇朗読がじょうず にした再話を読んだ。〈中でその特質。話を朝の自由時。 にできたか(自
刊	標指		○すぐれた人物の○伝記の読み 生き方を読みと 導する。 り,自己の生活(被伝者の生 るの上にも役立 自分なりの てるようにす せる。 () () () () () () () () () () () () () (	伝承文学のおも〇日本の しろさを味わう とにし
	元目		んで記を端 といく人の となった人の はなった。 のかは はなる。 のの上 は本で のの は本体 のの は本体 のの のの は本体 のの のの はなな のの はなな のの はなな のの はなな のの はなな のの はなな のの はなな のの のの はなな のの はなな のの はなな のの はなな のの はなな のの はなな のの はなな のの はなな のる。 はなな のな。 はなな はなな はなな はなな はなな はなな はなな はなな はなな は	<b>民話の薬 ○伝承文学のおも</b> ○日 しさを味 しろさを味わう と
	ر ب		3     I       仮ろと生き。     感の想へ	12 B

1	<b>磁</b>				
	渓 <b>威</b> 記				
_		部員が中心にな って行なうよう にする。 ○冬休みに学校図 書を 活用 させ る。	○チー々にもと <i>山</i> いて資料を集め ることができる ようにする。		○本学読みものの おかれている書 深がはっきりわ かるよう にす る。
	資料となる図書・作品	・おろか村(童心) 部員が中心にな ・日本のむかし話(講談) って行なうよう ・八郎, ミコ(福音)(再) にする。 ・立ってみなさい(新日本)○冬休みに学校図 (再) 書を活用させ ・日本の民話(風潮) る。	・ぼくらの村は戦場だった ・Cの征服(あすなろ) ・原爆の子(岩波) ・わたしが小さかったとき に(童心) ・新聞雑誌記事		・ジャガイモの花と実(福音)
報	神	分のものになっていたか) ていたか) ○家の人から実践 報告や批評をも らう。		○学期末テストを 実施する。	○冬休みにおける 読書時間のとり 方をどのように くふうしたか。 ○知識として理解 するとともに自
記事	指導方法(場)	間などを利用して方だちに聞かせる。 とる。 受験に連絡して 冬休みには家族 たろって民話を 読み合う機会を 作るようにさせる。	○家庭に連絡して 報道記事などに 異味をもつよう 協力してもら う。 ○報道記事を集め てみるようにす	る。 ○読書年質状を書 いて先生や友だ ちに今読んでい る本たついて知 ○読書かるた,す ごろくなどを作 る。	○個々の反省記録○冬休みにおけるよりも全体での 読書時間のとり 話し合いに重点 方をどのようにをおく。 くふうしたか。 ○図書の選択は自○知識として理解 正的にやらせる するとともに目
0 4	指導上の留意点	をとらえるよう に指導する。	○報道記事の興味 のありそうなも のを とり 上げ て、 あまりむず かしい内容のも のはさける。	○家族の協力を得るようにする。 るようにする。 ○夜長を読書にあてるようにくふ うさせる。	○とくに家族との 読書がよくでき たかどうかを重 点的 に 甜 し合 う。 ○第一次の指導の ときよりもかな
生活の	指導内容	とともに、それ り、家の人や、友だちに を通して生活に 読んできかせることがで うるおいをもた きるようにする。 すことができる○民話特有のすじの運びの ようにする。 おもしろさや、語り謂の リズミカルなたのしさに 十分ふれさせる。	<ul> <li>○事実の記録を読んで文学 ○報道記事の興味 ○家庭に連絡して ○少しずつ報道文との違いを考えるように のありそうなも 報道記事などに にも興味がもてする。</li> <li>○事実の記録のもつ意味を て, あまりむず 協力してもら か。 知ることができるように かしい内容のもう。</li> <li>うる。</li> <li>○はさける。 ○報道記事を集め か。 不みるようにす のはさける。</li> <li>○新聞や雑誌などの記事を</li> </ul>	** 様々として報道文の読み       5。         方を理解させる。       方を理解させる。         ついて話し合か       ようにして読書をすすめ       るようにする。       いて先生や友だ       実施する。         せる。       ならよいなた       ころようになる       なたついて知         つを休みの読書計画をたて       うさせる。       らせる。       させる。         させる。       ささる。       ころくなどを作         る。       5。	○冬休みの読書に ○各自に自分の読書につい ○とくに家族との ○個々の反省記録 ○冬休みにおける
	回	とともに, それ を適して生活に うるおいをもた すことができる ようにする。	○報道文や事実の○事 記録を読むこと - と かできるように - す する。 ○事 う	○冬休みの読書に ついて話し合わ せる。	○冬休みの読書に ついて反省し話 し合わせる。 ○読みものの範囲( を拡げるように
	単元	む。	事実物部を読む。	<b>冬</b> 休めの では かく で い い。	多体を いて で い い い い い い い い い い い い い い い い い
1	円		12	·	1

			年	妝	6	ф Ф	指	非		P C C C C C C C C C C C C C C C C C C C	1	1	,
1 .	単元	画廊	貓	導力	谷	指導上の留意点	指導方法(場)	軍	資料となる図書・作品	凶青館の利用指導	泯 <b>威</b>		徽
	を読む。 [2]	する。 ○対学学語 みものに 関果やきち確実 よ に内容をとらえ() ななら話せてと ができるように する。		、 は、 と と な 。 の と と が ま か か の の の の の の の の の の の の の の の の の	からせ、ノンフィクシンを敬遠しないで誘む うにする。 動したことを文章や言で自由に表現させ、ノフィクションでものが多いことを心を つものが多いことを認 させる。	り力がついてき ているので、自 分の関味にあっ た本を自主的に 選ばせるように する。	り力がついてき が、できるだけ ているので、自 個々に相談に応 分の興味にあっ じるよう にす た本を自主的に る。 悪ばせるように(読み終えた本の 簡単な紹介をさ する。 感想もか かせる。 感想もか かせる。 感想もか かせる。 感想もか かせる。 感想もか かせる。 感想もか かせる。 あなきとく	然や人間の偉大・さにも心をひか・ れたか。 れたか。	・ クジラを追って(ちくま) ・ くるまから宇宙旅行まで (国土) ・ 島のたんじょう (福音) ・ ダーウィンの世界一周旅行 (				
	動物文学を読む。	○動物 文学 を 読 ○動物 文学 を 読 ○ か り 動物 変 護 の か が も ち も た 動物 変 護 の り た も た も た も た も た も た い は 動 ( ) 動 ( ) 動 は も な い な が も な か な か な か な か な か な か な か な な な な な	◎ がもし動いたせ動心る	が、 でたは にある。 にある。 にある。 には になる。 にはない。 を表情が になる。 を表情が になる。 を表情が になる。 を記れる。 を記れる。 を記れる。 にはない。 にはない。 を記れる。 をこれる。 を記れる。 を記れる。 を記れる。 を記れる。 を記れる。 を記れる。 を記れる。 を記れる。 を記れる。 を記述る。 を記述る。 を記述れる。 を記述る。 を記述る。 を記述る。 を記述れる。 を記述る。 を記述る。 を記述る。 を記述れる。 を記述。 を記述。 を記述。 を記述。 を記述。 を記述。 を記述る。 を記述る。 を記述る。 を記述る。 を記述る。 を記述。 を記述る。 を記述る。 を記述る。 を記述る。 を記述。 を記述。 を記述。 を記述。 を記述。 を記述。 を記述。 を記述る。 を記述。 を記述。 を記述。 を記述。 を記述。 を記述。 を記述。 を記述。 を記述。 を記述。 を記述。 を記述。 を記述。 を記述。 を記述。 を記述。 を記述。 を記述。 を。 を記述。 を記述。 を記述。 を記述。 を記述。 を記述。 を記述。 を記述。 を記述。 を記述。 を。 を。 を。 を。 を。 を。 を。 を。 を。 を	○動物文学にはどんなもの があるか、今までどんな ものを読んできたかを話 し合わせる。 ○動物の生態を忠実にえが いたものと、物語化され たものとの違いを理解さ せる。 ○動物文学を読んでからの 心の変化を話すようにす る。	○今までの自由語 書でかなり動物 大学でふれる機 会は多かったと 思うので読書記 異をみながら発 表させる。	○読書能力の低い ものに対しては 動物を主人公に したもの, 物語 風に書かれたも のを与えるよう にし, 個人読書 を中心として扱 うようにする。 うまうにする。 ○学級でいっしょ に読書する時間	<ul> <li>○読書能力の低い ○各人の読書記録ものだ対しては をしらべて, ど動物を主人公に の程度動物文学したもの, 物語 に親しんだかし風に書かれたも らべる。のを与えるようにし, 個人読書を中心として扱うようにする。</li> <li>○学級でいっしょに請書する時間をもつ。</li> </ul>	・シートン動物物語(借成) ・ファーブル昆虫記( **) ・フレロン動物文学(ポプラ) ・ビアンネ動物記( **) ・ 孤島の野犬(牧) ・ 片耳の大鹿(ポプラ) ・ 秋田犬物語(偕成) ・ 殺虫犬物語(増成)	○自分の読書記録 をNDCに従っ で分類し、著し い傾りがないか 調べる。			
	世界の名作を読む	<ul> <li>○世界の名作物語○数 を読み読書の領 なを読み読書の領 域をいっそう近 げる。</li> <li>○よい作品をえら○で び積極的な読書 の 活動ができるよ つってする。</li> <li>○ でする。</li> <li>○ でする。</li> </ul>	○数多いか は が が が の の の の の の の の の の の の の	(10年) (10年) (11年) (10e) (10e	多い名作の中から自分 売みたいと思うものを び出して読むようにす 。 きるだけ完訳に近いも を読ませることによっ 真に文学的な香りの高 ものに触れさせるよう する。	○すでた幼児期や 低学年期におい て名作ものだ強 れていると思わ れるが、それで 満足してしまわ ないように注意 する。	すでに幼児期や ○集団ではとくに 低学年期におい こ名作ものに触 お事に力を入れ れていると思わ れるが、それで ○家庭にかなり全 満足してしまわ 集ものなどある ないように注意 ので連絡してそ の中からも選ば もるようにする	○どのような名作 に興味をもった か個人表で調査 する。	- 子じか物語 (講談) - みつばちマーヤ の 冒険 (小学館) - ガリバー旅行記 (岩波) - ブリル童話集 ( ** ) - アンデルセン童話集 (講 談) - ピノ ** オ (岩波) - あしながおじさん( ** )	● 学校図書館の ・ で で が 出 が 出 が 出 が 出 が 出 が 出 が 出 が 出 が に な と と も に 来 年 度 ど の よ う に 運 値 当 ま と こ か が 乱 し ら う。			

<b>电器</b> 記																		
図書館の利用指道																		
-	資料となる図書・作品	・トムソーヤの冒険( " )	・ニールスのふしぎな旅	<ul><li>長い冬(岩波)</li></ul>	·十二月物語( ")													
提標	野 俚					)年間の本のえら	ぴ方,量が次第	に向上してきて	いるか。	見をまとめ反省〇計画にそった読	書が十分にでき	たか。	)読書テスト	通して年間の読 〇読書カルテの記	入完了。	〇推薦図書は大体	読みこなした	कृ०
福	指導方法(場)	〇以前に読んだも	のと比較してま	とめさせてもよ	670	○年間の読書記録をみて各○友だちの反省を○年間の読書量を○年間の本のえら	集計させる。	後の自分の読書〇本のえらび方に	ついて自分の意	見をまとめ反省	記録に書かせ	%	加えるようにす○家庭通信などを○読書テスト	通して年間の読	書の実態を報告	\$ 50		
<b>ゆ</b>	指導上の留意点					○友だちの反省を	よくきいて, 今	後の自分の読書	に役立てる。	すすめ来年度の読書計〇ひとりひとりの	読書記録をしら	べて指導の手を	加えるようにす	2°	***			
0	松谷	由に話し合うようにす				記録をみて各	%	固人の反省をもとにし	学級全体の話し合い	年度の読書計	樹立の参考にさせる。	の愛読書のまとめを						
生活	非	自由に話し	29				自に反省する。		_	にすすめ来	画樹立の参	○各自の愛読	させる。					
	回廊					)一年間の読書の	まとめをする。											
	単元					  読書のま	۶ <i>%</i> ک		-									

ど単に図書室で無目的に眼を楽しませたり、質問も課題 ト与えられない開放感を味わうというところにあるが、 学級ぐるみ彼等の生活全体の中で指導をすすめて行く中 で彼等は漠然とした自由よりもむしろ自分の心にぴった りの本、自分を喜ばせ励ましてくれる本との出会いを切 望するようになってくる。そのような子どもたちに教師 がノンプログラムであたるようなことは、どんな結果を もたらすか言うまでも無いことである。読書指導に計画 などは不必要で日々の実践こそが大切であるという論も たしかに一理はあるが、実際ある学校で指導計画にのっ とって指導をした群と,ノンプログラムで思いつきのま まに、しかし、かなり読書指導に熱心な教師が指導した 群とを比較した結果,読書テスト(教師作成のもの)の成 漬,読書領域,読書量,興味,習慣などすべての点で計 画的な指導をした群の方がまさっていた。そしてその群 の中のある子どもは「読書と私」という意見文の中でつ ぎのようなことを言っている。"私は4年生までは読書 の時間というとただ何となく本を読んできた。しかし5 年生になってから,先生から毎月の目標をきいてそれに 合わせて本を読むようにした。そうしたら図書室の中に はまだまだ手にとったこともない本がたくさんあること を知ったし、私の心に深くやきついた何冊かの本にも出 あった。そして私は本当に読書の楽しさがわかったよう な気がした。これから私はもうだいじょうぶ、ひとりで 本を選んで、ひとりで読書して行けると思う"と。これ を以ってただちに子どもの生活に読書が根をおろし始め たなどと安直に考えるつもりはないが、情報量が激増し て行く中で子どもたちをとまどわせることなく、豊かな 読書生活を築いて行かせるために生活に密着した計画的 な指導が今こそ要望されるのではないかと思うものであ る。

### 読書興味テストへの期待\*

# 日本女子大学 阪本 一 郎\*

### 1. 目 的

私は前から読書興味のテストを作ろうと考えている。実は前に同名のテストを牧書店から発行したことがある。いこれはフィクションを、A まんが・絵物語、B むかし話、C 童話、D 物語、E ロマンス、F 小説に分け、ノンフィクションは、G 伝記・美談、H 教養、I 生物科学、J 自然科学、K 歴史地理、L 社会問題のそれぞれ6種に分けて、非常に読みたいものには◎、とくに読みたいものには○印を付けさせる仕組みであった。ただし、A・B・C、B・C・D、C・D・E、D・E・F、D・E・Aの3者の中から選ばせるようにし、それぞれには具体例を記入するようにした。ノンフィクションも同様にした。これによって、読書興味の発達が正常であるか異常であるかを診断するものとした。

その後私は読書をもってパースナリティの形成過程であると見なす論点に立つようになり、そこに適応理論を持ち出す必要を考えた。パースナリティの形成は、人間がその環境に適応することにほかならないからである。そこで適応には次の三つの原理があると考えた。

(1) 順応の原理――環境の要求や条件に合致するように、個体が自己を変容すること。すなわち環境の働きかけを全面的に受容して、その中で安定した生活が営めるような資質を獲得する。読書では同調の原理と言いかえられる。

- \* Expectations for reading-interest tests.
- \*\* SAKAMOTO, Ichiro (Japan Women's University)

- (2) 統制の原理 個体が、自分の要求や条件を満たすように、環境を改造すること。自分の独自性を強調して、これを阻む外部の力に統制を加え、環境を自分の住みよい世界に構成しなおす。読書では批判の原理と言いかえられる。
- (3) 創造の原理——個体と環境との双方の要求や条件を満たすような、新しい道を創造すること。(1)と(2) との原理に二者択一的に従うのではなくて、双方を同時に生かす新しい体制を産み出す。これによって弁証法的に、個々のパースナリティは、その自同性を維持しつつ、しかも新しい形態に発展していく。読書では、洞察の原理と言いかえられる。

上に述べた3原理が、読書においていかに達成できているかどうかを判定するテストが構成されれば、読書指導にとっては、たいへん便利であろう。かくてこそ、読書はペースナリティの形成過程だと言えるのではないかと考えた。

そんなわけで、私は、日本女子大学の卒業論文に、よく読書興味テストの作成をヒントとして与えた。以下その approach の仕方の 4 例を掲げる。

### 2. 波方・竹井の approach<sup>2)</sup>

彼女らは読書材料を自作して、「武の日曜日」(400字 詰約13枚)、「放課後のできごと」(同10枚)の2編を用 いた。それぞれ個人面接法によって読ませ、そのあと次 の質問をした。

- (1) 「武の日曜日」
  - a. 武の父親が約束を破ったことについてどう思うか。
  - b. デパートで、武が迷子になったことをどう思うか。

- c. 手伝のさい皿を割ってしまったノリ子に対する母親の態度にどう感じたか。
- d. 武が和夫に宿題をしてくれと頼んだことについてどう思うか。
- (2) 「放課後のできごと」
  - a. 掃除当番をサボったことについてどう思うか。
  - b. 宏と明がけんかをしたとき、明がバットで殴ったことを どう思うか。
  - c. 学級会について, 何か問題点があるか。 5

被検者は、滝野川第一小・神田小川小の5~6年生、無作為に抽出した者男子22名、女子24名であった。また橋本らの自己診断テスト<sup>3)</sup>によって、個人の性格との関係を見た。

この質問でうかがえるように、子どもの家庭と学校との日常生活に取材してあり、どちらかと言えば道徳的場面にかたよっている。それに、もっと大事なことは、意見の自由な発表をさせることにしていて、その予想を立てることをしなかった。だから質問ごとにまとめかたが異なり、せっかくの自己診断テストとの相関があいまいになってしまったことが遺憾である。

### 3. 石井・倉谷の approach4)

彼女らは、順応・統制・創造の三つの原理が、読書における読みの態度にどのように現われるかを試みている。読書材料としては生活文的な「草の芽」(400字詰約7.3枚)と危機的場面を描いた「ピストル」(400字詰約5枚)を用意した。別に「草の芽」と「ピストル」用の二つの質問用紙を作り、各6間に答えさせるようにした。各問の構成はつぎのようである。

島くんが倒れた沢田さんに(ドッジ)ボールを当てたこと を、どう思いますか。

- イ. それは反則ではないから、かまわない。(A)
- ロ. 勝つことを, あまり考えすぎている。 もっと楽しく遊ぶ のがよい。(C)
- ハ. 弱いものをねらうのは、よくない。ひきょうだ。(B)
- ニ. 反則でなくても、倒れた者は見のがしたほうがよい。(C)

この中の最もよいと思う回答に一つだけしるしをつけ させるのである。

もっとも、(A)(B)(C)の記号は、印刷してない。それは、(A)にしるしを付けたものは同調的=順応的な判断をしたのであり、(B)にしるしを付けた者は批判的=統制的な判断を、そして(C)にしるしを付けたものは創造的=洞察的な判断をしたことになるのである。なおこの例では(C)が2個はいっているが、これは四者択一の能力があると考えられたからで、つぎは(B)、つぎは(A)というように2個ずつ回答を用意し、各間ともいずれも4個の選択肢中から選ばせるようにした。

被験者は杉並区荻窪小5年,世田谷区梅ケ丘中1年の 計男子80名,女子75名である。ほかに精研式文章完成 法5)を実施した。

さてその結果,(A)(B)(C)と判定された児童生徒の%は,表1のようである。

表1 読書類型の%

型		小5男	小5女	中1男	中1女	男計	女計	全体
(A)同		13, 5						
<b>(B</b> )批		29.8						
(C)創	造	56.6	65.0	49.1	58.4	52. 9	61.7	57.3

表1は、読書材料の2編を通じて12問中最高を示すものが、その類型に属するものと見て統計した。ただし、12問の回答がすべて一つの類型に属するというケースはなく、二つの類型に属するものは中学生の男女に1名ずつ(BC)型、男子に(AB)型があり、その他はのこらず(A)(B)(C)の3類型を併用していた。ところで、その中には(A)と(B)とが5答、(C)が2答というように、2類型が最高を示すケースが通算10答あった。これは、0.5答として各類型に計算した。また(A)(B)(C)が4、4、4と等しく答えたものが通算7答あったが、これは%ずつ分配した。このように被験者数が少なくて、一般の傾向を見るにはやむを得ない処置であった。

かくて全体を見ると、(A)が16%、(B)が27%、(C)が57% となり、この傾向は大差がなかった。男女差はわずかに 女子に創造型が多かっただけである。

-- 「草の芽」から

とにかく、一定の差がこの方法から出ることがわかったことは収穫であった。だが、この差は、個人によって定着しているものであるか、年齢によって動き、あるいは男女差や地域差があるものなのかは、今後に待つよりほかはない。

もう一つ新しい試みを出している。それは手数がかかるが、各間の選択肢の選択率を計上し、50%以上が選択している回答を正常な線をいくものと認め、20%以下の者が選択している回答を選んだ者を異常な線をいくものと認めたのである。これは(A)(B)(C)の型にかかわらず、各間について一律に計上し、さらに、50%以上正常な回答をしたものを normal、50%以上異常な回答をしたものを abnormal と見なした。ただし50%以上、20%以下という境界線は、試みに引いたものである。

これによると、小学生と中学生との段階では、多少の ずれがあるが、各段階別に判定すると、次のような結果 が出た。

表 2 normal, abnormal の線による判定 (実数)

程	度	小5男	小5女	中1男	中1女	男子	女子	全体
norm		8	8	6	13	14	21	35
probl	em	33	23	28	27	61	50	111
abno	rmal	3	1	1	0	4	1	5

つまり「normal」と判定された子どもには問題はないが、「problem」と判定された子どもには異常を正常に近付ける問題が残されている。「abnormal」と判定された子どもは正常な点が少ないから、これを正常に近付けるために非常な努力を必要とする、というのである。だが、何が「abnormal」であるかという点には、問題がある。大勢の子が判断する傾向が「normal」だとは限らないからである。

しかしことに「abnormal」として選定された5人の子どもは、SCTテストによると、知能は低いほうであり、施設児が含まれているなど、比較的多くの問題をかかえていることは事実である。これも今後の研究を待たなければならない。

### 4. 堀口・上島・加文寺の approach<sup>6)</sup>

彼女らは、読書材料として一冊の著書、長崎源之助「ゲンのいた谷」(実業の日本社、1968)を選んでいる。 この本が出版された直後で、読んでいる子がいないこと と、学童疎開を扱っていて現代っ子のセンスで書かれて いることなどが理由である。

また別に,辻岡美延「新性格検査法―YG性格検査」<sup>7</sup> 読書感想文(400字3枚以上)及び関係読書調査を実施 している。

問題は9題に分かれ、たとえばその第1題は次のよう になっている。

○面会の日うめぼしのお母さんが来ることができなかったということについて, どう思いますか。

- イ. お母さんが来られなかったのも、うめぼしが我慢できず に泣いたのも、仕方がない。(同調型)
- ロ. まわりの人たち(たとえば正吉の父, 鶯笛の女の子)に 対してもっと元気にふるまう。(良い子型)
- ハ. どんな理由があってもめったにない面会だから、絶対に 来るべきだ。(批判型)
- ニ. 会えなかった子どもたちの面会日を別に作ってもらうよ うに先生にお願いする。(洞察型)

すなわちここでは「良い子型」という異質の類型をまじえている。これは「ある尺度や概念、先入感、常識感など、常に頭の中に持っていて、それを通して時には同調し、時には批判し、時には洞察するというタイプである。……混合型のようにある型とある型とが混ざって、定着しているのではなく、たえず3型が組み合わさったり、ひとつになったり、組み合わせが変ったりして動いているのである」というところを見ると「超越型」とでも呼ぶほうがよかったと思う。

だがこの4類型の選択肢の作り方には多分にあいまいなところがあり、Y-G テストの説明を欠いていて両者の関連を見ることができず、感動類型と性格型のあいだには「有意差なし」と結論している。しかし、この類型を利用して、単一固定期→固定混合期→固定流動混合期

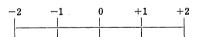
→流動混合期というように発達の時期を考え、流動混合期は「良い子型」に当たるとしているのは新しい線を出したものとして注意される。

ちなみに本調査は豊島区雑司ケ谷小5年男28名,女34名。世田谷区桜小5年女4名,同区松沢小5男16名である。

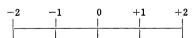
### 5. 松本・寺門・山本の approach<sup>8)</sup>

彼女らは、牛島・集団TAT検査®を利用して、これと読書興味との相関を見ようとした。この検査では、権力・愛情・社会的承認・所属・独立の五つの欲求と、三つのフラストレーション、攻撃・非現実・退行のタイプが検出されるようにできている。そこで読書興味は、五つの欲求に対して各三つのフラストレーション形式で反応できるようにした。例えば次のようである。

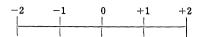
- ミーチョは村いちばんの有力者になりたいと思っている。たくさんの人々を使って、大きなリンゴ園を作ったり、多くの作物を作り出す生活を願っている。しかし、父の仕事の関係で町に引越さなければならなくなった。ミーチョは村から離れることが残念でならなかった。(権力の欲求)
  - ③ ミーチョはいつかふたたび村にもどり、村いちばんのりっぱな有力者になることを思いめぐらすだけで満足するのであった。(非現実)



② ミーチョはどうしても村にいたいと両親に頼んだ。しかし、それは無理なことだった。ミーチョは村いちばんの有力者になることがもうできないかと思うと、残念でならなかった。しかし、しかたなく両親のいうとおり村を離れるのであった。(退行)



③ ミーチョはどうしても村にいたいと 頼んだ。けれど も、けっきょく聞き入れられず無理やり町に連れていか れたミーチョは、両親に反抗しぜったいに両親には口を きかないことにした。(攻撃)



被験者は小5と中1とで、小学生は文京区明化小、淑徳学園付小、男女計59名、中学生は練馬区練馬中、世田谷区烏山中、男女計83名であった。

その結果は、興味の方向と、TAT検査における欲求とフラストレーションとの間には、高い相関はないという結論が出た。しかし読書の興味には積極的な興味と、補償的な興味とがあり、後者では現実には満足されないがゆえに一層これを欲求することがあるので、これは当然のことに属するし、また質問の選択肢にはこのことへの配慮が欠けていたということから両者の相関が低く出たのであろう。

### 6. 結 び

ここに挙げた卒業論文は、約7か月の期限で提出する ことになっているので、かんじんのテストによる性格診 断と読書興味との関係を検討することはお粗末になって しまうのはやむを得ない。また被験者を大量に用いるこ とにもむりがある。しかし私に協力してくださった 4 グ ループの諸氏は、それぞれに私にとってはよい参考を提 供してくれた。これらに励まされて、読書興味テストは かならず作ってみせようと思う。あるいは私の志を継い でいただく人があれば、そんな幸せなことはない。

(注)

- 1) 阪本一郎;読書興味診断テスト(牧書店,1958)絶版
- 2) 波方祥子・竹井博子;物語の理解からみた子 ど も の 性 格,卒業論文
- 3) 橋本重治他;教研式自己診断テスト,日本図書文化協会
- 4) 石井昌子・倉谷道子;物語の理解から見た子 どもの 性格,卒業論文
- 5) 槇田仁他;精研式文章完成法テスト,金子書房,1966
- 6) 堀口玲子・上島紀久子・加文字洋子;読書における感動の型と性格型,卒業論文
- 7) 辻岡美延;新性格検査法-Y-G性格検査
- 8) 松本典子・寺門千栄子・山本公子;読書興味の類型と性 格,卒業論文
- 9) 牛島義友他;集団TAT検査·改訂版,金子書房,1966

### 読書に関する文献 1969-1970\*

日本読書学会編集委員会\*\*

この読書に関する文献は、昭和44年から昭和45年の2 か年間にわたる、図書、紀要、研究報告、雑誌論文の中 から収録したものである。

全体の構成は、次の件名のもとに、それぞれを著者の 五十音順に配列してある。

1 一般

5 読書指導

2 心理学·牛理学

6 文学教育

3 国語教育

7 読み物研究

4 読解指導

8 授業研究

また, これらの論文中, 主要なものについては, 簡単な抄録を付して, 研究の便宜を図った。

このリストに採録した雑誌,紀要は,次の通りである。

爱知教育大学付属名古屋中学校教育研究

大阪教育大学付属平野研究紀要

学校図書館(全国学校図書館協議会)

教育科学国語教育

教育研究

教育心理

教育心理学研究

教室の窓-小学校国語 (東書)

岐阜大学教育学部付属中学校研究報告

群馬大学教育学部付属中学校紀要

言語生活

国語教育(東京都小学校国語教育研究会)

国語教育相談室 (光村図書)

国語教育の近代化

国語教育 (三省堂)

国語研究 (愛媛国語研究会)

国語研究(長崎県高等学校教育研究会国語部会)

国語の教育

国語の実践(東京都中国研)

児言研国語

児童心理

実践国語

島根大学教育学部什属中学校研究紀要

全日本国語教育協議会紀要

東京のこども(東京都立児童会館)

東京学芸大学付属世田谷小学校紀要

東京学芸大学付属小金井中学校研究紀要

読書科学

名古屋大学教育学部付属中・高等学校紀要

新潟大学教育学部付属長岡中学校研究紀要

日本教育心理学会第11,12回大会論文集

日本心理学会33,34回大会発表論文集

日本国語教育学会誌

広島大学教育学部付属中学校教育研究

宮城教育大学付属中学校研究紀要

この文献の作成者は,次の通りである。

委員長 阪本 一郎 (日本女子大学)

委員 出雲路 猛 (東京都立教育研究所)

岡田 明(立正女子大学)

阪本 敬彦 (野間教育研究所)

佐藤 泰正 (東京教育大学)

平賀 增美 (亜細亜大学)

增田 信一 (東京学芸大学付属大泉中学校)

室伏 武 (亜細亜大学)

<sup>\*</sup> Japanese bibliography of reading research, 1969-1970.

<sup>\*\*</sup> JSSR.

### 1. 一般

岩田道雄 マス・コミ時代の読書 児言研国語 No. 20 p. 18~24, 1969, 6月

乾 孝 活字人間と映像人間 言語生活 No. 221 p. 15~25, 1970, 2月

植草基一 横書きと縦書きの経験 言語生活 No. 209, p. 68~69, 1969, 2月

扇谷正造[他] 新聞を読む 言語生活 No. 230, p. 2~17, 1970. 11月

春日正一 私の青春と読書 新日本出版社(新日本 新書) 219 p. 1970

倉沢栄吉 読み書き時代は変わるか 国語の教育 No. 32, p. 16~20, 1970, 12月

黒田寛一 読書のしかた こぶし書房 251 p. 1970

言語生活編集部 読めないことば読みにくいことば 言語生活 No. 221, p. 53~57, 1970 2月

須田禎一 思想を創る読書 三省堂(三省堂新書) 189 p. 1970

飛田文雄 小泉信三の読書論について(11) 読書科学 Vol. 12, No. 2, p. 30~35, 1969, 1月

今回は精読について分析している。主な項目は、再読・再 現・記入・観察・思索・語学となっている。小泉の批判とし ては、結論が文章を作る側にかたより、文章のありかたが、 理解ないし鑑賞ということと、どういうかかわりを持つかと いうことへの論及の足らない点が指摘されている。(A・O)

飛田文雄 小林秀雄の読書論について 読書科学 Vol. 13, No. 1, 2, p. 38~42, 1970, 4月

小林の読書の目的論と方法論についての分析がおこなわれている。  $(A \cdot O)$ 

飛田文雄 亀井勝一郎の読書論について一日本近代読書論史序説(個人編その3) 読書科学 Vol. 12, No. 3, p. 10~16, 1969, 2月

とこでは、勝一郎の読書の各論の座に流れるものから1つ の体系をつかみ、それによって1つの読書論としての機構を つくることを目的としている。勝一郎の読書論の分析は、読書の目的、個人の問題、書物との対監性、文章表現の重大性は、疑問をいだくこと、批判という点からおこなわれている。(A·O)

外山滋比古 読者の世界 角川書店(角川選書) 234 p. 1969

菱沼太郎 主題雑感 児言研国語 No.26, p. 25~ 32, 1971, 1月

古野有隣 戦後の生活と読書 言語生活 No. 211, p. 36~41, 1969, 4月

堀秀彦 読書のよろこび 雪華社 250 p. 1970 堀川直義 現代の読書生活 言語生活 No. 211, p. 26~35, 1969, 4月

前園主計 読書法 日本経済新聞社(日経ノウハウ・ブックス) 222 p. 1970

前田愛 明治の読書生活 言語生活 No. 211, p. 15~25, 1969, 4月

松村久 新しい貸本店の経営 読書科学 Vol. 13 No. 1・2, p. 7~14, 1970, 4月

山下富美代 パターン識別に関する実験的研究(1)印刷 用ひらがな文字について 日本心理学会第34回大会 発表論文集 p. 197 1970, 8月

新聞用本文印刷文字のひらがな文字を対象にメッシュ版を 利用して計測し、新聞社(本研究では4社)の字体特徴の検 出を試みている。(Y・S)

横瀬善正・伊藤法瑞 文字パターンの読まれ方の研究 一経験効果の問題― 日本心理学会第34回大会発表 論文集 p. 194, 1970, 8月

アルファベットやカナ文字を部分的に線の長さを変えたり、位置をずらせたりして多くの変形文字を作り、大学生20名と小学5年6年各20名の被験者に読ませた。変形文字の読まれ方は大学生は変形が大きくてももとの文字として読む傾向が強いことがわかった。カナもアルファベットも変りないことは経験の影響のないことを示しいる。(Y・S)

### 2. 心理学・生理学

赤坂光三 心理曲線法による読解過程の分析 読書

科学 Vol. 13, No. 1・2, p. 80~86, 1970, 4月 阿部初枝 当幼稚園における文字の読み書きの実態とその考察 新潟大学教育学部附属幼稚園・附属長岡小・中学校教育論究 No. 9, p. 29~38, 1969, 3月 天野清 語の音韻構造の分析行為の形成とかな文字の読みの学習 教育心理学研究 Vol. 18, No. 2, p. 76~89, 1970, 6月

第1実験は就学前児童の単語の音節分解に関する実験と 第2実験はそれと文字の習得との関係についての実験である。第1実験では①日本語の基本的な音節を正しく分解できるようになる概略的年令時期②各種の音節を分析分解するにあたっての児童の反応の特徴と、年令との関係③この種の教育を受容できる概略的な年令時期を検討した。5歳及び4歳後年児はきわめて容易に基本的な日本語の音節を分解したが、3歳及び4歳前年児は正しい反応を確立するのに何回もの練習を必要とした。第二実験の結果によれば、音節分解や抽出行為の形成の程度がかな文字の習得の程度と密接に結びついているという。(Y・S)

アー・ア・レオンチェフ・天野清訳 連載講座 ソビエト言語心理学(4) 内言と陳述の文法的発生の諸過程 児言研国語 No. 18, p. 40~48, 1969, 1月
 出雲路猛 子どもと読書一現代っ子の読書傾向と問題点一 東京のこども No. 17, p. 2~7, 1969, 10月1. 子どもをとりまくマス・メディア、2. 新しいマスメディアの提携, 3. マスコミに静かなブームを呼ぶ読書活動一子ども読書傾向とこどもがとらえるおもしろ さについて。(T・I)

井野朝二, 鹿取広人, 高橋澪子, 山田麗子 文字を媒介とする言語行動の形成一発達失語症を伴うと推定される聴力障害児の症例1,2- 日本教育心理学会12回総会発表論文集 p.86~89.1970,10月

聴力障害に加えて、発達性失語症も疑われる2つの症例について、文字の言語を媒介とする言語行動の形成の試みとその際の学習過程について報告している。(Y・S)

大西誠一郎[他] 読書レディネス・テスト作成の試み (2) 日本教育心理学会11回大会論文集 p. 186~187 1969, 10月 ここでは試作されたテストの統計的な検討がおこなわれている。(1)各問題に対してそれぞれの小問が正当に寄与しているかの検討,(2)問題別,年令別の平均と標準偏差,ここでは標準偏差を重視し,それをそろえるように訂正がおこなわれた。(3)問題別・年令別正答率の変化,選ばれた問題の正答率は年令とともに上昇していた。それがテストの信頼性を示す一つの指標として考えられた。 (4)内部相関はかなり高く(.56~.88)少し問題がある。テストは比較的分化した能力を多方面にわたって測定できることが望ましいからである。(5)テストの信頼度はキューダー・リチャードソンの公式に求められ,.978で信頼度は高い。(6)妥当性は小学校1年生44人の国語の成績との相関が求められたが必ずしも高い妥当性はえられていない。(A・O)

大西誠一郎[他] 読書レディネス・テスト作成の試み (1) 日本教育心理学会11回大会論文集 p. 184~185 1969, 10月

ことでは、読むことの機能に即して、その適合状態をテストしようとして、読書レディネステストが作成されようとしている。テスト作成にあたっては六つの要因を考え、それぞれに適する問題を作成したのである。(1)絵の指示、(2)事物の理解、(3)お話の記憶、(4)形の弁別、(5)絵と文字の結合、(6)お話の構成、テスト問題は62あったが、次の基準に達しないものは削除された。(1)発達の上で有意差のないもの、(2)5、6歳を通じて正答率がともに80%をこえるもの、(3)3つの年今を通じて、いつもその正答率が30%に達しないもの。(A・O)

大西誠一郎, 塚原美代子, 力富敬子 読書レディネス・テスト作成の試み(3)・(4) 日本教育心理学会12回 総会発表論文集 p. 130~133, 1970, 10月

読書レディネステスト作成の標準化過程を中心にのべている。なお、との読書レディネステストは、①絵の指示、②事物の共通性の理解、③話の記憶、④形の弁別、⑤絵と文字の結合、⑥お話の構成、からなっている。そして、テストの得点及び各問題毎の年令段階ごとの得点、各下位テスト間の相関、国語学力テストとの相関、再テストによる信頼度の検討などを行なっている。(Y・S)

岡田明 読みの反転錯誤と禁止傾向の汎化 勾配 の関係 日本教育心理学会11回大会論文集 p. 204~205

1969, 10月

1969. 8月

禁止傾向の汎化勾配を測定し、それと読みの反転錯誤との関係を見ることを問題としている。被験者は幼児である。反転錯誤は原刺激に対して4つの比較刺激のいずれを指示するかによって測定された。禁止傾向の汎化勾配は次のようにして測定された。1~7までの円のうち、中央の4の大きさの円を負刺激とし、同面積の6角形を正刺激として、6回連続正反応のみられた時に、訓練完成のクライテリオンとした。汎化検定はラテン方格法により12の組合せを1サイクルとし、2サイクル実施。G・P分析によるとP群の方が禁止傾向の汎化勾配がやや大きく、汎化勾配の右側では5%水準の有意差があった。分散分析によると、個人差や、刺激提示順には差なく、実験条件には1%水準の有意差があった。(A・O) 岡田明 読みの反転錯誤と大きさ次元の汎化勾配の関係 日本心理学会第33回大会発表論文集 p. 271,

岡本圭六 発達課題と読書 児童心理 Vol. 24, No. 7, p. 21~29, 1970, 7月

尾原淳夫 子どもの読書についての親の関心度 児 童心理 Vol. 24, No. 7, p. 149~155, 1970, 7月

海保博之 片仮名文字相互間の類似性判断次元と見易 さの関係 心理学研究 Vol. 40, No. 6, p.337~ 339, 1970, 2月

カタカナ15文字相互間の類似性判断行列の因子分析によって、5つの因子を抽出し、これらと文字の見易さとの関係を重回帰分析によって検討した。抽出された因子は鉤型、十字型、右上り斜線とその上の点、横の平行線とそれと交叉する垂直線、鉤型とその内の点、として特徴づけられた。このうち、見易さに積極的消極的に関するのは十字型、斜線とその上の点であることが示唆された。(Y・S)

海保博之 カタカナ文字相互間の類似と誤反応との関係 日本心理学会第33回大会発表論文集 p.117 1969,8月

5×9のメッシュに量子化されたカタカナ十文字15個を用いて、識別実験および類似性判断実験を行ない、文字相互間の誤反応の様相と類似の様相との関連を調べた。被験者は大学生20名。類似度が高くかつ誤反応の多い文字群と類似度は

低いが誤反応の多い文字群の二つに大まかに分類されるという。前者は縦横方向の交叉した構造をもつ文字群,後者は斜め方向,または鈎構造をもつ文字群として特徴づけることができようとしている。(Y・S)

河井芳文 漢数字のリーダビリティ 日本心理学会 第34回大会発表論文集 1970,8月

縦書きにおける漢数字の読み易さをアラビア数字との比較において検討する。方法は数を内容とした短文の読時間の測定と数字だけを並べた簡単な加減算を行なわせる方法の二つを用いた。前者ではアラビア数字の方が読み易かった。後者の方法ではアラビア数字の方が計算が早い。(Y・S)

久保田正人 語盲と構成失行をともなった精神薄弱の 一事例 心理学研究 Vol. 41, No. 4, p. 205~ 212, 1970, 10月

語盲 (失読,失書)をともなっている精神薄弱児の事例を報告している。語盲の状態に対して12歳3か月以後約2年間の治療教育を試みた。結果はひらがなはほとんど記憶し,多少は使用できるようになった。改善された内容は,文字と音の一致に関する健忘がかなり克服されたこと,文字によって語や文を作るときの脱字誤字を自発的に予防し,吟味する能力が促進されたことである。(Y・S)

久保田正人 読字書字に選択的障害をもつ精薄児の一 事例 (続報) 日本心理学会第 33 回大会発表論文集 p. 333 1969, 8 月

発達性読字書字困難と構成失行を併せもつ精薄児についての事前報告である。継続的な研究発表を行なっているが、今回は前回の続報という形で、その後の一年間の学習過程を報告している。そして、文字についての記憶が安定して健忘的でなくなったこと、語や文を読み書きするという自発的吟味がかなり速く行なえるようになったことなどが報告されている。(Y・S)

小口崇博 読書不振児・読書優秀児の発見と指導 教育心理 Vol. 18, No. 3, p.68~71, 1970, 3月

奥水実 心理学説における思考と言語―連載講座・思考と言語・第11回― 教育科学国語教育 No. 136,p. 127~131, 1970, 2月

小林芳郎 文字の認知に関する発達的研究一文字の認

知と意味性について一 日本教育心理学会12回総会 発表論文集 p. 174~175 1970, 10月

文字の認知のされ易さを調べるために抹消テストを行ない、文字の意味性を調べるために同頭文字連想語の多少を調べ、さらに両者の関係を調べた。被験者は5、6歳幼児50名、小学1年50名、小学2年50名。これと対象するため中学1年生200名を用いている。抹消テストの結果は各文字によって違いがみられ、認知されやすい文字と認知されにくい文字のあることを示している。要因として、単純性、直線性、非類似性をあげている。小学生と中学生の間の差はあまりみられないことから、文字の認知のしやすさは相当早い時期におそくとも文字学習をはじめる時期にみられ、この傾向が一貫しているとしている。連想検査と抹消テストの関係をみると、相関係数は正であったが、係数はそれほど大きくない。(Y・S)

阪本一郎 「児童漫画長靴の三銃士」 読書科学 Vol. 12, No. 2, p. 36~44 1969, 1月

前編は靴帽子にプラスとマイナスの誘意性を与え、そのコンフリクトが物語られ、後編は、靴帽子を如意宝として利用することを中心に、漫遊記ふうに正義の使者としての冒険を語り、ついにその呪力から離脱するという話である。靴帽子は軍備の偶意であり、三統士はそれを廃することを切望しながら、その必要に迫られていく国民の姿を示している。そこで、この作品は世相風刺のマンガとなっているという。表現上の新機軸は、映画シナリオの体裁をとっていることである。(A・O)

阪本一郎 速読のすすめ 学芸図書 253 p. 1969 阪本一郎[他] 絵本と子ども 読書科学 Vol. 12, No. 2, p. 23~29, 1969, 1月

ここでは質問紙法により、幼児の親に、どのように絵本を与えているかの実態などについて調べたものと、もう一つは、幼児にさまざまな絵本の絵を見せて、どのような表現方式の絵が子どもに好かれるかを検討したものが研究されている。調査によると、気分的で、白い余白を生かした新しい画風の絵が好かれている。しかしこの点は実験結果に反している。著者らは、絵の表現方式より、物語の興味の重要さを示唆している。(A・O)

阪本一郎[他] 物語の理解における子どもの態度の診

断の試み 読書科学 Vol. 12, No. 3, p. 17~27, 1969, 2月

子どもが物語を読むとき、その内容に対してどのような態度をとるかを検出するのが研究の目的である。方法は一定の物語を読ませた後で、その内容について質問紙の多肢選択法により回答させるやり方である。結果は、同調型、批判型、

洞察型の3型にほぼ同じ数で分散していた。(A·O)

阪本一郎 読書速度の発達 日本教育心理学会12回 総会発表論文集 p. 92~93、1970、10月

はじめに学年に応じた読み易さの基準の設定を行ない、ついで、その基準に応じた文章の読みの速さを測定している。 前者の読み易さの基準としては漢字の使用率、基本語い率、 長文率、直接叙法文率をあげ、現行教科書小学1年から高校 3年までを比較した。それによると、①漢字率、②基本語い 率、③長文率の3つが読み易さの基準として使用できるとし ている。つぎに、各学年の基準に適した材料をあたえれば読 速度は変らないだろうとの仮説にもとづいて、読材料を作っ て速度を調べたところ、読書時間は学年によって発達すると いう結果がでた。(Y・S)

阪本敬彦 読書問題児の指導 児童心理 Vol. 24, No. 7, p. 128~133, 1970, 7月

佐藤泰正 速読法 旺文社 235 p. 1969

佐藤泰正 読みのメカニズム 言語生活 No. 221, p. 35~52, 1970, 2月

読書過程の生理的心理的考察がおこなわれている。つまり 読みと眼球運動, 読みと知覚, 読みと情緒および思考過程が 実験をふまえて考察されている。(A·O)

佐藤泰正 大学生の速読訓練 読書科学 Vol. 13, No. 1・2, p. 1~6, 1970, 4月

ここでは実験群31名について、いろいろな角度から分析した結果が報告されている。何を測度とするかによって結果が影響を受けている。また訓練効果はすべての被験者に一様ではなく、個人差のあることが見出されている。また速読訓練の効果とパーソナリティとの間にもある種の関係があった。(A・O)

流沢武久 感動と思考―その教育に果たす機能―国語教育 Vol. 11, No. 8, p. 10~13, 1969, 10月

思考のエネルギーとしての感動とは。ジャネの学説とその限界。感動と価値と思考について。~国語学習の過程でも、思考による探索をかりたてるような教材である限り、子どもの心をゆさぶる質の高い感動が、つくり出されるであろう。(T・1)

中学生の読書研究会 VI「坊っちゃん」の読み易さに ついて 学校図書館 No. 224, p. 42~50, 1969, 6月

津堅房弘 数学的能力と読書歴 教育心理 Vol. 18, No. 11 p. 72~74, 1970, 11月

読書力と数学的能力の関係をのべた2つの事例報告である。読書力を向上させることによって数学的能力の向上がみられた事例があげてある。( $Y\cdot S$ )

久本智子・芳賀純 児童文学における童話の原話と再 話の児童による鑑賞態度の 比較 研究 読書科学Vol. 12, No. 2, p. 15~22, 1969, 1月

内容において差のある原話と再話では、児童の理解にも差が出るのではないかとみて人物についての理解、感動場面および話の好みから研究がおとなわれた。父親と母親の理解については原話と再話で子どもの理解に差が出た。感想についてみると、再話の方は、不明確な理解となり発達のあまり見られない画一的な感想が多く原話の方は、明確な理解を与え、発達により理解に深まりがみられた。原話の方では、グレーテルが魔女を殺す場面が印象的であり、再話の方では2年、5年ともその場面に多く感動したのに対して、再話の方では、2年では金貨やお菓子の家により強く印象を受け、5年ではグレーテルがまほうつかいを殺す場面に、特に男子が多く感動した。結論として、ここで使われた原話と再話では、原話の方が好ましかった。研究法は、テープで読みきかせた後で質問紙法により分析したものである。

福沢周亮 漢字を学習材料とした読字学習の機構に関する研究(1)―児童における日本語二音節と図形の有意味度と熟知度― 教育心理学研究 Vol. 18, No. 3, p. 158~165, 1970, 9月

日本語二音節 100 語についての有意味度表と熟知度表を作り、両者の相関係数をもとめたところr=0.955、前者をX、後者をYとすると回帰直線はY'=1.23X+0.84となった。

図形の有意味度と熟知度については、50の図形について調べたところ、相関係数はr=0.880、前者をX後者をYとすると、回帰直線は、Y'=1.20X+1.63となった。

つぎに図形と2音節を組合わせて、4群を作り、学習実験を行なった。熱知度の高いもの同志の学習が熱知度の低いもの同志の学習より容易であった。 (Y・S)

松田隆夫 量子化片仮名文字の識別過程に関する研究 一部分提示に対する正反応の分析(予備報告) 日 本心理学会第34回大会発表論文集 p. 195, 1970, 8 月

 $9 \times 5$  で量子化された文字パターンの部分を欠くことによって、正しく読まれる割合をしらべている。( $Y \cdot S$ )

松村友次 ウシンスキーに学ぶ 児言研国語 No-18 p. 52~55, 1969, 1月

# 3. 国 語 教 育

池本一夫 中学校を例に――授業に直結した評価を考える―― 教育科学国語教育 No. 134, p. 76~82, 1969, 12月

井上敏夫 読みにおける志向性——理論講座・生活読み・第1回—— 教育科学国語教育 No. 138, p. 107~117, 1970, 4月

井上尚美 欧米の国語教育について(その1) 児 言研国語 No. 20, p. 25~28, 1969, 6月

井上尚美 米国における国語教育の実態 児言研国 語 No. 22, p. 38~41, 1969, 11月

井上尚美 欧米の国語教育(その3) 児言研国語 No. 23, p. 38~41, 1970 1月

岩田道雄 中学校学習指導要領·国語科篇批判 児 言研国語 No. 19, p. 25~26, 1969, 3月

岩渕悦太郎 国語教育の新しい方向 教室の窓(小 学国語) No. 1, p. 1~4, 1969, 4月

1. 日本語の鑑賞と文字の鑑賞, 2. 文字と文章——言語表現の理解について——, 3. 文章の読解と文法, 4. 読書の重要性 (T·I)

大久保忠利 批判的言語観 → 国語教育理論史18 石山

修平の三読主義とその限界 児言研国語 No. 18, 7月 p. 56~64, 1969, 1月

大久保忠利 批判的言語観 → 国語教育理論史19 石山 の「味読」と解釈学の正体 児言研国語 No. 19. p. 57~64, 1969, 3月

大久保忠利 教師・国語教師への真剣な7つの問いか け 児言研国語 No. 20, p. 49~57, 1969, 6月 大久保忠利 正しい言語本質観を学習して国語教育の 目標を焦点づけよう――全国の国語教師仲間への呼び かけをこめて—— 児言研国語 No. 21, p. 55~ 63、1969、9月

大久保忠利 証者の語る戦後国語教育史(その1) 「批判よみ」再評価――荒川区国語研究サークル共著 『批判読み』を一書証としつつ―― 児言研国語 No. 23, p. 46~55, 1970, 1月

大久保忠利 証者の語る戦後国語教育(その1の2) 明日を目指す「批判よみ」 再評価――『日本の教 育』と荒川区教研国語部会編著『批判読み』とを書証 としつつ—— 児言研国語 No. 24, p. 49~59, 1970、5月

大久保忠利 =問いかけ「今まで日本に国語教育は有 ったか?」=国語教育の全面的革新の訴え「第7回児 言研アカデミー」出席諸氏へ 児言研国語 No. 25, p. 3~12, 1970, 8月

大久保忠利 国語教育の全面的革新と表現よみの位置 づけ(その1) ――第7回児言研夏季アカデミーで話 したことのまとめ--- 児言研国語 No. 26, p. 3~11, 1971, 1月

大熊信行 国語教師に訴える――民族意識と「読み」 の速さの問題など—— 国語の教育 No. 9, p. 123~130, 1969, 1月

大槻一夫 国語科読書のありかた 国語教育の近代 化 No. 94, p. 36~40, 1970, 5月

大村はま 読書生活の指導――実践から得たひとつの 計画案—— 国語の教育 No. 25, p. 37~46, No. 26, p. 23~45, No. 27, p. 37~49, 1970, 5月, 6月

岡田明[他] 読む生活の問題点 言語生活 No. 221, p. 2~14, 1970, 2月

押上武文 いろどりのあるふかい共体験を土台に 教育科学国語教育 No. 124, p. 55~64, 1969, 2月 越智敏夫・他(長崎市教育委託研究サークル) 学習 意欲を高める文学的教材の学習指導の研究(読書指導 と読解指導の関連) p. 60, 1969, 2月

亀村五郎 わたしは迷わない──文学教育と読書指導 ・その実践的問題点--- 教育科学国語教育 No. 135, p. 45~47, 1970, 1月

熊谷孝 印象の追跡としての総合読み 児言研国語 No. 18, p. 34~39, 1969, 1月

倉沢栄吉 国語科教育の専門性と「創造」(その1~ その9) 国語の教育 No. 9, 12, 15, 18, 21, 24, 25, 26, 27, 1969, 1月~1970, 7月

倉沢栄吉 国語教育と創造性 教室の窓(小学国語) No. 4, p. 1~3, 1970, 1月

倉沢栄吉 国語科教育の専門性と「創造」 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 国語の教育 No. 12, 1969, 4月~1971, 1月

江東区立大島中央小学校 学校教育活動における国語 教育---第一学年を中心として--- 1969

国語科教育と国語教育の関連を明らかにする。各教科領域 における国語の教育は如何にあるべきか。 (T・I)

輿水実 想像を働かせて読む場合,拡がる傾向をどう 国語教育の近代化 No.86, p. 52~56, するか 1969, 9月

輿水実 国語科指導過程の理論 国語教育の近代化 No. 91, p. 1~33, 1970, 2月

輿水実 国語教育の内容的価値,特に文学教育の価値 について 国語教育の近代化 No. 96, p. 1~24, 1970、7月

輿水実 明瞭な思考,まっすぐな思考,批判的思考 教育科学国語教育 No. 130, p. 127~131, 1969, 8

- 興水実 言語と創造的思考 教育科学国語教育 No. 131, p.127~131, 1969, 9月
- 興水実 思考力を高める国語科教育とは何か――連載 講座・言語と思考・第12回―― 教育科学国語教育 No. 137, p. 127~131, 1970, 3月
- 小松善之助 教研の課題を全会員のものに――第十八 次教研全国集会に参加して―― 児言研国語 No. 19, p. 47~52, 1969, 3月
- 西郷竹彦 松永・古田論争に対する一私見――文芸学 の観点より―― 国語の教育 No. 26, p. 76~86, 1970, 6月
- 佐藤喜代治 読むことの歴史 言語生活 No. 221, p. 26~34, 1970, 2月
- 滋賀県彦根市稲部町・稲枝東小学校 思考力を高める 読みの指導 1970

思考を深め,関係的な読みとりができる発問の研究(T・

- 佐藤和彦[他] "情報時代"と国語教育の変革<その 1> 国語教育 Vol. 11, No. 3, p. 5~22, 1969, 4月
- 斎藤はるみ[他] <特集>"情報時代"と国語教育の変革<その2> 国語教育 Vol. 4, No. 4, p. 5~21, 1969, 5月
- 沢田尚彦(他) "情報時代"と国語教育の変革<その</li>3> 国語教育 Vol. 11, No. 5 1969, 6月
- 鈴木一彦 関連指導の考え方を中心に 教育科学国 語教育 No. 125, p. 26~32, 1969, 3月
- 高橋和夫 学年目標を中心に 教育科学国語教育 No. 125, p. 5~11, 1969, 3月
- 田中良三 一見やさしく, その実奥深い発問を――文 学教材の場合―― 教育科学国語教育 No. 138, p. 81~87, 1970, 4月
- 竹田正雄 言語行為における創造性の開発——読むは たらきの高まりを中心に—— 国語の教育 No. 12, p. 37~46, 1969, 4月
- 竹内彰[他] 読解と鑑賞との相互作用について 群 p. 8~16, 1969, 9月

馬大学教育学部付属中学校研究紀要 No. 17, p. 5~20, 1969

- 戸田市治 <現場の国語教育研究 2 >基本的指導過程の各段階における応能学習の実践 国語教育の近代化 No. 87, p. 42~54, 1969, 10月
- 東京都立教育研究所国語研究室 古典(古文)学習の意義と学習上の問題点 1970,6月
  - I 古典学習に対する生徒の意識調査
- Ⅱ 古典の意味
  - Ⅲ 古典学習における二,三の問題点
    - (1) 教材の精選について
    - (2) 文法 (語法)・語い指導について
      - ① 習得困難の状況
      - ② 体系文法か機能文法か
      - ③ 語い指導について
    - (3) 入門期の指導について
  - (4) 学習形態・授業内容等について (T・I)
- 飛田文雄 文章メディアにおける指導過程の問題点 —文学の指導過程と読書の指導過程 教育科 学国語教育 No. 135, p. 26~31, 1970, 1月 外山滋比古 未知を知るための文章 国語教育
- Vol. 12, No. 7, p. 4~5, 1970, 6月 外山滋比古 読書的個性の養性を 国語教育 Vol.

12, No. 10~12, 1970, 12月

- 富山県東砺波郡福野町福野小学校 国語科において自 主的学習をすすめる研究 1970
- 中西昇 現代を生きる国語教育 新任教師の悩みと 対策をめぐって 国語の教育 No. 25, p. 18 ~31, 1970, 5月
- 野中幸夫 研究授業とその問題点 国語教育の近代 化 No. 95, p. 39~52, 1970, 6月
- 永野重史 講演・国語教育の目標と授業改造 児言 研国語 No. 26, p. 56~64, 1971, 1月
- **薙野敏光** 文学教育・言語教育の領域を明確に 国語の教育 No. 20, p.27~31, 1969, 12月
- 滑川道夫 読みの柔軟性 国語の教育 No. 17, p. 8~16, 1969, 9月

滑川道夫 読みの創造性 国語の教育 No. 20, p. 8~20, 1969, 12月

滑川道夫 読解読書指導論 東京堂 276 p. 1970 奈良県桜井市桜井小学校 国語科読書指導補充教材指 導計画の研究 1970

国語科の読書の指導を充実 する ため、補充教材を取り上げ、どう指導していくかの研究。 (T・I)

馬場正男・大久保忠利 解釈学理論の遺産は否定すべきか 国語の教育 No. 21, p. 86~100, 1970, 1月

林進治 意見 (2) こどもひとりひとりの表象形成を 大切に 児言研国語 No. 18, 26~29, 1969, 1月 林進治 講座:現代国語教育諸説をきる 2 沖山光 氏「構造読解」についての疑問――果して看板にいつ わりはないか―― 児言研国語 No. 22, p. 56~ 64, 1969, 11月

林進治 説明文の読みの指導体系について――各学年 所論を読んで―― 児言研国語 No. 23, p. 28~ 34, 1970, 1月

林田哲治 講座:現代国語教育諸説をきる 1 「国 語教育における輿水理論について」――その反動と非 科学性をつく――児君研国語 No. 21, p. 44~50, 1969, 9月

平井昌夫 読書と読解——文学教育と言語教育—— 教室の窓 (小学国語) No. 3, p. 1~4, 1969, 9月 平井昌夫 読むことの評価と留意点 教育科学国語 教育 No. 134, p. 12~18, 1969, 12月

藤原宏 読むことの指導 ()——学習指導要領国語科 改訂の要点<小学校>—— 教育科学国語教育 No. 129, p. 110~116, 1969, 7月

国語科で読みの対象となる文章の内容を言語表現に即して 客観的に正しく読み取る指導が中心的な指導内容と考えられ ているのは、読むことの価値をじゅうぶんに吸収する能力の 基礎を養おうとしているからにほかならない。そして、このような指導内容を多くの場合、読解指導といっているのである。しかし、読むことの能力を養う読解指導がいかにたいせつであったところで、読むこと本来の意味を忘れた読みの指導であってはならないであろう。そのためか、読解指導のなかに読書価値を含めて考える立場も当然出てくるのである。そして読解を広義に考えるこのような立場からするならば、読書と読解とを区別することはできないであろう。

今、一応読解と読書とを区別して考えたところで、実は読書も読解も本質においては同じなのであって、具体的には読む活動のなかで一体であるべきものなのである。ただ、読書という活動は、文章を読むことを行為的にとらえた姿であり、一方、読み手の読書行為を内面でささえているのが、読解という活動にほかならない。つまり、読解と読書とは学習指導上一応分析的に分けてはいても、実際の読むことの生活においては、一体のものとして考えるべきなのである。(S・M)

藤原宏 読むことの指導 (二――学習指導要領国語科 改訂の要点<小学校>―― 教育科学 国語 教育 No. 130, p. 108~114, 1969, 8月

増田三良 読みの基礎理論——読解指導・読書指導の ために—— 新光閣 267 p. 1969, 11月

増田信一 読書指導と鑑賞指導 読書科学 Vol. 13, No. 1, 2, p. 50~56, 1970, 4月

読書指導をたんなる鑑賞指導で終わらせないく ふう と して、次のことが考えられる。

- (1) 国語教科書一辺倒の指導から、副読本や課題図書を使う主体的指導計画をたて実施すること。
- (2) 読書単元で扱う教科書教材に配当する時間を切りつめて、学習者の興味や緊張が持続するように配慮し、合わせて教科書教材以外の教材を扱う時間を年間計画に位置づける。
- (3) 国語科の読書指導の時間には、漢字指導や難解語句を とりたてて指導しない。
- (4) 国語科の読書指導は聞く話すとも関係づける。
- (5) 家庭の課題読書を国語科の指導計画にはっきりと位置づけるようにする。 (A・O)

増田信一 「読みの指導」の前進を 日本国語教育

- 学会誌 No. 33, p. 2~3, 1969, 11月
- 松永信 教材研究の方法について——古田拡氏の批 判に答える—— 国語の教育 No. 26, p. 71~78, 1970、7月
- 松永信一 イメージの構成と格助詞「が」──古田拡 氏の疑問に答える ⇔── 国語の教育 No. 27, p. 25~36, 1970, 7月
- 宮川利三郎 国語科思考学習における実践的課題 教育科学国語教育 No. 129, p. 12~18, 1969, 7月 学習過程の実際からいえば、少なくとも、五段階ぐらいの 思考過程が必要になってくる。たとえば、
  - (1) 問題を持って文章を読む。あるいは、文章を読むことによって問題を発見する。
  - (2) 全体を見通して、予測する。予見する。
  - (3) 予測したものを、文章・文・語句によってたしかめる
  - (4) 結論を出し、確認する。新しいものを発見する。
  - (5) 思考をさらに他の文章へ発展させ、応用する。等が考えられる。(S·M)
- 村松友次 表象化こそ 教育科学国語教育 No. 131, p. 30~35, 1969, 9月
- 望月久貴 思考学習と思考法の学習 **教育科学**国語 教育 No. 129, p. 5~11, 1969, 7月
- 柳辰男 わたしの文学教育と読書指導 日本国語教 育学会誌 No. 33, p. 4~7, 1969, 11月
- 山口信三 具体化→ 具体化
  → 加象化 (プランの仕事) に焦点を
  児言研国語 No. 23, p. 22~27, 1970, 1月
- 山路峯男 読書指導と読解指導の関連――アンケート 回答報告―― 国語の実践(東京都中国研) No. 7, p. 59~65, 1969, 3月
- 吉川数 (現場の国語教育研究1)小説の学習指導過程における諸問題 国語教育の近代化 No. 92, p. 29~42, 1970, 3月
- 若尾忠 小学校高学年を例に――特に「思考」という ことを中心にして―― 教育科学国語教育 No. 134, p. 69~75, 1969, 12月

# 4. 読 解 指 導

- 愛知県豊田市豊南中学校 読解指導の改善 1970 主として文学作品の教授=学習過程と子どもの思考につい ての実証的研究。 (T·I)
- 相原永一 子どもの思考・感受と映像の読み――映像の読みと文章の読みの関連を考える―― 教育科学 国語教育 No. 133, p. 29~34, 1969, 11月
- 青木幹男 ゆたかな読みを育てるささやかなことろみ教育研究 1969, 11月
- 青木幹男 考えながら読む 読むことと思考 試論 2 教育研究 1969, 1月
- 青森市古川中学校 文学教材の読解指導 1970 青森県黒石市立牡丹平小学校 主体的な読み方指導 1970
- 有定稔雄 文図による読解・作文指導 明治図書 154 p. 1970
- 板倉聖宣 批判的に読ませる指導の必要性 教育科 学国語教育 No. 132, p. 44~50, 1969, 10月
- 稲本次郎 構造理論に立つ指導過程の特質 教育科 学国語教育 No. 136, p. 47~49, 1970, 2月 学習過程
  - 第一構造の学習——するどい洞察力を練ることをねらいに みとおし。
  - 第二構造の学習——分析・統一思考力 ふり分け・重みづけ。
  - 第三構造の学習――こうだ、これでよしという意志決定能力 ねりまとめ。 (S・M)
- 井上敏夫 生活読みの指導過程の特質 教育科学国 語教育 No. 136, p. 53~55, 1970, 2月
- 井上敏夫 生活読みの指導過程——理論講座・生活読み・第2回—— 教育科学国語教育 No. 139, p. 103~113, 1970, 5月
- 井上敏夫 読むこと指導における「感想」――理論講座・生活読み・第3回―― 教育科学 国語 教育 No. 140, p. 104~114, 1970, 6月
- 井上敏夫 生活的読みの観点から 教育科学国語教

育 No. 132, p. 23~29, 1969, 10月

井上弘 範例学習の取り入れ方 教育科学国語教育 No. 129, p. 24~28, 1969, 7月

井上正敏 読書力の向上は可能か 教育科学国語教 熊谷孝 育 No. 125, p. 48~54, 1969, 3月 に——

岩下忠男 説明的文章の特質,機能による読みの深まりを――説明的文章の指導過程はどうあるべきか――教育科学国語教育 No. 141, p. 19~21, 1970, 7月岩坪昭子 読む力を高めるために読解指導と読書指導をどうつなぐか 読書科学 Vol. 13, No. 1・2, p. 66~75, 1970, 4月

植西耕一 読み手主体に読みとらせることと資料を教えることの違い 教育科学国語教育 No. 127, p. 76~78, 1969, 5月

大西忠治 指導過程構成の観点――説明的文章の教材 研究と指導過程の関連―― 教育科学 国語 教 育 No. 141, p. 40~48, 1970, 7月

大西忠治 「事実」なのか「データ」なのか 教育 科学国語教育 No. 132, p. 37~43, 1969, 10月 大原輝夫 主体的学習の取り入れ方 教育科学国語

大原輝夫 主体的学習の取り入れ方 教育科学国語 教育 No. 129, p. 29~33, 1969, 7月

沖田千尋 イメージと認識の育成を図る――映像の読みと文章の読みの関連を考える―― 教育科学国語教育 No. 133, p. 35~40, 1969, 11月

越智聡 読みにおける「間」について――その資料と 試論―― 愛媛大学教育学部付属中学校研究紀要 No. 25, p. 55~62, 1969, 5 月

上飯坂好美 「読むことの意味」を考えて実践的な研究をつづける――寄贈研究誌から問題をひろう―― 教育科学国語教育 No. 146, p. 106~108, 1970, 12

城戸幡太郎 説明的文章の読み方 児 言研 国 語 No. 23, p. 2~7, 1970, 1月

草野典一 映像的体験と読みとの結合 ---- 映像の読みと文章の読みの関連を考える ---- 教育科学国語教育 No. 133, p. 17~22, 1969, 11月

0月 熊谷孝 印象の追跡としての総合読み――理論講座・教育科学国語教育 文体づくりの国語教育・第3回―― 教育科学国語教育 No. 143, p. 107~115, 1970, 9月 教育科学国語教 能谷孝 "伝え合い"の機能を豊かなものにするため。

に――映像の読みと文章の読みの関連を考える―― 教育科学国語教育 No. 133, p. 11~16, 1969, 11月 郡馬県桐生市立東中学校 読解指導を効果的にすすめ

興水実 説明文の読解指導について 国語教育の近 代化 No. 85, p. 52~56, 1969, 8月

るためのことばのきまりへの配慮 1970

興水実 思考過程と思考スキル――連載講座・言語と思考,第10回―― 教育科学国語教育 No. 135,p. 127~131, 1970, 1月思考スキル

- 1. 知られていることの思考のスキル
  分類,組織,一般化,定義,要約,総合
  - 2. 創造的思考のスキル 流暢さ、融通性、独創性、仕上げの能力、問題への感 受性、原因を見る、結果を予測する、有用な質問を出 す。
- 3. 批判的思考のスキル 比較、分析、データの解釈、批評。 (S·M) 興水実 読解学習の近代化 国語教育の近代化 No. 81, p. 1~16, 1969, 4月

興水実 戦前の解釈学と戦後の読解法 国語教育の 近代化 No. 92, p. 1~22, 1970, 3月

興水実 各地における読解の基本的指導過程の実践形態 国語教育の近代化 No. 94, p. 1~33, 1970,5月

興水実 読み=思考の基本的な考え方と方法 教育 科学国語教育 No. 132, p. 127~131, 1969, 10月 興水実[編] 国語科読解法指導細案 明治図書 3 巻

小松善之助 児言研セミナー<入門講座> 指導要領

の技能群について――説明文読解を中心に―― 児 言研国語 No. 18, p. 49~51, 48, 1969, 1月 埼玉県入間郡大井町立大井中学校 読むことにおける ことばのきまりの研究 1970

斎藤義光 その有機的連けいをめざして――映像の読 みと文章の読みの関連を考える―― 教育科学 国語教育 No. 133, p. 23~28, 1969, 11月 三枝康高 構造分析理論に立つ指導過程の特質 教

育科学国語教育 No. 136, p. 50~52 1970, 2月

小説の場合の指導過程

第一次の読み=場面読み

- 1. 全文の読みと形象のとりたて
- 2. 読後の印象から問題意識へ
- 3. 場面の設定と見出しつけ
- 4. 事件のあらましと梗概の要約

#### 第二次の読み=構成読み

- 1. 部分の読みと視点の確認
- 2. 人物と状況との関係の図式化
- 3. 主人公の心理と行動の分析
- 4. やま場についての発問と応答

#### 第三次の読み=典型読み

- 1. 感情を移入した全文の読み
- 2. 作品の主題とその方向づけ
- 3. くらべ読みと主人公の典型化
  - 4. 感想文による一般化 (S·M)

佐々木達夫[編] 読みとりの授業 明治図書 178 p.

速読の指導 Vol. 17, No. 5, p. 20~ 佐藤泰正 25, 1969, 5月

静岡県島田市島田第一中学校 読解指導 1970 渋谷孝 真実を正確に読むということの問題――分か るということをめぐって―― 教育科学国語教育 No. 141, p. 22~24, 1970, 7月

菅野宏 知的生産と感動を中心に 教育科学国語教 育 No. 132, p. 30~36, 1969, 10月

鈴木秀一 体系的理解に立って――説明的文章の指導

No. 141, p. 16~18, 1970, 7月 鈴木秀一 認識過程と「読み」とのかかわり 教育 科学国語教育 No. 132, p. 51~57, 1969, 10月 相馬信男・吉川数 読解指導過程の比較と実践

明書房 238 p.

高橋金次 技能の分析と系統的な指導を――読み方の 基礎技能を高めるための留意点――教育科学国語教育 No. 137, p. 9~12, 1970, 3月

読解指導入門 明治図書 249 p.

基礎技能の各項目に通じる一般的な留意点

1. 技能相互の関連を図ること。

高田亘

- 2. 技能の練習学習を計画的に取り入れること。
  - 3. ことは遊び・辞書作りなどのような、作業的な学習を 多く取り入れること。
  - 4. 書くこととの関連をじゅうぶんに考えること。
  - 5. 機械的な指導に陥らないようにすること。 (S·M)

多田俊文 コミュニケーション生活の変化と国語教育 ――映像の読みと文章の読みの関連を考える――

教育科学国語教育 No. 133, p. 5~10, 1969, 11月 今日のように、マンガからテレビまで、ふんだんにモンタ ージュ体験を与えるものがあるというのに、何故子ども達の 読み取りはよくないのであろうか。彼らの日常的なコミュニ ケーション生活の本質的変化が、このモンタージュ体験の多 様化と量的増大にあるにもかかわらず、こうしたデータが現 われるというのはどういうことなのだろうか。その重要な原 因は、日常的コミュニケーション生活の変化を, 教育の場が 正当に取り上げられていないことにあると、わたくしには思 われるのである。つまり、国語教育はあってもモンタージュ を中心とするコミュニケーンョン自体の教育が、音楽や動作 や会話や文章の全領域を統一したかたちで行なわれていない ためである。この観点は子どものモンタージュの読み取りを 改善するためというせまい文脈から出てくるのでなく、より 広く、コミュニケーションの基礎的能力の育成という文脈か ら出ていることが強調されねばならない。 (S·M)

田中稔子 イメージ化による"論説"の読み 国語 教育 Vol. 11, No. 10, p. 4~6, 1969, 12月 過程はどうあるべきか―― 教育科学 国語 教育 ○推論のうまさを読んでいくときに授業が生き生きとする。

- ○イメージによる思考への導入と、そのための教材化、教材 提示の方法を考えるべきこと。
- ○開かれた思考の働きについて。 (T・I)
- 千葉県印旛郡八街町立八街中学校 学習指導法の研究 1970
- 東井義雄 おしつけでなく,発見的に――読み方の基 礎技能を高めるための留意点―― 教育科学国語教 育 No. 137, p. 5~8, 1970, 3月
- 東京学芸大学附属小金井小学校 発展性のある読解能 力を身につけさせる学習指導 昭和43年度研究紀要 p. 31~51, 1969, 3月
- 飛田多喜雄 説明的文章の指導過程の考え方 教育科学国語教育 No. 141, p. 5~15, 1970, 7月説明的文章の読解指導過程の私案

# <第一次の指導段階>

全体を読む―― (文章全体の概観をする)

- (a 何が書かれているかをつかむ――事実(伝達系列)
- ↓b 何を言おうとしているかをつかむ――思想(説得系列)

# ◇主要な学習作業

- ① 正しく読み通す作業(むずかしい語句の指導)
- ② 内容のだいたい (概要)をつかむ作業
- ③ 読みとったことを発表したり話し合ったりする作業
- (4) 精査するための視点を選ぶ(もくろみをたてる)作

#### <第二次の指導段階>

精読をする――(文章を分析総合的にくわしく読む)

(a · b — どう書き表わされているかを精査する)

#### ◇主要な学習作業

- ① 文章の組み立て(構成)を考える作業
- ② 段落を中心に部分を読み,しらべる作業,だいじな 語句,文と文との関係,その論理的なつながり,段落 の意味,段落相互の関係。
- ③ 部分と文章全体の関係を考える作業。段落と全体との関係、視点と部分の照合。最初につかんだ仮説の「たしかめ」と「まとめ」
- ja どんな事実が書かれていたか。
- $igl|_{
  m b}$  どんな考えが述べられていたか。

# <第三次の指導段階>

深く読む=達読(文章を読み深めて個人化,自己化を図る) ◇主要な学習作業

- ① 全文をゆっくり考えながら読み通す作業
- ② 要旨を確認したり意図を考える作業
- ③ 作者の意図との対話(対決),また、自分としての 意見や感想をもち、個人化・自己化をも図る作業
- ④ 意見や批判的見解を発表したり話し合ったりする作業(S・M)

中沢政雄 基本的指導過程の特質 教育科学国語教育 No. 136, p. 26~28, 1970, 2月

輿水実の読解の基本的指導過程

- (1) 教材を調べる。わからない文字・語句を辞書で引くな り、文脈の中で考えて、全文を読み通す。
- (2) 文意を想定する。読みの目標や学習事項を決め、読み 方の性格を決定する。
- (3) 文意にしたがって各段落・各部分を精査する。
- (4) 文意を確認する。
- (5) この教材に出てきた技能や文型・語句・文字の練習をする。
- (6) 学習のまとめ, 目標による評価。 (S·M)
- 中西幸男 読み方における自戒八か条――読み方の基 遊技能を高めるための留意点―― 教育科学国語教 育 No. 137, p. 13~16, 1970, 3月

読解は作品との対話であるともいわれる。作品の語りかけてくるものを受けとめ、手元へ引きよせてそれと話し合うことであろう。ところが、どうも授業が表面的に流され、かんじんの作品との対決が乏しい向きが多い。……読み方の上でつけたいいくつかの点を自らの戒めの形で述べてみたい。

- 1. 読みの定石にとらわれないこと。
- 2. 自己や生活との対比において感得する。
- 3. 学習とは発見することである。
- 4. 読みは読むことによって学ばれる。
- 5. 書くことによる読みとり。
- 6. こつんと心に語る語句を手がかりに。
- 7. 文章をズタ切りにしない。
- 8. 知的解明の味を得させていく。(S·M)

根津和雄 想像をはたらかせた読みの指導 新潟大 学教育学部附属幼稚園・附属小・中学校教育論究 No. 9, p. 67~74, 1969, 3月

野口善 文章の読みについての考察 新潟大学教育学部附属幼稚園・附属小・中学校教育論究 No.9, p. 103~110, 1969, 3月

野口善一・長谷川信夫 形象力の高まりをめざす国語 指導――読解指導を中心として―― 新潟大学教育 学部附属長岡中学校研究紀要 p. 9~18, 1969, 5月 長谷川信夫 形象力の高まりをめざす国語指導――読 解を中心に―― 新潟大学教育学部附属長岡中学校 研究紀要 p. 13~24, 1970, 5月

菱沼太郎 総合読みの指導過程の特質 教育科学国 語教育 No. 136, p. 29~31, 1970, 2 月

一読総合読みは、部分から部分へ、全体的な視野をもち、たえず作品の進展と格闘をつづけながら読んでいくのが特色である。( $S\cdot M$ )

兵庫県神戸市東灘区御影小学校 思考力を育てる読解 指導 1970, 1月

子どもの思考力の組織,文学教材による想像力の啓培。

 $(\mathbf{I} \cdot \mathbf{I})$ 

平田精一 <現場の国語教育研究1>学校における読解基本的指導過程の研究上の問題点 国語教育の近代化 No. 87, p. 29~42, 1969, 10月

古田拡 真の対話へのてだて 教育科学国語教育 No. 131, p. 36~41, 1969, 9月

かりに文学作品の主題をつかんだ (つかませた) とする。 そうすると、多くはそれで終わりとなる。しかし、大切なのは、その後である。われわれは、その主題と対決を迫られているのである。これはどうしても書かずにおれないとして書いた(提出した)作者の問題に対して、われわれは、どう答えなければならないのかが、読者の義務である。それが、われわれが、この世を生きていくということの一つである。真の対話がそこにある。

さて、主題はつかめたし、かつそれを問題としての考察がすんでも、それで終わったと言えない。そうした主題が、どういう構想と叙述形態で表現されているかを、考えなくてはならない。これは説明文でもそうだが、文学作品ではとくにそうあるべきである。(S・M)

前沢昭 『信号』を読むことの一方法 昭和43年度 研究集録(大阪府立中学校教育研究会国語部) p. 90, ~99、1969、3月

増田三良 読解力の向上は可能か 教育科学国語教育 No. 125, p. 12~18, 1969, 3月

丸谷長進 読むことの能力の評価 国語の教育 No. 23, p. 35~43, 1970, 3月

三浦泰生 国語教育における「読むこと」の指導とは? ——生徒の読むことの実態にふれて—— 広島大学教育学部附属中学校教育研究 No. 16, p. 1~15, 1970, 3月

宮城県栗原郡若柳町立若柳中学校 生徒の疑問や考え を牛かす読みの指導 1970

生徒の主体的な学習をおしすすめ、思考力を高める読解指導の研究。 (T·I)

渡辺博包 主題の問題 教育科学国語教育 No. 132, p. 85~89, 1969, 10月

渡辺博包 何が書いてあるか考えて読む 実践国語 1969, 5月

#### 5. 読 書 指 導

相沢鉄五郎 国語科としての読書指導・実践上の視点 から 国語の実践(東京都中国研) No. 7, p. 19-~25, 1969, 3月

相田八重子 感想文活用による話し合い 学校図書 館 No. 230, p. 35~38, 1969, 12月

朝倉秀雄 読書指導における読みの指導 国語教育 Vol. 85, p. 1, 1971, 1月

荒川有史 読みの教材の理想像 学校図書館 No. 240, p. 9~14, 1970, 10月

有吉忠行 回顧・日本の学校図書館「何をどう読ませるか」の研究 学校図書館 No. 241, p. 47~50, 1970, 11月

飯野二朗 国語科における読書指導の方法――伝記・ ノンフィクション指導の実際―― 日本国語教育協議会紀要 No. 3, p. 75~78, 1969, 1月

- 井沢純編 教室の読書指導入門 明治図書 155, p. 1970
- 出雲路猛 興味の拡大を目ざす本の選び方読ませ方 児童心理 Vol. 24, No. 7, p. 58~66, 1970, 7月 石上正夫 文学の読書指導 学校図書館 No. 219, p. 27~30, 1969, 1月
- 磯見芳郎 大学生がマンガを読むとき 児童心理 Vol. 24, No. 7, p. 115~120, 1970, 7月
- 伊丹末雄・上野恒良 読書的立場に立った読みの指導 ---文芸的文章を中心に 新潟大学教育学部附 属高田中学校研究集録 No. 22, p. 7~18, 1970, 5
- 市川徹 課題読書の指導 学校図書館 No. 242, p. 44~49, 1970, 12月
- 伊藤令一 人格形成をはかる事後指導 学校図書館 No. 230, p. 29~34, 1969, 12月
- 今井誉次郎 読書指導における読書感想文の功罪 児童心理 Vol. 24, No. 7, p. 134~139, 1970, 7 月
- 今村秀夫 読書習慣形成の指導 児童心理 Vol. 24, No. 7, p. 46~51, 1970, 7月
- 愛媛県新居浜市川東中学校 国語科における読書の指導 1970
- 大阪市立天下茶屋小学校 集団指導における話し合い 指導 読書科学 Vol. 13, No. 1・2, p. 76~79, 1970, 4月
- 大神貞男 非行少年矯正のための読み物の選び方, 読ませ方 児童心理 Vol. 24, No. 7, p. 121~127, 1970, 7月
- 大神貞男 読書療法の予後追跡研究 読書 科学 Vol. 13, No. 1・2, p. 43~49, 1970, 4月
- 読書療法を実施したクライエントの予後調査が報告されている。その中で特に再犯の有無、現在の生活などについての報告が分析された。4つのケースとも予後は良好であった。
  (A・O)
- 大神貞男 非行原因論と読書療法の治療理論 (No.1)

- 読書科学 Vol. 12, No. 3, p. 28~34, 1970, 2月 非行原因論,非行発生機制について読書療法の観点から論 及されている。(A·O)
- 大分県宇佐市北部中学校 国語科における読書指導の 進め方 1970
- 小山城南高等学校 ホーム・ルーム担任のための読書 指導の手引き 86 p. 1969, 12月
- 大村はま 〈資料〉大村学級・読書生活通信(第1号 一第4号) 国語の教育 No. 29, p. 116~121, No. 30, p. 112~114, No. 32, p. 101~103, 1970, 9月, 10月, 12月
- 岡田明 読書指導における個人と集団 児童心理 Vol. 24, No. 7, p. 38~45, 1970, 7月
- 岡田文男 イマジネーションづくりと読書指導 学 校図書館 No. 241, p. 51~54, 1970, 11月
- 岡田稔 読書感想文の指導の手がかり 教育科学国 語教育 No. 130, p. 85~88, 1969, 8月
- 小川俊彦 公共図書館での読書 学校図書館 No. 225, p. 17~20, 1969, 7月
- 小川利雄 補充教材による読書指導の問題点――想像 しながら読むをめぐって―― 国語教育の近代化 No. 94, p. 41~53, 1970, 5月
- 金沢嘉市 夏休みの子どもの生活 学校図書館 No. 225, p. 9~11, 1969, 7月
- 金子百合子 国語科としての読書指導 国語の実践 (東京都中国研) No. 7, p. 10~14, 1969, 3月 加部佐助 国語科としての読書指導 国語の実践
- 神岡達也 集団読書のすすめ方――六つの提案―― 教育科学国語教育 No. 146, p.86~94, 1970, 12月

(東京都中国研) No. 7, p. 14~18, 1969, 3月

- 1. まず、感想メモを出発点にすること。
- 2. テキストとの距離を接近させること。
- 3. みんなの読みとり方・考え方のくいちがいを意識的に対立させること。
  - 4. テキストに応じて、本質に迫るような鋭い切りこみ方

六つの提案

をくふうすること。

- 5. 読み手の読書経験・生活経験との「関連づけ」をする こと。
  - 6. 結論をいそながいこと。(S·M)

 亀村五郎 正しいことばの教育を目ざす読書の指導 児童心理 Vol., 24, No. 6, p. 95~100, 1970, 6月
 亀村五郎 本を読んだら感想書くな――投函する機会を失う 国語の教育 No. 27, p. 50~51, 1970, 7月

蒲生芳郎 「経験としての読書」の成熟のために学校図書館 No. 230, p.14~17, 1969, 12月岐阜県羽島市正木小学校 国語科における読書指導1970

倉沢栄吉 情報化社会における読書指導の原理 教室の窓(小学国語) No. 8, p. 1~4, 1971, 1月

- 読書の五つの特性――(1)主体性, (2)生産性, (3)創造性, (4)複数価値性, (5)拡散性。
- 読書教材の見方、(1)教科書, 教師用指導書の目標, 計画 について、(2)自分の力で図と文を結んで考える。(3)部分的 言語要素の指導より、内容からの広がりを大切に、(4)くど さを感じる「こそあど」のことば改め。(T・I)

倉沢栄吉・桜本喜徳 これからの読書指導<対談> 教科通信-教育出版- Vol. 6, No. 15, 1969, 10月

- 1. 読書指導における現場の悩み。 (1)年間指導計画の作成。(2)読書についての指導法。(3)図 書館の管理や運営。(4)図書の選定。
- 2. 国語科における読書指導。

(1)指導要領「読むこと」の(1)と(3)。(2)教科書で読書指導をする。(3)読解力の指導。(4)読書単元と読解単元。

3. 読書指導が重視されてきたわけ。(T・I)

来栖良夫 豊かな感情を育てる本の選び方,読ませ方 児童心理 Vol. 24, No. 7, p. 73~78, 1970, 7月

黒沢浩 読書指導の20年 学校図書館 No. 235, p. 37~50, 1970, 5月

黒沢浩 読書相談の理論と実際 金の星社 p. 265, 1970

黒沢浩 読書指導をもう一度考える 学校図書館 ~245, 1969, 5月

No. 240, p. 67~69, 1970, 10月

黒沢浩 読書指導の時間を生み出す 学校図書館 No. 241, p. 68~72, 1970, 11月

黒沢浩 読書指導実践の試み 学校図書館 No. 242, p. 53~69, 1970, 12月

郡馬県立図書館奉仕課親子文庫係 郡馬県 に おける 「親と子の二十分読書」 学校図書館 No. 220, p. 67~69, 1969, 2月

国分一太郎 特集・新国語科教科書・読みの教材批判 (2) 娯楽となぐさみの方向へ 学校図書館 No. 240, p. 15~19, 1970, 10月

斎藤耕二[他] とれからの 読 書 指 導 国語教育 Vol. 11, No. 6, p. 5~17, 1969, 7・8月

- 1. 青少年と読書 斎藤耕二
- 2. 読書指導に期待するもの――中学校教師への提言―― 山岡寛章
- 3. 読むおもしろさを高める 牧岡孝 (T・I)

西郷竹彦 文学の読書指導 国語教育相談室 No. 121, p. 2~6, 1969, 10月

文学の授業と文学の読書指導,視点をとおす読み,典型を めざす読み,虚構の方法に学ぶ読み,読書指導の展開,虚構 としての文学の読書指導。 (T・I)

埼玉県北足立郡吹上町立吹上小学校 読書指導の指導 過程の研究 1970

斎藤はるみ真実の敵を見定めない論争は不毛だ――文学教育と読書指導・その実践的問題点――教育科学国語教育No. 135, p. 54~56, 1970, 1月

斎藤はるみ 人間変革としての読書指導 学校図書 館 No. 219, p. 37~40, 1969, 1月

斎藤はるみ 個別指導と集団指導 学校図書館 No. 230, p. 22~25, 1969, 12月

斎藤尚吾地域読書活動の実態学校図書館No225, p. 21~23, 1969, 7月

斎藤喜門 読書指導の発展的系統 改訂・中学校学 習指導要領の展開・国語科編(明治図書) p. 234 ~245, 1969, 5 月

- 阪本一郎 読書指導の新段階 学校図書館 No. 219, p. 9~14, 1969, 1月
- 阪本一郎 基本語彙と読書指導と 言語生活 No. 224, p. 88~95, 1970, 5月

編集部の書斎訪問,『日本語基本語彙』,「教育基本語彙』, 『読書指導』,「湖南千里』を中心に話題が発展。(A・O) 佐藤仁 読書感想文の事後の活用 学校図書館

No. 230, p. 26~28, 1968, 12月

- 渋谷清視 特集・新国語教科書,読みの教材批判(2) 生命を抜きとられた形骸化 学校図書館 No. 240, p. 27~32, 1970, 10月
- 嶋井幸一 課題のありかた 学校図書館 No. 225, p. 29~31, 1969, 7月
- 清水達也 母と子の対話のための読書<茶の間のひと とき読書運動の記録> 童心社 254 p. 1969
- 鈴木悦司 読書指導・ひとつの試み **教育科学**国語 教育 No. 134, p. 90~93, 1969, 12月
- 鈴木喜代春 読書指導の構想 学校図書館 No. 219 p. 21~26, 1969, 1月
- 角尾和子 未就学児のための本の選び方読ませ方 児童心理 Vol. 24, No. 7, p. 86~90, 1970, 7月 関英雄 子どもたちは何を読んできたか 言語生活 No. 211, p. 42~48, 1969, 4月
- 全国SLA編集部 何をどう読まれているか 学校 図書館 No. 233, p. 39~46, 1970, 3月
- 副田義他 マンガの読ませ方 児童心理 Vol. 24, No. 7, p. 99~104, 1970, 7月
- 高木和子 心の健康を目ざす本の選び方読ませ方 児童心理 Vol. 24, No. 7, p. 52~57, 1970, 7月 竹井成夫 国語科における読書指導について 学校 図書館 No. 228, p. 33~35, 1969, 10月
- 武野昌文 集団読書指導のあゆみ 読書科学 Vol. 12, No. 3, p. 35~40, 1969, 2月
- 田宮武 マスコミ時代の読書指導 児童心理 Vol. 24, No. 2, p. 69~75, 1970, 2月
- 田宮武 読書指導をはばむもの 児童心理 Vol.

- 24, No. 7, p.30~37, 1970, 7月
- 筑被常治 押しつけの人間像 学校図書館 No. 240, p. 20~24, 1970, 10月
- 千葉県市川市立市川小学校 国語科における読書指導 1970
- 筒井福子 高校生・不読者層の増加を考える 学校 図書館 No. 234, p. 63~68, 1970, 4月
- 東京都教育研究員小学校国語科中学年グループ これ からの読書指導 p. 64, 1970

中学年における非文学教材の指導法を中心に、読書指導の あり方を解明する。(T·I)

- 東京教育大学附属小学校初等教育研究生 国語 = 読書 指導の実践的開拓 文理書院 224 p. (初等教育研 究シリーズ)
- 東京都品川区立三木小学校 心豊かな子どもに育てる にはどうしたらよいか 1969

遊び、係り活動・読書を通して、主体的な問題意識の育成 と人間教育のあり方について研究する。(T・I)

東京都世田谷区立笹原小学校 国語科における読書指導の展開 89 p. 1970, 11月

実践上の基本問題の解明――読書単元について、読解と読書について、指導過程について、教材研究と指導法について、各学年の実践とその指導事例について。(T・I)

- 東京都深川文学教育の会 マスコミ文化をのりこえる 読書指導 鳩の森書房 138 p.
- 東京都練馬区立開進第三小学校 読書指導 1970 栃木・田沼中 国語科における読書指導 栃木県教 委指定実験学校研究集録 p. 5~36, 1969, 11月 鳥取県岩美郡浦富小学校 読書指導と作文指導 1970

読書指導と作文指導の年間指導計画と国語科の位置づけ。 (T・I)

- 中川昭司 読書指導のカリキュラム 学校図書館 No. 242, p. 42~44, 1970, 12月
- 中川宏 科学読みもののありかたとうけとめかた 学校図書館 No. 234, p. 40~44, 1970, 4月
- 仲沢慶治郎 読書指導を実践して――伝記の読み方と

文学の読み方—— 国語の実践(東京都中国研) No. 7, p. 35, ~39, 1969, 3月

中島章一 読書興味指導と学校図書館 P·R活動との 関連 読書科学 Vol. 12, No. 3, p. 41~48, 1969, 2月

滑川道夫 読書指導とはなにか 学校図書館 No. 219, p. 15~20, 1969, 1月

滑川道夫 家庭の読書指導 国土社 278 p. 1970 滑川道夫 長編の読書指導 — 国語科のなかの読書指 導 — 国語の教育 No. 26, p. 18~22, 1970,

6月

滑川道夫 読書指導とはなにか 国語の教育 No. 23, p. 8~20, 1970, 3月

滑川道夫 読書指導はどのようになされてきたか 言語生活 No. 211, p. 49~55, 1969, 4月

明治期,大正期,昭和期に分けてその変遷をたどっている。現代の読書指導は,読書に関する心理学・生理学・医学・社会学・教育哲学などの達成をふまえた読書科学に負うところが多く読書活動による人間形成を多面的に追及しつつある。読書目的を概括すると,(1)発達的読書の指導,(2)機能的読書の指導,(3)教養的読書の指導,(4)娯楽的読書の指導に分析される。読書指導を状況的にとらえると,(1)読書資料の指導,(2)読者に関する指導、(3)指導者に関する指導になる。

 $(A \cdot O)$ 

新潟県高田市城北中学校 国語科における読書指導 1970

読書教材の選定と研究, 読書の年間指導計画の作成, 国語 科における読書指導の方法の究明。 (T・I)

新居田正徳 読書指導 国語研究(愛媛国語研究会) 1969, 3月

仁木ふみ子 読書感想文指導の基底 共文社 221p. 1969

仁木ふみ子 読書指導以前一文化の伝承ということに ついて 学校図書館 No. 219, p. 47~50, 1969, 1月

橋本辰紀 自由読書の指導 学校図書館 No. 242, p. 39~42, 1970, 12月

波多野完治 読書と人間形成 児童心理 Vol. 24<sup>\*</sup> No. 7, p. 1~12, 1970, 7月

林甫 国語科における読書指導のあり方 **愛媛教**育 大学附属名古屋中学校教育実践 No. 19, p. 7~9, 1970, 10月

福田平八郎 読書指導について 国語研究(長崎高等学校教育研究会国語部会) No. 13, p. 1~12, 1969, 3月

藤内匡臣 読書感想文の批判について 学校図書館 No. 230, p. 18~21, 1969, 12月

藤原宏 読書指導の新しい方向 教室の窓(小学国語) No. 5, p. 1~4, 1970, 4月

1. 読書指導への再認識, 2. 国語科指導と読書指導, 3. 国語 科教育の方向と読書指導, 4. 国語科の読書指導の目標。

舟茂俊雄 国語科における読書指導 国語 の 実践 (東京都中国研) No. 7, p. 4~9, 1969, 3月

堀内輝三 本を読む子の世界 講談社 238 p.

増田信一 読書指導の研究と取り扱い――移行期の重点研究―― 中学校移行期の研究と展開 国語科編明治図書 p. 194~209, 1969, 11月

増田信一 国語科における読書指導・昭和43年度の収穫と問題点 東京学芸大学附属大泉中学校研究集録 No. 10, p. 33~56, 1969, 8月

増田信一 強力な読書指導を――文学教育と読書指導 ・その実践的問題点―― 教育科学国語教育 No. 135, p. 51~53, 1970, 1月

増村王子 創造性を伸ばす読書の指導 児童心理 Vol. 24, No. 7, p. 67~72, 1970, 7月

増村王子 地域文庫の子どもたち 学校図書館 No. 225, p. 24~26, 1969, 7月

増村王子 国語教科書と学校図書館の読書指導 学 校図書館 No. 240, p. 41~45, 1970, 10月

間宮武 少年少女雑誌に現われたセックスの受けとめ 方とその指導 児童心理 Vol. 24, No. 7, p. 110 ~114, 1970, 7月

真野義輝 個性を伸ばすための読書指導――読書によ

る不適児の指導 教育研究 1969, 8月

宮治玲子 学図で読書指導を――主婦の立場から―― 学校図書館 No. 235, p. 45, 1970, 5月

宮城県志田郡三本木小学校 国語科における読書指導 1970

国語科における「読むこと」の補助教材の選定と読書指導の方法の研究と実践。 (T・I)

椋鳩十 家庭における読書指導 児童心理 Vol. 24, No. 7, p. 91~98, 1970, 7月

室伏武 現代の読書指導 児童心理 Vol. 24, No. 7, p. 13~20, 1970, 7月

望月道子 集団読書の指導(中) 学校図書館 No. 242, p. 34~39, 1970, 12月

森久保仙太郎 休暇後の読書の評価 学校図書館 No. 225, p. 32~36, 1969, 7月

吉井善三郎 何をどう読むか 学校図書館 No. 219, p. 43~46, 1969, 1月

吉植亮 生産的読書と読書感想文 学校図書館 No. 230, p. 9~13, 1969, 12月

米村一彦 学校図書館係の姿勢 学校図書館 No. 225, p. 12~16, 1969, 7月

渡辺武 ヒマナ,ヒトハ,本ヲヨモウ――国語科としての読書指導をこう考える―― 国語の実践(東京都中国研) No.7, p. 25~29, 1969, 3月

渡辺守順 とれからの読書指導 学校図書館 No. 219, p. 33~36, 1969, 1月

和歌山県新宮市光洋中学校 読書指導 1970 教科における読書指導の研究を中心に、5年時にわたって 継続研究実践を重ねてきたその実践を,系統的にまとめ,読 書指導のあり方を究明する。(T・I)

# 6. 文 学 教 育

青木弘 「小説教材の構造化」試案 大阪教育大学 附属平野研究紀要 p. 5~13, 1970, 7月

荒川有史 文教連の指導過程の特質 教育科学国語 教育 No. 136, p. 35~37, 1970, 2月

荒木繁 文学教育の理論 明治図書 223p. 1970安藤操 「文学を文学として読む」ということ — 西郷竹彦氏の反論にこたえる — 教育科学国語教育 No. 136, p. 85~92, 1970, 2月

井上正敏 文学の機能と文学の指導過程 国語の教育 No. 25, p. 6~15, 1970, 5月

井上正敏 文学教育の基底 国語の教育 No. 29, p. 101~104, 1970, 9月

岩沢文雄 文学の授業と文学の読書指導——文学の指導過程と読書の指導過程—— 教育科学国語教育 No. 135, p. 38~44, 1970, 1月

臼井宏 中学校文学教育についての若干の基本的考察 名古屋大学教育学部附属中・高等学校紀要 No.14, p.19~24,1969,3月

遠藤豊吉 「文学」と「教育」――文学の指導過程と 読書の指導過程―― 教育科学国語教育 No. 135, p. 32~37, 1970, 1月

大川悦生 新たな発見から創造へ――民話教育のため の一指標として―― 児言研国語 No. 18, p. 1~ 9, 1969, 1月

大河原忠蔵 状況を文学の次元で認識させる 教育 科学国語教育 No. 131, p. 5~10, 1969, 9月

文学教育は、生徒に、自分と、自分をとりまく状況を、文学の次元の上で、一挙にとらえていく力をつけていくことを、究極の目的におかなければならない。状況を認識する力を育てることを、たえず、考えていく必要がある。

文学作品を中心に授業をするのも、そのためである。作品をただ味わう、というだけでは、よわい。その作品に書かれている状況認識の方法を、自分のものにし、こんどは、作品のないところでも、自分の状況をとらえるときにそれが生きてくる。といったところにまでつきぬけていかなければ、だめである。創造の過程でこれを生かしているのだが、学校の授業のなかで文学作品をあつかうと、これを殺してしまうことがある。文学は、自分で読めばいいという主張は、その傾向への反発と考えられる。文学の授業では、何よりもまず、作品のもっている状況認識を生徒自身の状況認識につきぬけることを主眼にしなければならない。(S・M)

大河原忠蔵 状況認識の文学教育は現代になぜ必要か 国語の教育 No. 24, p. 83~91, 1970, 4月 大河原忠蔵 状況認識論に立つ指導過程の特質 教 育科学国語教育 No. 136, p. 41~43, 1970, 2月 加来宣幸 共体験典型化の段階から虚構の方法を ――視点を媒介として―― 教育科学 国語 教育 No. 131, p. 56~62, 1969, 9月

蒲生芳郎 文学へのめざめ 評論社 311p. 1969 菅野宏 内面化・浄化としての文学教育 教育科学 国語教育 No. 131, p. 18~23, 1969, 9月

熊谷孝・夏目武子 "文体づくり"と"印象の追跡" ——文学教育研究者集団の理論と実践—— 国語の 教育 No. 31, p. 93~100, 1970, 11月

熊谷孝 文学の授業とは何か 教育科学国語教育 No. 131, p. 24~29, 1969, 9月

熊谷孝 文学にとって主題とは何か――理論講座・文 体づくりの国語教育第2回―― 教育科学国語教育 No. 142, p. 103~113, 1970, 8月

興水実 イデオロギーとしての文学教育論と国語科文 学教育のあり方――連載講座・国語教育のイデオロギ ー・第9回―― 教育科学国語教育 No. 146, p. 126~131, 1970, 12月

西郷竹彦 人間の矛盾をあばきだす虚構——文学の理論・第33回—— 教育科学国語教育 No. 130, p. 115 ~126, 1969, 8月

西郷竹彦 だれが主人公か――連載講座・文学の理論 ・第44回―― 教育科学国語 教育 No. 141, p. 117~125, 1970, 7月

西郷竹彦 『教師のための文芸学入門』補充——連載 講座・文学の理論・第41回—— 教育科学国語教育 No. 138, p. 118~126, 1970, 4月

西郷竹彦 文学の理論と文学の授業――連載講座・文学の理論・第46回―― 教育科学国語教育 No. 143, p. 116~125, 1970, 9月

飛田多喜雄 文学教育の基本的な考え方 国語教育 相談室 No. 127, p. 4~9, 1970, 4月

永谷敏正・青木孝頼 文学作品を道徳教育の具にしてよいか(往復書簡) 国語の教育 No. 19, p. 65~75, 1969, 11月

山下政太郎・鈴木二千六 国語科と文学教育・古典教育の問題 東京学芸大学附属小金井中学校研究紀要 No. 7, p. 3~20, 1969, 9月

# 7. 読み物研究

大阪・子ども読書研究グループ 科学の読み物の現状 と指導上の問題点 読書科学 Vol. 12, No. 3, p. 1~9, 1969, 2月

実験を中心とした理科教育は反省すべきである。単なる実験・観察のみでは体系的な科学的思考力は伸びない。そのような理科教育の反省から、科学の読み物の価値を再評価しなければならないとする。

科学の読み物は、知識の百科辞典ではないこと。そこに人間との結びつきがあってこそ感動が生まれる。また科学読み物での最大の障害は、子どもにわかるような表現力のある作者が少ないことである。(A·O)

北村久也 「集団読書テキスト」を利用して 学校 図書館 No. 224, p. 39~41, 1969, 6月

栗岩英雄 児童雑誌と子どもたち 教育心理 Vol. 18, No. 6, p. 46~49, 1970, 6月

曽根治郎 大学生とマンガ 児童心理 Vol. 24, No. 7, p. 162~167, 1970, 7月

谷川澄雄 自主自立・理想を求める本 児童心理 Vol. 24, No. 7, p. 79~85, 1970, 7月

坪田譲治[他] 子どもの本の事典 第一法規 628 p. 1969, 12月

中村明 川端文学の方法(1) 読書科学 Vol. 13, No. 1・2, p. 15~22, 1970, 4月

行動描写と性格表現とに照明をあて人間のえがき方をとお して見たこの作品の文体の特質を考察するのが目的である。

 $(A \cdot O)$ 

滑川道夫 桃太郎像の変遷(4) 読書科学 Vol. 12, No. 2, p.1~14, 1969, 1月

前回からの研究をうけて、大正・昭和期の桃太郎、国民学

校時代の桃太郎,プロレタリア児童文学における桃太郎像についてその変遷をたどっている。プロレタリア児童文学の桃 太郎が出てきた時に、軍国主義的桃太郎がしだいに巨像に成 長してきており、階級的桃太郎像を弾圧する。(A・O)

滑川道夫 桃太郎像の変遷(5) 読書科学 Vol. 13, No. 1·2, p. 31~38, 1970, 4月

ことでは唱歌童謡にあらわれた桃太郎像、民間伝承の桃太郎像について考察が加えられている。( $\mathbf{A} \cdot \mathbf{O}$ )

日本子どもの本研究会編 あたらしい子どもの本の世界 1-2 あたらしい子どもの本の発見 金の星社 292p. 1970

日本子どもの本研究会編 子どもの本の学校 講談 社 497p. 1970

堀秀彦 ハレンチマンガを斬るために 児童心理 Vol. 24, No. 7, p. 105~109, 1970, 7月

望月直子 読書会テキスト (素材) の選択と購入 学校図書館 No. 224, p. 35~38, 1969, 6月 八杉竜一 科学読みものについて 学校図書館 No. 234, p. 9~14, 1970, 4月

# 8. 授業研究

青木幹男説明文を読むこと,そして書くこと「色さいとくらし」その他の文章を教材として国語の教育No. 15, p. 55~64, 1969, 7月

青木幹男 一時間の授業ゆたかな読書 国語の教育 No. 25, p. 47~61, 1970, 5月

青木幹男 導入時における「考え方」の指導 教育 科学国語教育 No. 129, p. 39~44, 1969, 7月

青柳隆 「故郷」(魯迅)を例に――文学の授業のどの段階で範読をしたか―― 教育科学 国語 教育 No. 143, p. 73~78, 1970, 9月

青柳隆·穴水誠 読解指導過程における語句指導 国語の教育 No. 20, p. 65~73, 1969, 12月

秋元千枝 第一次感想の必要性——-次感想の扱いを 実践の中でどう位置づけているか—— 教育科学国 語教育 No. 142, p. 28~33, 1970, 8月

秋山輝彦 小学校高学年の文学教材研究――「分銅屋」のえんとつ」を具体例に―― 教育科学国語教育No. 145, p. 25~30, 1970, 11月

安部恵美子 自分とのかかわりあいで読む 児言研 国語 No. 23, p. 15~21, 1970, 1月

阿部真人 「走れメロス」の鑑賞学習に求め得たもの 教育科学国語教育 No. 131, p. 63~69, 1969, 9月 天津俊英 漢字・漢字語の指導 漢字をどう教えるか 児言研国語 No. 25, p. 19~25, 1970, 8月

荒木茂 重文・条件帰結の導入指導(四年) 児言研国語 No. 20, p. 36~42, 1969, 6月

荒木茂 漢字・漢字語の指導 漢字をどう定着させるか
 ル 児言研国語 No. 25, p. 26~31, 1970, 8月
 有定稔雄 事実意味(探求)論による指導過程――説明的文章の指導過程はどうあるべきか―― 教育科学国語教育 No. 141, p. 25~27, 1970, 7月

飯野二朗 《実践記録》読書指導の場としての国語教室「母の思い出」の指導 国語の実践(東京都中国研) No. 7, p. 29~34, 1969, 3月

池田袈裟美 要約の手順と速度 教育科学国語教育 No. 146, p. 13~16, 1970, 12月

池田強 「赤いろうそく」を例に――文学の授業をどの段階で範読したか―― 教育科学国語教育 No. 143, p. 68~72, 1970, 9月

石田佐久馬 説明文教材における着眼点 教育科学 国語教育 No. 129, p. 64~68, 1969, 7月

石原増寿見 小学校四年生の要約技能の指導 教育 科学国語教育 No. 146, p. 51~55, 1970, 12月

板垣昭一 文学作品を正しく読みとらせることを求めて 教育科学国語教育 No. 131, p. 49~55, 1969, 9月

伊丹末雄・上野恒良 文学的文章の指導法を求めて(2) ----小説類の読解鑑賞指導 新潟大学教育学部 附属高田中学校研究紀要 No. 21, p. 1~12, 1969, 5月

伊藤秀文 主題への迫り方――「ひと飛び」(中一)

- の実践を通して---教育科学国語教育 No. 124, p. 65~74, 1969, 2月
- 伊藤みつ子 「五色のしか」を例に――文学の授業の どの段階で範読したか―― 教育科学国語教育 No. 143. p. 62~67, 1970, 9月
- 主題把握の意義とその過程 教育科学国 井上正飯 語教育 No. 124, p. 17~22, 1969, 2月
- 井上敏夫 生活読みの指導過程と範読の位置 教育 科学国語教育 No. 143, p. 44~46, 1970, 9月
- 井上敏夫 文章読解能力としての要約の技能 教育 科学国語教育 No. 146, p. 5~8, 1970, 12月
- -茨城県水戸市立水戸第二中学校 国語学習指導の個別 化の研究 1970
- 茨城県真壁郡真壁町立真壁小学校 ひとり・ひとりの 読む、書く能力を高める指導法の研究 1970
- 岩田道雄 「文・文章がかわるということ」――増穂 中学の研究会に参加して―― 児言研国語 No. 23, p. 35~37, 1970, 1月
- 岩田道雄 文法教育の実践と批判 中学一年「文」 児言研国語 No. 24, p. 23~26, 1970, の指導 5月
- ト田克巳 中学校における要約技能の指導 教育科 学国語教育 No. 146, p. 75~80, 1970, 12月
- . 埴渕政美 説明文の読解におけるAコース・Bコース の設定 国語教育の近代化 No. 85, p. 40~52, 1969, 8月
- 上村健次郎 『走れメロス』の感想文 実践記録 中 国語の教育 No. 16, 学校 読書感想文の指導 p. 51~58, 1969, 8月
- 小学校五年の要約技能の指導 教育科学 遠藤幹郎 国語教育 No. 146, p. 56~61, 1970, 12月
- 小学校段階の速読み指導 教育科学国語 小川末吉 大石腎治 教育 No. 137, p. 64~69, 1970, 3月
- 民話教育の指標・2 三年寝太郎とおそか 大川悦生

- 児言研国語 No. 24, p. 2~4, 1970, 5月 大久保玲子 一年生における補語「を」の指導 児 言研国語 No. 19, p. 30, 1969, 3月 大阪市阿部野区文の里中学校 文字の鑑賞についての 1970 研究
- 大谷昭三 授業の創造文 2 文学教材における創造 的ひとり読み 児言研国語 No. 25, p. 50~55, 1970、8月
- 大塚敬三 文学教材における着眼点――「どんな動物 とも話のできる! というフィクションをめぐって---教育科学国語教育 No. 129, p. 57~63, 1969, 7月 大槻和夫 一次感想発表はなぜ必要か――授業研究に もとづく一つの試論---- 教育科学国語教育 No. 142, p. 22~27, 1970, 8月
- 大浪昭 文学教材における着眼点 教育科学国語教 育 No. 129, p. 70~76, 1969, 7月
- 大西忠治 説明文教材における着眼点 教育科学国 語教育 No. 129, p. 77~82, 1969, 7月
- 大原輝夫 教材の性格による精選研究――発問構成に おける精選のためのくふう―― 教育科学国語教育 No. 139, p. 23~28, 1970, 5月
- 岡田文男 どうしたら読後の感想を深めることができ るか 教育科学国語教育 No. 128, p. 96~99, 1969, 6月
- 岡村美智子 (中) "みつばちのことば"四つの指導 法――要旨を正確に読みとるための指導過程研究―― 教育科学国語教育 No. 141, p. 60~65, 1970, 7月 岡本光純 読書感想文の指導試案――話題をしぼらせ る指導(高学年) 実践国語 1969, 5月
- 要約の技能と読書指導の関連 教育科学 小川末吉 国語教育 No. 146, p. 81~85, 1970, 12月
- 読むことの新しい構造化による実践展開 ――文学教育と読書指導・その実践的問題点――
- 教育科学国語教育 No. 135, p. 48~50, 1970, 1月 村 児言研国語 No. 20, p. 29~35, 1969, 6月 小沢完蔵 小学校における教材研究——「動物のはな 大久保玲子 文法教育の実践と批判「小学校三年生」 し」を具体例に―― 教育科学国語教育 No. 145,

p. 37~42, 1970, 11月

押上武文 文芸研の指導過程と範読の位置 教育科 工藤光幸 授業の創造 1 「書きこみ」「書きだし」 学国語教育 No. 143, p. 41~43, 1970, 9月

小野小次郎 文学教材の鑑賞指導――小説を中心にし て—— 宮城教育大学附属中学校 研究紀要 No. 久保和也 9, p. 3~8, 1969, 3月

柿沼清一 次郎と父(日書・6・1) 児言研国語 No. 19, p.9~15, 1969, 3月

風間童典 基本的指導過程と範読の位置 教育科学 国語教育 No. 143, p. 50~52, 1970, 9月

小学校・中学校の関連と発展的系統――要 加部佐助 約の技能の発展的系統をどう考えるか―― 教育科 学国語教育 No. 146, p. 27~32, 1970, 12月

亀山光 小学校低学年の文脈指導---文脈技能指導の 効果的方法—— 教育科学国語教育 No. 137, p. 39~43, 1970, 3月

育科学国語教育 No. 145, p. 55~60, 1970, 11月 菅野宏 作業仮説であるべき主題 教育科学国語教 育 No. 124, p. 5~10, 1969, 2月

菅野宏 文学作品の指導過程の考え方 教育科学国 語教育 No. 136, p. 5~25, 1970, 2月 文学作品の指導過程

#### 第一次

A 登場人物・モノ・トキ・トコロ・コトガラをおさえ て, 作品の世界を大づかみする。

# 第二次

- B 場面ごとにまたまとめて,人物の役割=性格をつか
- C 主題を考え,基本的な思想をかりに考える。

D よく解らないところや細部の肉付けをこまかに読み なおす。

#### 第四次

E 作者が提起した問題,読者が喚起された問題にあう かどうか考えてみる。(S·M)

橘内朝次郎 文芸研の指導過程の特質 教育科学国 25, p. 39~41, 1970, 8月

語教育 No. 136, p. 32~34, 1970, 2月

の指導認識・思考の向上と定着化のための実践 児 言研国語 No. 25, p. 46~49, 1970, 8月

中学校の文学教材 研 究――魯迅・「故郷」 を具体例に—— 教育科学国語教育 No. 145, p. 31~36, 1970, 11月

栗岩トク子 初歩的な指導――感想から感想文へ―― 実践記録 小学校四年 読書感想文の指導 教育 No. 16, p. 43~50, 1969, 8月

桑原三郎 解説文「正倉院」(光村六下)読解の実証 的研究 国語教育の近代化 No. 93, p. 49~56, 1970, 4月

桑原文次郎 小説の構造化と理解・鑑賞 島根大学 教育学部附属中学校 研究紀要 No. 12, p. 3~15, 1970、1月

河村紀子 (中学校)文学教材を小集団学習で 教 小海永二 詩と範読の役割 教育科学 国語 教育 No. 143, p. 29~34, 1970, 9月

> 輿水実[他] 〈共同研究〉一月の読解と読書 国語 教育の近代化 No. 78, p. 23~56, 1969, 1月

> 輿水実 <共同研究>四月の読解--指導過程の構造 化 国語教育の近代化 No. 81, p. 21~56, 1969, 4月.

> 小島孝夫 創造的な読みの学習像を求めて――新美南 吉「手ぶくろを買いに」の指導--- 国語の教育 No. 14, p. 56~65, 1969, 6月

> 小竹省三 「キュリー夫人」(学図六年上) ---拡散的 思考の読みを果たすために―― 国語の教育 No. 22, p. 66~71, 1970, 2月

> 小林喜三男 漢字指導をいかにすべきか 児言研国 語 No. 19, p. 27~29, 1969, 3月

小林喜三男 「大工と鬼六」の授業---5年---児言研国語 No. 18, p. 10~22, 1969, 1月

小林富雄 漢字・漢字語の指導 創造・発見の漢字習 指導---三本の柱を立てて--- 児言研国語 No.

- 小松善之助 教科書教材に対する考え方――説明的文 章の教材研究と指導過程の関連―― 教育科学国語 教育 No. 141, p. 31~39, 1970, 7月
- 小松善之助 教育科学国語教育 No. 132, p. 5~ 22、1969、10月
- 小松善之助 説明的文章の読み 児言研国語 No. 21, p. 3~9, 1969, 9月
- 小松崎進 文教連の指導過程と範読の位置 教育科 学国語教育 No. 143, p.56~58, 1970, 9月
- 小松崎進[他] 共同討議 この作品で何がどう指導で きるか ――『どんぎつね』 (新美南吉作)を教材に した場合の文学の授業過程--- 国語の教育 No. 16, 17, p. 67~90, 67~93, 1969, 8, 9月
- 今後正義 説明的な文章の読解指導――中・下位群の 牛徒を対象として── 国語の教育 No. 14, p. 66~76, 1969, 6月
- 近藤章 (小)要旨を読みとる直観力――要旨を速く 読みとるための指導過程研究―― 教育科学国語教 育 No. 141, p. 72~77, 1970, 7月
- 近藤章 〈現場の国語教育研究所 2 〉文学教材の「直 観読み」とその指導---共同立案による実践をとおし て—— 国語教育の近代化 No. 92, p. 43~56, 1970, 3月
- 西郷竹彦[他] 「二銭銅貨」の授業――文芸理論研究 会の理論による—— 国語の教育 No. 32, p. 80 ~90、1970、12月
- 西条三樹男 子どもの読みの反応を考えて――椋鳩十 『月の輪グマ』をめぐって---国語の教育 No.24 p. 77~82, 1970, 4月
- 斎藤昌英 高学年の読解におけるノート学習の試み ――主体的な学習態度を育てるために―― 教育科 学国語教育 No. 132, p. 79~84, 1969, 10月
- 三枝康高 文学教育の最初の問題――一次感想の扱い をどう考えるべきか―― 教育科学国語教育 No. 142, p. 11~16, 1970, 8月

- 歌 名古屋大学教育学部附属中·高等 学 校 紀 要 No. 14, p. 25~28, 1969, 3月
- 酒井信義 小学校高学年授業の研究---読解・鑑賞指 導の鮮度と効率—— 教育科学国語教育 No. 139, p. 67~71, 1970, 5月
- 酒井弘子 「坂道」――読者の読書機能をみつめて 国語の教育 No. 10, p. 61~71, 1969, 2月 寒川道夫 深い人間理解を育てる――「おじいさんの ランプ」にふれながら―― 教育科学国語教育 No. 131, p. 11~17, 1969, 9月
- 寒川道夫 一次感想を起点とする――一次感想の扱い をどう考えるべきか—— 教育科学国語教育 No. 142, p. 5~10, 1970, 8月
- 佐々木公彦 読む過程での要約技能をどう育てるか 教育科学国語教育 No. 146, p. 69~74, 1970, 12月 佐々木公彦 文学的文章の読解における発問・評価・ 感想文をめぐる問題――低学年を中心に―― 国語 教育の近代化 No. 91, p. 42~56, 1970, 2月 塩野俊治 読み方指導にそって 国語の教育 No. 20, p. 37~42, 1969, 12月
- 静岡県駿東郡清水小学校 主体性を育てる読解過程の 研究 1970
- 渋谷清視 文教連の指導過程の特質 教育科学国語 教育 No. 136, p. 44~46, 1970, 2月
- 渋谷清視 指導法の問題点 教育科学国語教育 No. 125, p. 55~61, 1969, 3月
  - 《現在、国語科教育の中で実践されている読書指導の三つ の形態》
  - 1. 国語教科書に文学的教材が登場してきたときに、その学 習指導を終えてなおひきつづき読書指導を展開する方法。 この場合に教科書教材は、「主教材」 あるいは「入門教 材」となり、その後に自主編成される教材は「副教材」あ るいは「補充・発展教材」などというふうに位置づけられ る。このあとさらに「推せん図書」「必読図書」群を紹介 し, 自由読書へ発展させるという三層法(教科書教材→補 充教材→自由読書)を試みているところもある。
- 酒井為久 「教材と即した国語科の指導」1 近代短 2. 国語教科書の教材はすべて,今日においては言語教育用

- 教材としての性格をもつものとしてとらえ、専ら読解指導 ・読みかた指導用として役だたせる。したがって読書指導 (「文学教育」といいかえてもよい) には、自主的な教材編 成にもとづいて、いわゆる読書指導単元を独自に構成して おこなう方法。これは民間教育研究運動に参加している教 師の間では、すでに一般化し、常識となっているところの もの。
- 3. 前出の二つの考えかたを複合した方法である。国語教科書の文学的教材でも、文学性が著しくスポイルされていない、比較的良質のものは、読書指導(文学教材)教材として活用する。もちろん「補充・発展教材」が導入を伴いつつ、但しそれだけではなくて、年間教育計画表の中には、全くの自主的教材編成による読書指導(文学教育)単元を構成して、積極的に組み込んでいく。(S・M)
- 渋谷正民 小学校の文脈指導——文脈技能指導の効果的方法—— 教育科学国語教育 No. 137, p. 58~63, 1970, 3月
- 嶋路和夫 読書指導をより確かにするための指導法の改善 読書科学 Vol. 13, No. 1・2, p. 57~65,1970, 4月
- 嶋路和夫 文学教育へのかまえとその指導――千葉省三「井戸」を扱って―― 国語の教育 No. 19,p. 53~62, 1969, 11月
- 新開惟展 文学形象を豊かに読みとらせる――虚構に ふれて――教育科学国語教育 No. 131, p. 70~76, 1969, 9月
- 信州大学教育学部附属長野中学校 文学教材の読書指 導をどのようにしたらよいか――補助教材の扱いを中 心に―― 長野県中学校教育研究会要項 p.1~26, 1969, 5月
- 杉川明男 教材「文学作品」に配慮を 教育科学国 語教育 No. 125, p. 82~84, 1969, 3月
- 鈴木栄三 高村光太郎の詩「なまず」の授業――子ど もが詩から作るイメージをめぐって―― 国語の教 育 No. 15, p. 65~74, 1969, 7月
- 鈴木敬司 「主題」をまとめる手順 児言研国語 No. 26, p. 20~23, 1971, 1月

- 鈴木昭一 < 現場の国語教育研究>文学的教材の研究授業 国語教育の近代化 No. 86, p. 38~52,1969, 9月
- 鈴木正之 教科研の指導過程と範読の位置 教育科学国語教育 No. 143, p. 53~55, 1970, 9月
- 須田実 人物形象の内面的追求——「信号」を指導して—— 教育科学国語教育 No. 124, p. 84~92, 1969, 2月
- 砂田健 中学校段階の速読み指導 教育科学国語教育 No. 137, p. 70~75, 1970, 3月
- 相馬信男・吉川数 文学作品の指導過程のあり方―― 三方式の比較から指導過程の提案まで―― 教育科 学国語教育 No. 136, p. 56~74, 1970, 2月
  - 教材と発達とに応じた学習指導の基本過程。1. 教材しらべ 2. 全文の範読 3. 全文についての話しあい 4. 各部分の精査 5. 全文の黙読 6. 主題の確認 7. 全文の朗読 8. 練習 9. 発展(感想文・読書) 10. 評価
- 園木公謹 **漢字・漢字語の指導 学級づくりと書く**ことの学習 児言研国語 No. 25, p. 32~38, 1970, 8月
- 園木公謹 説明文の読み・授業「ジャガイ モの 花と 実」実践報告 児言研国語 No. 21, p. 15~20, 1969, 9月
- 高橋俊三 「文章の構成に注意して読むこと」について 東京学芸大学附属世田谷中学校研究紀要 p. 1 ~10, 1970, 3月
- 高橋和夫 範読は声の演技である――範読はどの段階 に位置づけるか 教育科学国語教育 No. 143, p. 5~10, 1970, 9月
- 高橋金次 要約文の長さについて 教育科学国語教育 No. 146, p. 17~20, 12月
- 武田政市 意図的に読ませ・書かせる――一次感想の 扱いを実践の中でどう位置づけているか―― 教育

科学国語教育 No. 142, p. 41~46, 1970, 8月 武部優子 東京児言研では何が話し合われたか 提 案・「ベロ出しチョンマ」をわたしはこう読んだ 児言研国語 No. 22, p. 30~33, 1969, 11月

武部優子 説明文指導の系統 ペンギンはなんきょくにも 児言研国語 No. 23, p. 8~14, 1970, 1月 武部優子 低学年の"よみ" ——要旨を正確に読みとるための指導過程研究—— 教育科学 国語 教育No. 141, p. 49~53, 1970, 7月

田島伸夫 「杜子春」(教出·中三) 児言研国語 No. 19, p. 16~24, 1969, 3月

田島伸夫 主題と教材分析 児言研国語 No. 26, p. 14~20, 1971, 1月

田中濶 小学校中学年の文学教材研究――はまひるが おの『小さな海』を具体例に―― 教育科学国語教 育 No. 145, p. 19~24, 1970, 11月

田中恭子 文学教材において思考力を深めさせる指導 法 練馬区教委研究集録 p. 1~10, 1970

田中久直 展開時における「考え方」の指導 教育 科学国語教育 No. 129, p. 45~50, 1969, 7月 橘礼子 一時間の授業 おじいさんのランプ――第一 次感想を大切にして心情を読む指導―― 国語の教育 No. 26, p. 46~61, 1970, 6月

田村正巳 教科研の指導過程の特質 教育科学国語 教育 No. 136, p. 38~40, 1970, 2月 指導過程

# 1. 導入

- (1) 形象をつつむ時代背景
- (2) 文脈の外で扱える難語句の指導
- (3) 作品のできた時代,作家
- (4) ときには主題も考える

# 2. 形象の知覚の段階

A 一次読み――単語・単語のくみあわせ・文・文脈のつくる描写内容を読みとること、単語の選択・ずらし・文法的現象の選択・省略・間接的表現などによる表現内容の読みとり。

B 二次読み―――次読みでは読みとれない表現内容の読 ~63, 1969, 1月

みとり、表現手段の選択の意義づけ、全文脈に位置づけ ないと理解できない表現内容の読みとり。

#### 3. 形象の理解の段階

生活現象の本質である主題と感情・評価的態度である理想をあきらかにする。(場面にきって,内部構造を調べ,人物の性格をあきらかにしながら,作品全体の構造を分析する。)

#### 4. 総合読みの段階

主題・理想がわかったあとで、はじめて意味のわかる表現を読みとることと表現読みをする。

#### 5. 終末

読みとったことの定着、他作品への発展、感想発表、感想文を書くなどの仕事をする。(S·M)

田村実枝子 「なめとこ山のくま」の主題にせまって 教育科学国語教育 No. 124, p. 46~54, 1969, 2月 田村黎子 総合読みによる絵本の「よみきかせ」―― 幼稚園での実践―― 児言研国語 No. 22, p. 50 ~55, 1969, 11月

田宮輝夫 小学校低学年を例に――『子ウシの話』の 読み方指導の記録から―― 教育科学 国語 教 育 No. 134, p. 54~68, 12月

中学生の読書研究会 V小説「坊ちゃん」の作品研究 (下) ――評論の分析―― 学校図書館 No. 222, p. 49~56, 1969, 4月

中学生の読書研究会 「次郎物語」はどう読まれているか 学校図書館 No. 242, p. 53~58, 1970, 12月

中学生の読書研究会 VII「坊ちゃん」の読書指導 学校図書館 No. 225, p. 53~59, 1969, 7月 中学生の読書指導 国語科における読書指導 学校 図書館 No. 226, p. 43~48, 1969, 8月

中学生の読書研究会 IV 小説「坊ちゃん」の作品研究 (上) ——作品の研究—— 学校図書館 No. 220, p. 43~49, 1969, 2月

中学生の読書研究会 Ⅲ 小説「坊ちゃん」をどのように読んだか(下) 学校図書館 No. 219, p.57 ~63, 1969, 1月

- 東京学芸大学附属世田谷小学校 文学作品の鑑賞指導 研究紀要 No. 11, p. 45~77, 1969
- 東京説明文研究班 説明文教材の研究「むかしのしょうぽう」 児言研国語 No. 24, p. 44~48, 1970, 5月
- 鳥越信 童話・物語と範読の役割 教育科学国語教育 No. 143, p. 23~28, 1970, 9月
- 徳良一夫 文法教育の実践と批判「小学校六年生 複 文(体言修飾の系列として)」 児言研国語 No. 24, p. 11~16, 1970, 5月
- 栃木県矢板市立矢板中学校 「ことばに関する事項の 指導計画と指導方法」 1970
- 中西淑叙述に即して、ていねいに読みとらせる教育科学国語教育No. 138, p. 67~73, 1970, 4月中西昇いわゆる「範読」の用途とその位置づけ教育科学国語教育No. 143, p. 17~22, 1970, 9月中浜康光中学校における教材研究——「ラスコー洞
- 中浜成元 中学校におりる教材研究―― 「ラスコード 窟の壁画」を具体例に―― 教育科学国語教育 No. 145, p. 43~48, 1970, 11月
- 長沢昭治 小学校中学年授業の研究——発問を精選するための授業研究—— 教育科学国語教育 No. 139, p. 62~66, 1970, 5月
- 長野県飯田市追手町小学校 学習記録による読解・鑑 賞の授業の指導について 1970
- 夏目武子 文教研の指導過程と範読の位置 教育科 学国語教育 No. 143, p. 59~61, 1970, 9月
- 滑川道夫 読みの速度――「星の王子さま」の読書を めぐって―― 国語の教育 No. 25, p. 32~36, 1970, 5月
- 難波喜造 大学教育における範読の位置づけ 教育 科学国語教育 No. 143, p. 11~16, 1970, 9月
- 西沢正太郎 どこに子どもの目がとまるか――文学教 材の扱い方―― 国語教育相談室 No. 132, p. 4 ~6, 1970, 11月
- 布川光明 かいとは絹をはく――感想(主体的創造的 鑑賞) 啓発・拡充・深化の過程で―― 教育科学国

- 語教育 No. 124, p. 37~45, 1969, 2月
- 長谷川孝士 認識深化の過程を中心に――説明的文章 の指導過程はどうあるべきか―― 教育科学国語教 育 No. 141, p. 28~30, 1970, 7月
- 長谷川孝士 小説と範読の役割 教育科学国語教育 No. 143, p. 35~40, 1970, 9月
- 被多野文夫 通読の段階で主題の確認を――「すずき とおこぜ」の授業から―― 教育科学国語教育 No. 124, p. 75~83, 1969, 2月
- 花田修一 「あすなろ物語」を例に――文学の授業の どの段階で範読をしたいか―― 教育科学国語教育 No. 143, p. 79~84, 1970, 9月
- 原子修 鑑賞指導——中学生を対象として——(詩の 指導・鑑賞と創造) 国語の教育 No. 13, p. 38 ~45, 1969, 5月
- 原田進 小学校中学年の文脈指導——文脈技能指導の 効果的方法—— 教育科学国語教育 No. 137, p. 44~51, 1970, 3月
  - 林進治 漢字漢字語の指導 1 浅間台小学校の実践 漢字指導の系統と方法 児言研国語 No. 25, p. 13~18, 1970, 8月
  - 林進治 総合的に読みすすめる中で 教育科学国語 教育 No. 124, p. 23~28, 1969, 2月
  - 林進治 展開における発問の精選――みずから問い・ 答え・みんなで考え合う学習へ―― 教育科学国語 教育 No. 139, p. 46~51, 1970, 5月
  - 林田哲治 はだかの王様 (光村・四年上) 児言研 国語 No. 19, p. 1~8, 1969, 3月
  - 馬場正男 学習の方法の改造から――発問過多からいかに脱出するか―― 教育科学国語教育 No. 139, p. 11~16, 1970, 5月
  - 伴定子 現場で読解に取り組んでいる姿について ――與水先生への手紙――国語教育の近代化 No. 83, p. 38~53, 1969, 6月
  - 菱沼太郎 「大工とおに六」(大日本図書版)についての若干の意見 児言研国語 No. 18, p. 30~33,

読書科学 (XIV, 3, 4) 1969、1月

菱沼太郎 「ベロ出しチョンマ」の作品分析と実践 児言研国語 No. 22, p. 3~12, 1969, 11月

平尾義一・見勢護 リレー授業――「ものの名まえ」 国語の教育 No. 27, p. 52~62, 1970, 7月

広瀬省三 文法教育の実践と批判 高校一年・わたし の文法指導 児言研国語 No. 24, p. 27~32, 1970, 5月

深萱和男 一次感想についての感想——-次感想の扱 いをどう考えるべきか―― 教育科学国語教育 No. 142, p. 17~21, 1970, 8月

深沢完興 読みにおける直観の内容――一次感想の扱 いを実践の中でどう位置づけているか―― 教育科 学国語教育 No. 142, p. 11~16, 1970, 8月

深美和夫 小学二年の要約技能の指導 教育科学国 語教育 No. 146, p. 39~43, 1970, 12月

福井大野市有終西小学校 創造性をのばす学習指導 1970

育てる国語科学習指導法の研究 1970

福島県田村郡三春町立三春小学校 学習効率を高める 国語科授業過程の研究 1970

説明的文章を対象とし、ひとりひとりの学習方法を重視し た授業過程についての実証的研究。(T・I)

福村保 要旨・要点・要約の関連 教育科学国語教 育 No. 146, p. 9~12, 1970, 12月

藤井圀彦 〈授業研究〉大造じいさんとがん――国語 科五年読書指導—— 教育研究 1969, 3月

藤井圀彦 六年生の読書指導――めもあある美術館 教育研究 1969, 11月

藤倉文子 小学校一年の要約技能の指導 教育科学 国語教育 No. 146, p. 33~38, 1970, 12月

船越コト <一時間の授業>情報化社会における読書 指導の役わりとその方法――「かにむかし」における 映像利用の手法について―― 国語の教育 No. 32, p. 58~72, 1970, 12月

吉田拡 教材研究の角度さまざま――松永信一氏の 「大きなシラカバ」解釈について―― 国語の教育 No. 23~26, 1970, 3, 4, 6月

吉田拡・西郷竹彦 〈往復書簡〉詩教材をどう読むか ――三好達治「雪」をめぐって―― 国語の教育 No. 22, p. 72~84, 1970, 2月

古屋敷雅弘 天気とわたしたちの生活(教出、四年下) 児言研国語 No. 20, p. 2~9, 1969, 6月

益子広則 作家との対話を持とうとする目 教育科 学国語教育 No. 131, p. 42~48, 1969, 9月

増淵恒吉 指導法の問題点 教育科学国語教育 No. 125, p. 19~25, 1969, 3月

松田和典 文学的教材の研究『フランダースの犬』と いうのは 児言研国語 No. 24, p. 39~43, 26, 1970, 5月

松山市造 意見 (1) サスペンスに富んだ授業だが教 材解釈に疑問が残る 児言研国語 No. 18, p. 23 ~26, 1969, 1月

福島市桜木町立福島第二中学校 主体的な学習態度を 松山市造 説明文教材発掘・試案「考えるはたらき」 小学校六年—中学校一年用 児言研国語 No. 23, p. 56~64, 1970, 1月

> 「体系+は」が文頭にある文の生成につい 松山市造 て 児言研国語 No. 24, p. 33~38, 1970, 5月 養手重則 主題把握の指導過程の類型 教育科学国 語教育 No. 124, p. 29~36, 1969, 2月

> 宮崎県児湯郡都農東小学校 国語科学習指導法の研究 1970

> 宮下尚 児童に読むことを明証しようとする学習を ---物語の読解学習活動の改善と整備--- 国語教 育の近代化 No. 93, p. 35~48, 1970, 4月

> 宮田正直 小学校三年の要約技能の指導 教育科学 国語教育 No. 146, p. 44~50, 1970, 12月

> 村松友次 一読総合法の指導過程と範読の位置 教 育科学国語教育 No. 143, p. 47~49, 1970, 9月 望月久貴 主題探知の問題 教育科学国語教育 No. 124, p. 11~16, 1969, 2月

作品を読んで主題を探知する方法は、これを大きく二つに 分けることができよう。一つは、読解の姿勢を通す過程にお いて探知するものである。もう一つは、鑑賞の姿勢を通す過 程において探知するものである。

読解(読解指導ではない)の姿勢と,鑑賞(鑑賞指導では ない) の姿勢とは、一般的な自由読書においては、同時的に 重複するのがふつうである。したがって、主題の探知も、期 せずして両面的に行なわれる。しかし、国語教室の実状で は、このような同時重複的な読みの姿勢は、通読段階や整理 読みの段階でしばしば見られるだけである。一般的には、読 解指導や鑑賞指導の形で扱われるから、前者では読解、後者 では鑑賞という姿勢が、むしろ単独にとられる。

#### ●読解の過程

- 1. 叙述
- 2. 内容の直線的理解 〉 「主題」の探知
- 3. 内容の立体的理解

# ●鑑賞の基本的指導過程

- 1. 想像をはたらかせながら、作品を読んで感動し、感想 を軽く述べ合う。
- 2. 初発の感想について、感動の根拠を表現・内容(人物 ・事件など)・主題などの観点で話し合い、問題をとら える。
- 3. 人物の心情や場面の情景などを表現(描写・説明)に 即して味わいながら読み通す。
- 4. 文章全体の表現で、特に感動した箇所をとり出して味 わう。
- 5. その感動に関連して、感想にまとめて発表する。

 $(S \cdot M)$ 

- 森幸昭 (小)主体的な読みの力を高めるために――要 旨を正確に読みとるための指導過程研究―― 教育 科学国語教育 No. 141, p. 54~59, 1970, 7月
- 森安雄 小学校高学年の文脈指導---文脈技能指導の 効果的方法—— 教育科学国語教育 No. 137, p. 52~57, 1970, 3月
- 森本喜八 読書に親しみ、慣れさせるために――読書 カードの利用 国語の実践(東京都中国研) No. 7, p. 51~56, 1969, 3月
- 森本正一 (中)読みの心理をふまえた指導過程---要 第一次<みとおし読み>

旨を速く読みとるための指導過程研究―― 教育科 学国語教育 No. 141, p. 78~83, 1970, 7月

(小)過程構造をだいじに――要旨を速く読 山下輝典 みとるための指導過程研究―― 教育科学国語教育 No. 141, p. 66~71, 1970, 7月

わたしは主題をこう考える 山下七郎 児言研国語 No. 26, p. 24~25, 1971, 1月

山田象三 「定ちゃんの手紙」(5年)の実践記録 児言研国語 No. 20, p. 43~48, 1969, 6月

山田象三 「定ちゃんの手紙」(3年)の作品分析 児言研国語 No. 19, p. 35~46, 1969, 3月

山梨県北巨摩郡長坂中学校 教育課程の整備と指導法 の改善 1970

読むことの指導を能率的にするために指導計画や指導法を どのように改善したらよいかの実証的研究。(T·I)

山本正次 〈授業記録〉科学者の伝記「ルーサー・バ ーバンクトを読む 国語の教育 No. 22, p. 44~ 59、1970、2月

横浜児言研 大自然にいどむ(学図・六年下) 児 言研国語 No. 20, p. 10~17, 1969, 6月

- 小学校低・中・高の発展的系統---要約の 横山克巳 技能の発展的系統をどう考えるか―― 教育科学国 語教育 No. 146, p. 21~26, 1970, 12月
- 米沢憲一 小学校上学年の音読・黙読指導 教育科 学国語教育 No. 137, p. 81~86, 1970, 3月
- 米山文範 小学校低学年の音読・黙読指導 学国語教育 No. 137, p. 76~80, 1970, 3月
- 吉田伴治 授業・六年生の実践から 児言研国語 No. 22, p. 12~17, 1970, 11月
- 中学校の音読・黙読指導 教育科学国語教 渡辺武 育 No. 137, p. 87~92, 1970, 3月
- 渡辺皓介 指導の内容による精選研究――発問構成に おける精選のためのくふう―― 教育科学国語教育 No. 139, p. 29~34, 1970, 5月

一関市山月小学校の指導過程

# 全文読み――直観的・印象的把握

- ・主題の予想(題目しらべ、感想発表、新出語句)
- ・事象の概観(あらすじ,構想しらべ,難語句しらべ)

# 第二次<ふかめ読み>

部分読み――事象と心情の統一的把握(主題にせまる)

- ・内容探究
- (a) ひとり読み
  - ・書きこみ
  - ・書き出し
- (b) 話しあい
  - ·(a)をもとにして話しあう
- (c) 関係づけ
  - ・語と語、文と文、段落と段落、部分と部分を関係づけながら全体をとらえ、主題にせまっていく。

# (d) あじわい読み

・学習した部分ごとに、読解のまとめとした。

第三次<たしかめ読み>

全文の読み---内面的, 本質的把握

- ・主題確認
- ・あじわい読み (感想文)
- ・練習(文字・語句・語法のたしかめ) (S・M)
- 渡辺宏 終末時における「考え方」の指導 教育科 学国語教育 No. 129, p. 51~56, 1969, 7月
- 渡辺正巳 小学校六年の要約技能の指導 教育科学 国語教育 No. 146, p. 62~69, 1970, 12月
- 渡辺守順 高校国語の現実をふまえて 実践記録 読書感想文の指導 国語の教育 No. 16, p. 59~66, 1969, 8月

# 海 外 情 報 1969, 1970\*

東京教育大学 高 木 和 子\*\*

- 2 文盲に対する問題
- 3 教員養成に関する問題

その他, 教科書の著者, 児童文学者, 研究者などとの 会合ももたれた。

# IRA第14回年次大会 (1969)

4月30日から5月3日まで、ミズリー州カンサスシティで開催。主題は、読みに対する挑戦と機会(Challenge and Oppotunities in Reading)であった。主な催し物別にそのテーマ、傾向などを簡単に紹介する。

#### ○将来問題会議

テーマ:両親と読み

主な話題:読みの教育に対する両親の関心

学校での読みのスキルの発達

家庭での読みの指導

両親および環境

# ○大会前研修会

以下の七つのテーマ別におこなわれた。

- I 中学校の教科課程における読み
- Ⅱ 小学校教師に対する読みの矯正
- Ⅲ 文化的差異に対応する学習パターンの変化
- IV 僻地の読みのおくれた児童に対する読みのプログラム
- V 総合短大における読みの指導
- VI 教育の機会に恵まれなかった青年に対する読みの プログラム
- VII 言語を異にする学習者に対する読みの指導 ○ゼミナール

学校長,読みのコンサルタント,学校の読書診療所や 読書センターの指導者,大学の読書診療所や読書センタ

ての2年間の海外における読書研究活動中最大の行事は、1970年8月にシドニーで開かれた第3回世界読書会議であろう。過去2回の会議にはわが国からも代表が出席したので近しく報告を聞くことができたが、今回は、報告書もまだ入手できないため、プログラムからその概要を知るにとどまっている。また、例年のように、アメリカにおけるIRAの年次大会は盛大に催された。本稿では、プログラムからみた、世界読書会議の概要、IRAの1969、1970年の2回の年次大会の主な内容と傾向、教師のために開催された研修会の動向の三つについてのべる。

# 第3回世界読書会議

1970年8月7日から9日までの3日間,オーストラリアのシドニー市で開催された。この大会はWCOTP(教職員世界連合)の大会と共同主催であったため,独自のテーマをかかげることができなかった。主な内容は次のようである。

第1部会 発達的読書

第2部会 WCOTP と IRA の共通テーマ (不明)

第3部会 読みと読み手の問題:各国における挑戦

第4部会 不明

第5部会 70年代の読み:各国における挑戦

第6部会 読みの将来

パネルディスカッション

1 第2言語として英語を話す人々の問題

- \* Information abroad in 1969 and 1970.
- \*\* TAKAGI, Kazuko (Tokyo University of Education)

- の指導者の四つの職分の者がそれぞれゼミナールをもった。

#### ○シンポジウム

- I 読みの理論的モデルと過程
- Ⅱ 読みの鍵を握る問題に対する心理言語学の適用
- Ⅲ 読書不振の環境的・心理的要因
- Ⅳ 非公式な (個人作成の) 読みのテストの妥当性

#### ○研究報告

以下のような内容の研究報告がなされた。

- ・大学での読み
- 言語がいかに読みに影響するか
- 知覚と読み
- 教師の再教育
- 評価と診断
- 障害児に対する読みの指導
- 児童図書の分析
- 理解度の測定
- 入門期の読み
- 治療読書
- ・読みの成績に影響する諸要因

#### 〇全体部会

この部会は、IRA首脳部による以下の講演を中心と して行なわれた。

ハリス, A. J.

読みを有効に教える教師

デール, E.

読みの将来

ダウニング, J.

子供の読みについての考え方

ゲイツ, A. I.

読みの教育の未来

アートレイ, A.S.

読みの指導における教師側の変数

スミス, N.B.

読解の諸側面

デートリッチ,D·M·

# 読みにおける挑戦

これらの講演内容は、大会抄録の他に、IRAの雑誌 The Reaing Teacher, vol, 23, No. 3, 1969 に掲載されている。

#### ○主題部会(読みにおける挑戦)

この部会では、本大会の主題である「読みにおける挑戦」を軸として、具体的な実践主題15について、発表・討論がおとなわれた。

- 1 教材の選択と使用
- 2 読みの導入以前での技能
- 3 入門期の技能
- 4 読みへの動機づけ
- 5 教室でのテストの有効な利用法
- 6 図書館や教科課程資料の利用
- 7 読みのプログラムの改善のための研究成果の使用
- 8 教師は経験の背景を広げるためにより多く読まね ばならないということ。
- 9 適切な読みの速度
- 10 教室および学校での、矯正・治療のプログラム
- 11 成人の読み書き能力を促進するためのプログラム
- 12 各教科における読みの指導の改善
- 13 効果的な読みの教育の組織
  - 14 児童文学の効果的な使用
  - 15 読みの指導のための専門家の導入とその養成

その他,55にものぼるテーマ別に部会がもたれた。この55を大きく分けると、レディネスや読みの基礎的スキルに関するもの、発達やそれに応じた読みのプログラムに関するもの、不振児の治療、優秀児の問題、他教科との関連、教材の問題、他の分野特に言語学の成果の導入などがあげられよう。さらに新しい傾向として、児童文学や図書館、批判読みなど、いわゆる読書指導的な要素と読みの指導の問題や、読解のプロセスといったわが国での研究と同じような問題がとりあげられはじめている。

# IRA第15回年次大会 (1970)

5月6日から9日まで、カリフォルニア州アナハイムで開催。主題は、読みと個人 (Reading and the Individual)。以下、14回大会と同様に紹介する。

#### ○将来問題会議

テーマ:世界の民間伝承と民話

特別部会:盲人の読み

#### ○大会前研修会

- Ι 読みの自動化
- Ⅱ テレビと読書
- Ⅲ 読みの治療・矯正
- IV 文化の二重性問題と読み
- V 障害児に対する読みのプログラム
- VI 中学校における読みの学習
- VII 教育的方法論と大学での読み
- WII 読みと学級管理に対する行動修正的接近法。
- ○ゼミナール

前回と同様の形式で行なわれた。

- ○シンポジウム
  - I 児童文学における近代的な思考の接近
  - Ⅱ 読みにおける診断と予測
  - Ⅲ 読みの指導の改善への方略
  - IV 担任教師向けの研究成果の解釈
- ○全体部会

ロビンソン, H.

演題不明

クレランド, D.L. (IRA次期会長)

IRAの将来

ステイガー, R.C.

IRAの過去,現在,未来

バーグ, P.C.

読みの指導の教室での実践

#### ○主題部会

「読みと個人」の主題から派生した、読みの指導の教 室での実践をテーマに行なわれた。

1 基礎的な読みのスキル指導のためのいくつかのア プローチ

- 2 読みにおける10代の成功
- 3 聞きとり
- 4 読みにおける個人の欲求の考慮
- 5 中学年に対する読みの革新
- 6 公立学校に対する読みの奉仕プログラム
- 7 読みの基礎としての言語
- 8 学校管理者と読みの教育
- 9 文化的差異と読みの教育
- 10 読みの教師に対する背景の説明
- 11 高等学校水準の読み
- 12 読みの成績のテストと測定
- 13 読みのレディネスの問題
- 14 効果的な読みの技能の構築
- 15 進んだ児童(優秀児)に対する読みの問題。

これらの他に,各学年での**健全**な実践という目標で, 学年ごとの討論会も催された。

# ○部会

74もの主題をかかげた部会が開かれた。主な傾向としては、大会の主題に沿った児童の個人差、性差、文化的背景、言語などを考慮に入れたものがとりあつかわれたことがあげられよう。大きな領土をもつアメリカでは、有効な指導法を画一的に考えただけでは解決できぬ問題にぶつかり、Mass の問題から個へ立ち帰ってきているのであろう。

#### 教師のための研修会

# ○ I R A地域会議

1969年2月21・22日, アリゾナ州ツクソンで開催。主な議題はの次ようであった。

- 1 読みを通しての子供の潜在能力の発達
- 2 二重母国語問題
- 3 行動異常
- 4 学習困難

#### ○大学主催の研修会

毎年研修会を行なっている大学と、この2年間の主題 だけを掲げる。 • テンプル大学

69年 思考一言語一読み

70年 読みの指導の基礎的技術

• 南メソジスト大学

70年 実際的経験と行動観察

• マーケッティ大学

69年 読みにおける今日の問題

70年 読みの指導――その次元と挑戦

# 会

# 常任理事会(46年1月18日)

(1) 機関誌発行の件

「読書科学」No49・50合併号は一月中に発行の予定。 No51・52号は本日編集を終わって、印刷所に回す。次い でNo53・54号はやはり合併号として、年報と研究とをま とめて載せることにする。

学会誌は季刊にすることが望ま しいので、明年度の No55からは常態に復することとした。

(2) 副会長依嘱の件

前回態度を保留していた滑川道夫氏は、副会長を受諾 した。

(3) 46年度大会のテーマ決定の件

いろいろの意見が出たが結論を得ず、次の理事で決め ることにした。岡田・倉沢・阪本一・阪本敬・滑川。

# 公開研究会(1月23日)

津久戸小学校で出雲路猛氏の「児童文学におけるファ ンタジー論」(司会,滑川道夫氏)を中心にして開い た。

#### **企画委員会**(1月25日)

本年度大会は8月3日、4日の2日間とする。会場は 都立教育研究所と予定し、滑川副会長が交渉に当たる。 第二候補として私学会館を予定する。

テーマは「読書による人間開発」と決定。ただしこの

・ジャージー州立大学

69年 創造的読み,批判的読みの発展

70年 宇宙時代の読み

• シラキュー大学

69年 読みに対する理由

70年 70年代における読みの問題と革新

• フェアライデッキンソン大学

69年 詩の指導

ので、倉沢理事からメモを発表してもらい、数回にわた って討議をする。その上で「基調提案」として発表する ことに決めた。提案者を交えた約3名の発言をもって 「シンポジウム」を構成する。

別に講演を1本立てる。やはりこのテーマを主題にし て、清水幾太郎氏に依頼してはどうかとの案が出た。

#### **公開研究会**(2月27日)

津久戸小学校で村石昭三氏の「幼児期の文字の教え方 と絵本」(司会,佐藤泰正氏)を中心として開いた。

#### 常任理事会(3月1日)

(1) 機関誌発行の件

「読書科学」の49・50号は、やっと校了になった。51 ・52号はすでに編集を終わっている。

(2) I.R.A. 年次大会の件

4月20日~23日、ニュージャージー州のアトランティ

ク・シティで開催される。

(3) 国会図書館の児童図書の公開閲覧を要請する件 事務連絡所から中間報告があった。

(4) 本年度研究大会の企画の件

1月25日の企画が報告され、承認された。

# 常任理事会(3月30日)

(1) 本年度研究大会の件

会場は都立教育研究所に決定した。基調提案について 討議が行なわれた。

(2) 本年度公開研究会企画の件

5月=倉沢,6月=室伏(出雲路),9月=阪本敬(佐 問題については学会自体の共通理解を深める必要がある 藤),10月=望月(増田),11月=岡田(村石),2月=

岡本(福沢)に決定。カッコ内は司会者。

# 常任理事会(4月30日)

# (1) 機関誌発行の件

「読書科学」51・52号は印刷所には印刷所にはいっている。53・54号は目下編集を急いでいるが、これで昭和45年度の機関誌の発行が完了する。次いで55号は、5月末の〆切である。

(2) 機関誌特集号発行の件

次回常任理事会の前に、「読書とは何か」について討議を行ない、これを録音して、特集号とすることが決まった。

#### (3) 本年度研究大会の企画の件

倉沢理事が欠席のため、大会のテーマについて討論は 行なわれず、シンポジウムの役割は、次のように決まっ た。 基調提案者倉沢氏、 討論者入谷氏、 岡田氏、 室伏 氏、司会者村石氏。

# 受贈 図書類

国立国会図書館:国立国会図書館所蔵・児童図書目録、

上巻, 昭46

国立国会図書館:逐次刊行物目録,昭和44年版

山本隆三:読書力をささえる要因についての一考察, 西

宮市立教育研究所(孔版)昭46

有明工業高等専門学校紀要,第7号,昭46

総理府青少年対策本部:青少年問題に関する文献目録、

1,昭46

同青少年問題に関する文献抄録集, 1, 昭46

同:青少年問題に関する委託研究調査結果の概要(昭和 44年度), 昭46

同:青少年の連帯感などに関する調査報告書(速報)昭 46

同:青少年の連帯感などに関する調査報告書(全国編) 昭46

Youth Bureau, Prime Minister's Office: Japanese youth, from the inquiry on the ways of thinking of youth. 1971

# IRA (国際読書学会) 入会のおすすめ

International Reading Association は 1955年に設立された国際的な読書科学研究の機関で、日本読書学会もこれに加盟しています。日本読書学会の会員で IRA にも入会を希望される方は、下記の要領で入会のあっせんをいたします。

記

- 1. あっせんを受けるのは日本読書学会の会員に限ります。
- 2. IRA の会員には次の3種の雑誌が配付されます。 希望の雑誌名を申し出て下さい。
  - (a) The Reading Teacher (小学校の読書教育を中心としたもの)
  - (b) The Journal of Reading (中学校以上成人までの読書を中心としたもの)
  - (c) Reading Research Quarterly (読書科学研究の専門誌)
- 3. 会費は年額次の通りです(海外会員割引額)

雑誌1種類の配付を希望する者

7ドル

雑誌2種類の配付を希望する者

13 ドル

雑誌3種類の配付を希望する者

19ドル

雑誌3種類プラス年度内の全刊行物を希望する場合30ドル

4. 新入会希望者は 1 ドル 500 円の割合で計算した会費を現金書留でお 送 り 下 さい。

送り先 東京都文京区音羽 2-12-21 野間教育研究所 阪本 敬彦

- 5. 雑誌は IRA から直接送られますので、住所氏名には必ずふりがなをつけて下 さい。
- 6. 継続の方は、IRA から Renewal Notice が届いてから2週間以内に御送金下さい。その際 Renewal Notice を必ず同封して下さい。
- 7. IRA から会員証を受けとられましたら、会員番号を阪本宛に御通知下さい。
- 8. この件についてのお問合わせは,野間教育研究所 阪本敬彦 945—1111 内線 749 にお願いします。

# THE SCIENCE OF READING

# **EDITORS**

Shinichi Masuda

Takeshi Murofushi

Akira Okada

Ichiro Sakamoto

Takahiko Sakamoto

John Downing

Donald Leton

Published by The Japanese Society for the Science of Reading c/o Department of Child Study, Japan Women's University, Japan.

# CONTENTS

# Original Articles

Some	e comments on reading guidance (1)
Early	y Showa discussions on subject headings for juvenile
	catalogs in Japan ·······77
Read	ling guidance program for primary levels ···········MIZUNO, S.······82
Materials	
Expe	ectations for reading interest testsSAKAMOTO, I96
Japa	nese bibliography of reading research, 1969—1970······ JSSR ···· 100
Info	rmation abroad in 1969 and 1970 ······ TAKAGI, K.···· 130
Official Nation	

第14巻 第3・4号

会員頒布(会員外頒価 800円)

<通巻 第53⋅54号>

東京都文京区目白台2-8-1 日本女子大学家政学部版本研究室内 振替東京3213番

昭和46年10月20日 発行

編集•発行者 日 本 読 書 学 会

代表 阪本一郎

発 行 所 日 本 読 書 学 会